福島県教育委員会委託 人権教育開発事業

平成２９年度田村市常葉地区人権教育

研 究 成 果 報 告 書

田　村　市　教　育　委　員　会

田村市常葉地区幼小中連携推進委員会

福島県教育委員会委託
平成２９年度人権教育開発事業

平成２９年度
田村市常葉地区人権教育
研究成果報告書

田　村　市　教　育　委　員　会
田村市常葉地区幼小中連携推進委員会

【 巻 頭 言 】

かっぱのすりばち

田村市教育委員会教育長職務代理者　　増田　英子

塙町にある「河童のすり鉢」

村の子どもたちはかっぱのかんきちと仲良しで、夏には片貝川で素もぐりを教えてもらう。しかし、庄屋の息子・じんろくだけは、いつまでももぐれなかった。じんろくは一人で素もぐりの練習をしていて、不幸にも水死してしまう。大人たちは、それをかっぱのかんきちがやったと決めつけ、かんきちの命を奪ってしまう。かんきちの母ちゃんは嘆き悲しむ。その後、村に疫病がはやり、子どもたちが生死をさまよう。すると観音様のお告げがあり、かっぱの母ちゃんに妙薬を作ってもらうしかないという。我が子・かんきちの敵である村の大人たちの願いだったが、かっぱの母ちゃんは、かんきちの友達である村の子どもたちのために引き受ける。母ちゃんは片貝川の大きなすり鉢状の石で妙薬を作り、精根尽きてしまう。子どもたちは母ちゃんの作った妙薬で元気になり、大人たちはかっぱの親子の冥福を祈るのだった・・・

これは、今年度１１月に本市常葉地区にて行われました「人権教育研究発表会」にて、ご講演をいただきました佐藤修先生が地域伝承で語り継がれてきた創作民話をまとめた「かっぱのすりばち」の内容です。かっぱという異端者を、子どもは受け入れるが、大人は排除するばかりか、無実の罪で命まで奪ってしまいます。実力者である庄屋の息子の「死」に対して、弱者・よそ者を犠牲にしてしまったのです。「異端者」「本当の愛」「受け入れること」など、多くのことを考えさせられました。

本市常葉地区では、昨年度、福島県教育委員会から「人権教育総合推進事業」の委託を受け、幼・小・中連携を基盤として研究実践を推進し、ここに２年間の研究の成果を研究成果報告書としてまとめることができました。この度の人権教育の研究実践及びまとめにあたり、ご指導ご助言を賜りました皆様に感謝申し上げ、ごあいさつといたします。

<< も く じ >>

≪巻頭言≫　　田村市教育委員会教育長職務代理者　増田　英子

１　平成２９年度人権教育開発事業　田村市常葉地区事業実施計画 ・・・・・ １

２　常葉地区人権教育実践の記録
（１）　田村市立関本小学校の実践・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ ６
（２）　田村市立常葉小学校の実践・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ ２０
（３）　田村市立西向小学校の実践・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ ３４
（４）　田村市立常葉中学校の実践・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ ４８
（５）　田村市立常葉幼稚園の実践・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ ６２

３　人権教育に関するアンケート集計結果
（１）児童生徒・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・６５
（２）教職員・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・６９
（３）保護者・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・７１

４　常葉地区人権教育研究発表会
（１）　研究発表会要項・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ ７４
（２）　公開授業学習指導案と当日の様子
①　小学校１年「生活」・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ ７９
②　小学校４年「道徳」・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ ８６
③　中学校１年「道徳」・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ ９２
④　中学校２年「音楽」・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ ９９
⑤　中学校３年「社会」・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ １０３
（３）　参観者の感想・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ １０８

５　まとめ　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ １１５

１　平成２９年度人権教育開発事業
田村市常葉地区事業実施計画

福島県教育委員会委託

平成２９年度人権教育開発事業
田村市常葉地区事業実施計画並びに経過

１　調査研究のテーマ

（１）調査研究のテーマ

「自分を大切にし、他の人も大切にするやさしい人づくりをめざして」（２年次）
～一人一人を大切にした授業改善と社会に開かれた人権教育をめざして～

（２）調査研究のテーマを設定した背景

人権教育推進事業の指定を受け、１年次の平成２８年度は、言語活動の充実による授業改善を中心とした授業研究に取り組んできた。人権感覚を養う授業の実践と、学びの基盤である親和的な学習集団の育成を図ってきたことにより、教師はより高い人権意識をもって指導に当たるようになってきた。また、子どもたちにもこれまで以上に自分を大切にし友だちも大切にしようとする態度が育ち、望ましい集団にしていこうとする意識が高まってきた。

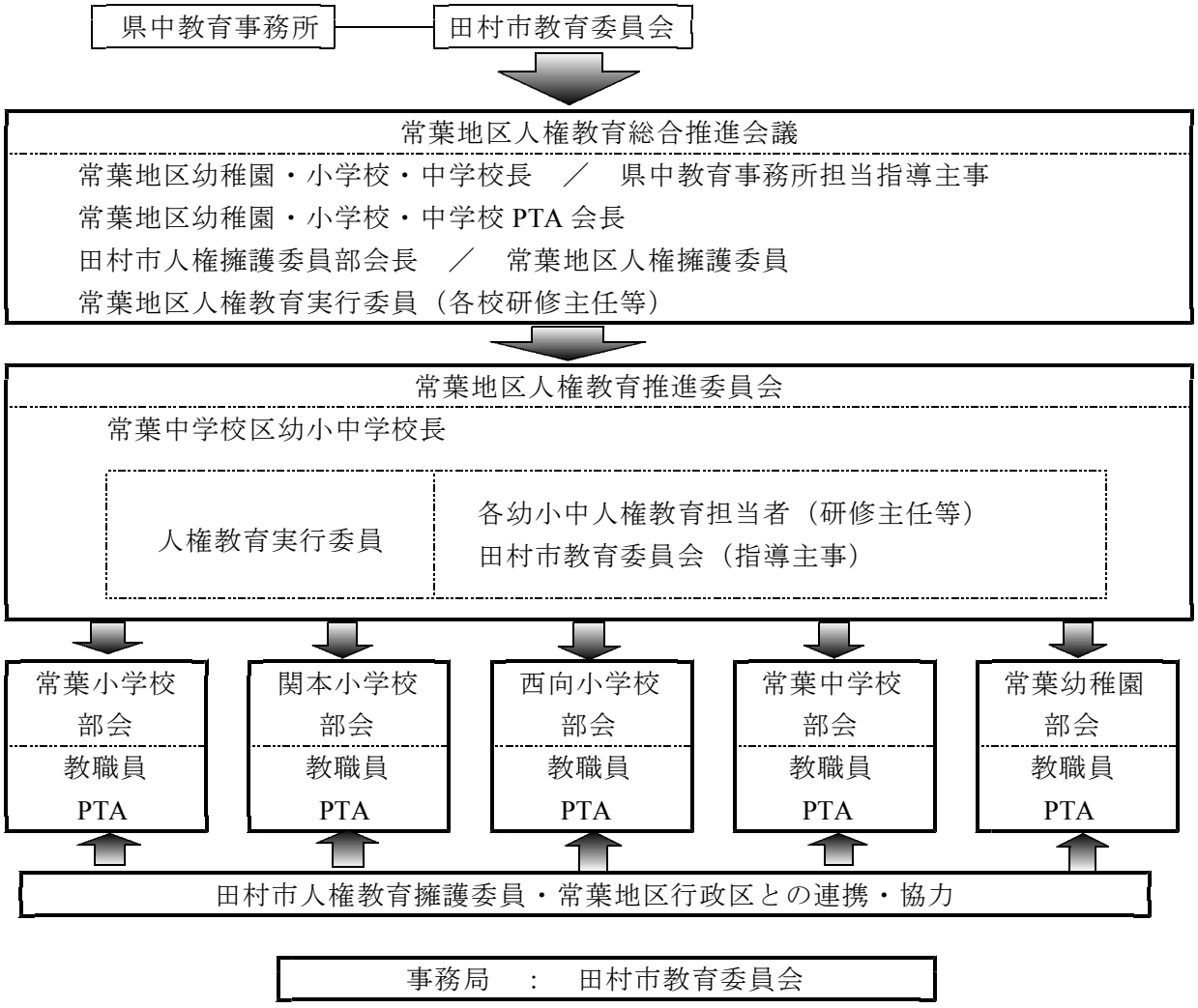
このような成果を受け、２年次はより高い人権尊重の精神の涵養ができるように、次のような視点から人権教育を充実させていきたい。まずは、子どもたちにより深く自分の大切さを自覚させていきたい。次に、人権感覚を養うとともに人権に関する知的理解を深め、子どもたちの中にあたたかい交流が生まれるようにしていきたいと考える。幼稚園児・小学生・中学生がそれぞれの発達段階に応じた人権感覚を発揮し、あたたかい交流そして授業がなされていくことをめざしたい。

昨年、東日本大震災の影響で避難している子どもたちが、原発事故に関するいじめを受けていたという報道があった。福島県民にとっては心が痛む事案であったが、いじめた側に何かのコンプレックスや悩み、自己存在感や自己有能感の欠如等があったとすると、本地域の子どもたちもいじめる側の人間になりかねない事案であり、人権教育の充実とより具体的で個別的な人権課題に対する実践の必要性を感じた。

文部科学省の「次期学習指導要領に向けたこれまでの審議のまとめ」の「社会に開かれた教育課程」の項目には、「学校が社会や地域とのつながりを意識し、社会の中の学校であるためには、学校教育の中核となる教育課程もまた社会とのつながりを大切にする課題であるいじめも、男女差別も、ヘイトスピーチ等も、根本的な解決には学校が取り組んでいる人権教育を地域社会に開き、家庭や地域と一体になって住みよい町作りをめざしていく視点が重要である。そして、一人一人の子どもたちの心にしみ入る涵養の教育を実践するためにも、学校教育の充実と家庭・地域の連携が不可欠と考え、今年度の研究テーマを設定した。

２　調査研究の体制等

（１）推進体制



事務局　：　田村市教育委員会

（２）人権教育総合推進会議の構成

所属・役職、資格、経験等	氏　　名
田村市人権擁護委員・部会長	個人名　略
田村市人権擁護委員・常葉地区人権擁護委員	同
田村市人権擁護委員・常葉地区人権擁護委員	同
田村市立常葉中学校・校長	佐藤　道拓
田村市立関本小学校・校長	吉田　　勇
田村市立常葉小学校・校長	髙島　　仁
田村市立西向小学校・校長	髙橋みどり
田村市立常葉幼稚園・園長	坪井　淑枝
田村市立常葉中学校・PTA 会長	個人名　略
田村市立関本小学校・PTA 会長	同
田村市立常葉小学校・PTA 会長	同
田村市立西向小学校・PTA 会長	同
田村市立常葉幼稚園・PTA 会長	同
福島県教育庁県中教育事務所　指導主事	村越　洋平
その他　実行委員　７名 （各小中学校研修主任等５名・田村市教育委員会担当指導主事２名）	

（３）推進協力校・園の概要

学　校・園　名	学　　級　　数	園児・児童・生徒数
田村市立関本小学校	通常学級６学級 特別支援学級１学級	全児童数　　５４名
田村市立常葉小学校	通常学級６学級 特別支援学級１学級	全児童数　１３２名
田村市立西向小学校	通常学級６学級 特別支援学級１学級	全児童数　　５８名
田村市立常葉中学校	通常学級６学級 特別支援学級１学級	全生徒数　１４６名
田村市立常葉幼稚園	４学級 （４歳児２学級・５歳児２学級）	全園児数　　６６名

３　調査研究の内容等

（１）調査研究の内容・実施計画及び経過

期　　日	内　　容　　等	会場・参加者等
４月　４日	推進委員会（常葉地区校長・園長会） ・人権教育２年次のあり方の共通理解 ・幼小中連携について	常葉小学校　　５名
５月１６日	常葉地区図書館教育推進会議 ・読書を通しての人権教育	西向小学校　　６名
５月２３日	常葉地区小中連携推進会議 ・常葉中学校１年１組・２組授業参観 ・生徒指導推進会議	常葉中学校　５２名
５月２５日	推進委員会（常葉地区校長・園長・指導主事） ・組織、推進計画等検討確認 ・人権教育の地域との連携・啓発の見直し	常葉小学校　　７名
６月上旬	第１回アンケート調査（教職員、児童生徒）	実践校
６月上旬	人権の花運動・人権作文コンクール参加	実践校
６月１３日	推進委員会（校長・園長・指導主事） ・アンケート実施について	西向小学校　　７名
６月２３日	第１回常葉地区学力向上授業研究会 ・常葉中学校２年（国語）授業参観 ＜指導助言＞　田村市立都路中学校長 田中　淳一　様	常葉中学校　３４名
７月１９日	推進委員会（校長・園長・各校人権担当者） ・研究公開に向けて　　日程・会場・要項等	常葉中学校　１０名
８月１８日	推進委員会（校長・園長） ・各校の推進状況、今後の推進確認	常葉幼稚園　　５名
９月　８日	第１回人権教育授業研究公開 ・西向小学校３年道徳、５年算数授業参観 ＜指導助言＞福島県教育庁義務教育課指導主事 藤原　　謙　様	西向小学校　３８名

９月２９日	第２回常葉地区学力向上授業研究会 ・関本小学校５年算数授業参観 ＜指導助言＞県中教育事務所指導主事 森藤　雅之　様	関本小学校　　３３名
１０月中旬	保護者向けアンケート実施・集計	実践校
１１月　２日	推進委員会（校長・園長・指導主事） ・公開運営細案検討確認	常葉小学校　　７名
１１月１７日	福島県人権教育推進協議会 １０:３０～１１:４０予定	文化の舘ときわ 約２０名
	人権教育研究発表会 １３：２０～１６：３０ ・常葉小学校での授業公開 ・常葉中学校での授業公開 ・全体会・講演会（常葉中学校会場）	常葉小学校 常葉中学校 約１００名
２月中旬	田村市教育実践報告会 ・今年度の人権教育の取組を発表予定	田村市文化センター

（２）調査研究により見込まれる成果及び検証方法

①　授業公開における児童生徒の学習状況の把握

・　研究授業及び授業参観時において、参観した教職員・保護者・人権総合推進委員・地域住民に対してアンケートを実施し、授業を通して児童生徒の人権意識・人権感覚の状況を評価する。（各校授業参観時、研究授業実施時、ふくしま教育週間時）

②　意識調査の実施における人権意識や人権感覚の変容の把握

ⅰ　児童生徒に対する人権に関する意識調査「自分・友だち生活アンケート（田村市教委作成）」の実施とその分析による人権意識の変容の把握

・　年２回実施（６月・１月）小学校３年～中学校３年

ⅱ　教職員・保護者に対する人権アンケート（田村市教委作成）の実施とその分析による教職員の指導意識と家庭における人権意識の変容の把握

・　年２回実施（６月・１月）推進校全教職員・推進校全保護者

ⅲ　ハイパーＱ－Ｕテストによる要支援児童生徒数及び必要とする児童生徒への支援内容の把握

・　年２回実施（４月・１０月）　小学校３年～中学校３年

２　常葉地区人権教育実践の記録

（１）田村市立関本小学校の実践

１　研究主題

人権感覚を養い，自他を大切にすることのできる児童の育成 ～道徳教育を中心に協力的・参加的・体験的な学習をとおして～

２　研究主題設定の理由

（１）今日的課題から

現代社会は，科学技術の高度化，情報化など，児童を取り巻く環境は急速に変化し続けており，教育的な課題も多岐にわたり複雑化してきている。「いじめ」「不登校」に象徴されるように人間関係における課題も多い。平成２０年文部科学省から出された「人権教育の指導方法等の在り方について［第三次とりまとめ］」の中では，学校における人権教育の目標として，「児童生徒が，その発達段階に応じ，人権の意義・内容や重要性について理解し，［自分の大切さとともに他の人の大切さを認めること］ができるようになり，それが様々な場面や状況下で具体的な態度や行動に現れるようにすること」と挙げられている。こうした人権教育は，学校のすべての教育活動を通して行われていかなくてはならない。

（２）本校の教育目標から

昨年度より，常葉中学校区が人権教育推進校に指定され人権教育の研究に取り組んでいる。［第三次とりまとめ］では，人権感覚を育んでいくために「学習活動づくり」「人間関係づくり」「環境づくり」が一体となった教育活動全体を通した取組が必要であるとも述べられている。本校では，「学習活動づくり」では，課題を解決する中で，自分の考えや思いを表現できる力を高め，自分や友達の考えのよさを認め合い，学ぶことの楽しさを体験させ，学習意欲の向上に努めている。「人間関係づくり」では，発達段階に応じた生活習慣を身につけ，他者とかかわりながら自他のよさを認め様々な価値に気づき，よりよく生きていこうとする心情や態度の育成に努めている。さらに学校や学級の中で一人一人の存在や思いが大切にされていることを実感することのできる「環境づくり」に努めている。

（３）児童の実態から

本校は，真面目で素直な児童が多く，異学年活動でも協力して活動することができる。少人数の固定した人間関係の中で生活しているため，自分の気持ちや考えを全体の前で表現すること，相手の視点に立って物事を判断し，適切に行動することやその必要性を感じることが課題である。またアンケートの結果を見ると「自分にはよいところがある」「自慢できることがある」という自尊感情や自己肯定感も低い児童も見られる。自分の思いや気持ちを素直に表現し，他者の気持ちや立場を想像して受容する活動や，活動を振り返り自分と他者のよさを認め合う活動を工夫していくことにより児童の自尊感情を高めていくようにしたい。そのために，自力解決によって得た自分の考えを表現するための支援や，学び合いを大切にすることで，新たな課題発見や自力解決への意欲向上，そして自他を肯定的に見つめる目を育てることにつなげたい。

（４）昨年度の課題から

昨年度の研究において，自分の考えを伝えたり，お互いの考えを深め合ったりするための学習集団の形態を工夫したことで，友だちの考えや自分の考えを見つめさせたりする時間と場を確保することができ，お互いの考えを深めていくことができた。また，各

教科，各学年に応じた「学び合い」の場を工夫してきたことで，自分の考えだけでなく多様な考え方があることに気づき，互いの考えを尊重しながら課題解決を目指す児童が多く見られた。しかし，［第三次とりまとめ］で言われているような「日常生活の中で人権上問題のあるような場面や出来事に接した際に，その出来事はおかしいと思う感覚や，日常生活において他者の気持ちを想像したり共感したりする態度や行動を身に付けているという『人権感覚』を育てる」までには，至らなかった。このような人権感覚を身に付けていけば，自分の人権とともに他者の人権を守るような実践行動につながると考え,本主題を設定した。

３　研究主題のとらえ方

「人権感覚」とは，［第三次とりまとめ］も中で，「人権教育を通じて培われる資質・能力の価値的・態度的側面と，技能的側面によって高められる価値志向的な感覚である。価値的・態度的側面とは，自己についての肯定的態度や自他の価値を尊重しようとする意欲や態度などである。技能的側面とは，互いの相違を認め，受容できるための諸技能や他者の痛みや感情を共感的に受容できる想像力や感受性である」と挙げられてる。

「自他を大切にする」とは，自分自身に対して肯定的な感情をもち，自分のよさに気付き自分に自信をもつこと，そして，他者とのかかわりにおいて，自分との違いを理解し，他者の気持ちを受け入れたり，他者の立場になって，相手の気持ちや行動を共感的に理解したりして行動することと考える。

４　研究仮説

人権に関する基本的な知識についての理解を深めさせ，各教科の指導において自他を大切にする学習活動を充実させれば，児童の人権感覚を高めることができるであろう。

５　研究内容

◇　人権が尊重される授業づくり

＜視点１＞人権に関する基本的な知識についての理解を深める工夫

人権教育により身に付けるべき知識は，自他の人権を尊重したり人権問題を解決したりする上で具体的に役立つ知識でもなければならない。(［第三次とりまとめ］より)

各教科・道徳・特別活動・総合的な学習の時間などにおいて，人権とは何なのかということ，自由，責任，正義，個人の尊厳，権利，義務などの諸概念，人権を守るための方法，人権侵害などの具体的問題，そして歴史などを学習する機会を設ける。

＜視点２＞自他を大切にする学習活動の工夫

・自分のよさに気付き，自己肯定感を高めるための活動

・自分の気持ちや考えを表現する場を設定し，他者の意見や気持ちに共感する活動

＜視点３＞自他を大切にするふり返り活動の設定

自分や他者の考えや活動を振り返らせることを通して，自分のよさに気付かせたり，他者とかかわることのよさを実感させたりする。

◇　人権が尊重される環境づくり

・「ありがとうの木」の設置

・QUテストの実施と活用

・異学年交流の充実

実践事例　１	役割演技や吹き出しを活用することにより，友達と仲よく遊ぶことや友達のことを考えて行動することの大切さに気づかせ，友達と仲よく助け合っていこうとする心情を育てていく授業
第２学年 道徳	

平成２９年　６月　５日
授業者　菅野　京子

１　主題名　　友達となかよく　　２－（３）信頼，友情
　　資料名　　「およげないりすさん」（出典：『わたしたちの道徳』文部科学省）

２　研究主題とのかかわり

【視点１】人権に関する基本的な知識についての理解を深める工夫

わたしたちが社会生活を送る上で，相手の立場を理解し，助け合って生活していくことが重要である。本資料の登場人物の心の動きと照らし合わせながら，自他の人権を尊重し，相手の立場になって助け合い，思いやりの心を持って行動することの大切さを考えさせる。

【視点２】自他を大切にする学習活動の工夫

役割演技を行ったり，ワークシートに書いたりすることにより，自分の意見を素直に表現したり，他者の意見や気持ちに共感したりしながら，友達のよさを感じ，友情についての価値を深めさせる。

【視点３】自他を大切にするふり返り活動の設定

終末において，「みんな仲よくするためには」と，自分や他者の考えや活動を振り返らせることにより，友達と仲よくすることの心地よさや友達とかかわることのよさを実感させる。

３　指導計画

時	○教師の指導・支援	人権教育がめざす資質・能力
事前	友達についてのアンケートをする。	人間尊重感・他者尊重感
本時	道徳授業「友達となかよく」	共感力・人間関係調整力・協力的思考力
事後	「ありがとうの木」や帰りの会の「今日のにこにこ」の活動を継続することにより，日常化を図っていくようにする。	コミュニケーション能力 積極的行動意欲

４　本時について

（１）本時のねらい

友達の気持ちを考え，仲よく助け合っていこうとする心情を育てる。

（２）本時における人権教育の手立て

役割演技や吹き出しを活用することにより，相手のことを考えて行動する大切さに気づく。

（３）本時の実際

学習活動と主な発問	時間	・活動の様子
1「友達と仲よくして楽しかったな。」と思ったことを発表する。 ・一緒に遊んだ。 ・分からないことを教えてもらった。	３ （分）	・なかよしアンケートの結果から友達として楽しかったことを紹介することにより，友達の思いを知るとともに，友達について考えていくことに意識を向けさせることができた。
2　資料「およげないりすさん」を聞いて話し合う。 ○「りすさんはおよげないからだめ」と	２７	・話の進行に合わせてパネルを操作し，黒板に構成しながら資料を提示することで，児童が話の内容を理解しやすくすることができた。

言われたとき，りすさんはどんなことを思っていたでしょう。 ・ぼくも一緒に行きたいな。 ・ぼくも泳げれば，みんなと一緒にいけたのに。 ・ぼくだけ仲間に入れなくて悲しいな。 ○島で遊んでいた３人は，どんなことを考えていたのでしょう。 ・りすさんがいないと，つまらないよ。 ・りすさん，一人で寂しいだろうな。 ・りすさんに悪いことを言ったな。 ○次の日，りすを背中に乗せてみんなで島に向かっているとき，かめさんたちはどんなことを考えているでしょう。 ・昨日は，ごめんね。 ・一人ぼっちにさせて悪かったね。 ・みんな一緒だから楽しいよ。 ・りすさんも友達だよ。 ○３人でいる場面と４人で島へ向かっている場面を対比し，楽しくなったのは，どうしてでしょう。 ・みんなで遊ぶほうが楽しいから。 ・友達と一緒だとみんなが楽しいから。		・「泳げないからだめ。」と言われたりすの役割演技をすることにより，仲間に入れてもらえず，一人でいるりすに注目することができ，りすの寂しい気持ちに共感することができた。 ・３人がどんなことを考えて遊んでいるか想像させることで，気持ちが変化していることに気付かせ，りすがいないことで，少しも楽しくないと感じていることを捉えることができた。 ・りすに謝って島に向かっている場面を役割演技させ，４人の気持ちを考えさせ，ワークシートに書くことで，だれとでも仲よく助け合うことの楽しさや喜びに気付かせることができた。 ・２つの場面を対比し，「３人では楽しくなかったが，なぜ楽しくなったのか。」と発問をし，楽しくなったわけを考え，りすのために話し合い，行動したことがみんなの楽しさやうれしさにつながったことに気付くことができた。また，自分の生活の中での友達に対する思いについても考えを深めることができた。
３　自分の生活をふりかえり，友達と仲よくするためにはどうしたらいいか考える。 ・休み時間，一緒に遊ぼうと誘ってくれた。 ・けがをしたとき，優しくしてくれた。	１０	・友達のよさを紹介し，ねらいとする道徳的価値が自分の中にあることに気づかせ，実践意欲を高めることができた。 ・友達と仲良くするためにはどうすればよいか、またそう考えた理由を話し合うことにより，友達のよさについてさらに深めることができた。
４「ともだち」の詩を聞く。	５	・友達に関する詩を聞くことで，友達の大切さやよさを感じることができた。

５　本時における人権教育の手立ての有効性（○）と今後に向けた課題（●）

○　資料提示を視覚に訴えることのできるように工夫したことにより，登場人物の気持ちの変容に共感することができた。

○　４人で島へ向かう場面を吹き出しに書かせたり、役割演技を取り入れたりしたことにより，友達のことを考えて行動する大切さに気付き，互いに助け合おうとする行動意欲を高めることができた。

●　役割演技を行う場面を効果的に取り入れながら、相手の心情を思いやることの大切さに気づかせるようにしたい。

実践事例２ 第３学年 道徳	役割演技を通してお互いの立場や気持ちを理解するとともに，友達のことを考えて行動することの大切さに気づかせ，友達と助け合っていこうとする心情を育てていく授業

平成２９年　７月７日
授業者　遠藤　恵美子

１　主題名　ほんとうの友達　　２－（３）信頼友情
資料名　「なかよしだから」（出典：『明るい心で』東京書籍）

２　研究主題とのかかわり

【視点１】人権に関する基本的な知識についての理解を深める工夫

本主題では，友達のことをよく考えて，友達を大切にすることの大切さを学んでいく。本当の友達だからこそ，相手を思いやって，互いに悪いところを注意し合い，教え合うことの大切さに気づかせる。

【視点２】自他を大切にする学習活動の工夫

役割演技を行ったり，ワークシートに書いたりすることにより，登場人物の気持ちに近づいたり，自分の考えを深めたり，他者の意見や気持ちに共感したりしながら，本当の友達として友情についての価値を深めさせる。

【視点３】自他を大切にする振り返りの活動の設定

終末において，「ほんとうの友達とは」と，自分や他者の考えや活動を振り返らせることにより，本当の友達とは，友達のわがままを受け入れたり，過ちを黙認したりすることではなく，互いのためにどうあるべきかをよく考え，ともに向上しようと努力することが真の意味の友情なのだということに気づかせる。

３　指導計画

時	○教師の指導・支援	人権教育がめざす資質・能力
事前	「友達がいてよかった」と思ったときを振り返る。	人間尊重観・他者尊重観
本時	道徳授業「ほんとうの友達」	共感力・コミュニケーション能力・人間尊重観
事後	「ありがとうの木」や帰りの会の「今日のよかったこと」で紹介し合う活動を継続し，「ほんとうの友達」として行動・助言している場面を称賛する。	積極的行動意欲

４　本時について

（１）本時のねらい

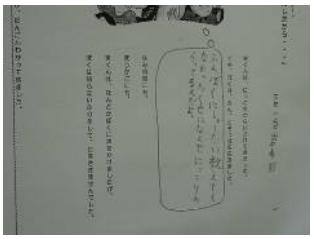
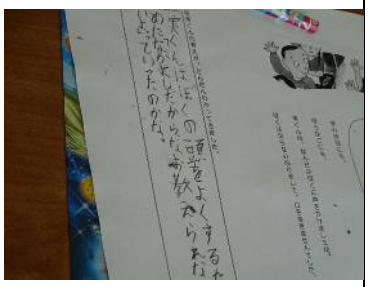
友達のことをよく考えて，友達を大切にしようとする態度を養う。

（２）本時における人権教育の手立て

登場人物の役割演技をすることで，それぞれの立場や気持ちを考え，本当の友達としての思いについて理解することができるようにする。

（３）本時の実際

学習活動と主な発問	時間	・活動の様子
１　友達はいいな，と思った経験を発表する。 ○友達がいていいなと思ったときは，どんなときですか。 ・鉛筆を拾ってあげて，ありがとうって言われたとき。 ・校庭で転んだとき，大丈夫？って声をかけてくれたとき。	７ (分)	・子どもたちの発表や「道徳アンケート」の結果から友達がいてよかったと思った経験について紹介することにより，「友達」について考えることへの方向付けとなった。
２　資料「なかよしだから」を聞いて話し合う。 ○「だめだよ。自分でやれよ。」と実君に断られたとき，「ぼく」はどんなことを	２５	・挿絵の登場人物について確認してから，範読を聞くことにより，話の内容を理解することができた。 ・隣の友だちとペアで役割演技をすることで，「ぼく」の気持ちに迫ることができた。

思ったでしょうか。 ・かなしい。そんなのあるか･･･がとげとげ言葉ににている。どうして教えてくれないんだろう。 ・教えてもらえなくてくやしい。 ○実君がにっこり笑いかけてきたとき,「ぼく」はどんなことを考えたでしょうか。 ・声をかけられても，知らないふりしよう。 ・なんで実君は教えてくれないんだろう。 ・教えてもらえなくて悲しいな。 ・もう実君は嫌い。 ・実君とはもう絶対話さないぞ。 ◎実君の考えが分かったとき，「ぼく」はどんな気持ちだったでしょうか。 ・仲良しだから，勉強は自分でやらないと自分のためにならないからかな。 ・自分のためにならないから教えなかったのかな。 ・ぼくの頭をよくするために，教えなかったのかな。 ・ぼくでもやればできるんだ。		  ・設問を繰り返し音読してから，実君の考えをワークシートの吹き出しに書いたことにより,「ぼく」に対して不満な気持ちがあることを押さえることができた。 ・最後の設問を声に出して読み，実君の考えが分かってきたわけについてワークシートにまとめ，書いたことを紹介し合って考えを交流することができた。 
3　自分にとって本当の友達との関わりを振り返り，友情について考える。 ○「ほんとうの友達」ならどうしてあげることがいいと思いますか。 ・問題の答えが分からないと言ってあきらめている友達がいたら・・・やり方を教えてあげる。 ・体育で負けてばかりの友達がいたら･･･いつも通りに走ってあげる。隣で同じく走ってあげる。 ・今日の給食当番やりたくないなという友達がいたら･･･手伝う。 ○「わたしたちの道徳」に２～３行で書きましょう。「ほんとうの友達」としてどうしてあげるのがいいのかな。	１０	・「わたしの道徳」Ｐ 74 の挿絵を提示して，困っている友達についての場面をイメージさせた。「ほんとうの友達」としてどのように接したらよいかを考え，それぞれの事例について考えを発表した。 ・「ほんとうの友達」について，考えたことを２～３行で書いた。本当の友達とは，優しくすることだけでなく相手のことを考えて注意したり，励ましたりすることであることに気づくことができた。
4　教師の説話を聞く。 ○「友情」を感じた教師の体験について語った。	3	・教師の体験談に耳を傾けて聞くことができた。小学生のときの友達が，今でもお互いに相手を思いやって手紙の交換をしていることに驚いていた。

5　本時における人権教育の手立ての有効性（○）と今後に向けた課題（●）

○　初めに二人の立場をとらえさせて役割演技をしたことにより，それぞれの立場からお互いの気持ちを考えることができた。

○　日常生活の中で考えられる具体的な場面を取り上げ，本当の友達としての言葉かけや行動について考えさせることで，人間尊重観をもたせることができた。

●　「ほんとうの友達」としての行いは，「やさしく接すること」だけでなく「ともに向上しようと努力すること」であるが，日々，その状況や場面から判断し，実践できる力を養っていかなければならない。

実践事例３ 第６学年 道徳	登場人物の迷う気持ちに共感することで，誠実に生きることのすばらしさに気付き，自分や他人に誠実に行動しようとする心情を育てていく授業

平成２９年６月３０日
授業者　　吉田　弘樹

１　主題名　　明るく生きる　１－（４）誠実，明朗
　資料名　　「手品師」（出典：『明日をめざして』東京書籍）

２　研究主題との関わり

【視点１】人権に関する基本的な知識についての理解を深める工夫

本主題では，自分の信念ともいうべき誠実な心の大切さを学んでいく。本資料の登場人物の心の動きと照らし合わせながら，自他の人権を尊重し，自分の心や他人に誠実に行動することの大切さに気付かせたい。

【視点２】自他を大切にする学習活動の工夫

全体で話し合う場面を設定したり，心情円盤を操作して気持ちを考えさせたりすることで，自分の意見を素直に表現したり，他者の意見や気持ちに共感したりして学びを深められるようにする。

【視点３】自他を大切にする振り返り活動の設定

終末において，自分の生活場面を振り返らせることで，自分や他者の考えや活動を振り返り，誠実に生きていくことのよさを実感させる。

３　指導計画

時	○教師の指導・支援	人権教育が目指す資質・能力
事前	誠実に関するアンケートをとり，児童の実態を捉えた。	自己肯定感・他者尊重感
本時	道徳授業「手品師」	共感力・多様性肯定観
事後	帰りの会の「今日のがんばりさん」で取り上げて，活動を継続することにより日常化を図っていくようにする。	コミュニケーション能力 積極的行動意欲

４　本時について

（１）本時のねらい

どのような状況にあっても，常に誠実に行動し，明るい生活をしようとする。

（２）本時における人権教育の手立て

心の動きを表す心情円盤の活用することにより，誠実に行動する大切さに気付く。

（３）本時の実際

学習活動と主な発問	時間	・活動の様子
１　どうしても約束を守れなかった経験を紹介し合う。 ・友達と約束していたが，家の用事が入ってしまった。	５ （分）	・これまでの生活で約束をどうしても守れなかった時の経験や，その時の気持ちを振り返ることで，ねらいとする価値へ方向付けを図ることができた。

２　資料「手品師」を聞いて話し合う。 ○しょんぼりと道にしゃがみ込んでいる男の子を見たときの手品師の気持ちを考えよう。 ・かわいそうだな。 ・手品を見せて元気にさせよう。	２７	・教師が範読したり場面絵を提示したりすることで，手品師や男の子の置かれている状況をとらえ，手品師のやさしさに気づくことができた。
○迷いに迷っている手品師の気持ちを考えよう。 ・男の子と約束をしたので約束を破ってはいけない。 ・男の子との約束もあるけれど，今までがんばってきたから大劇場で手品がしたい。それに，チャンスは二度とやってこない。		・迷いだけでなく，どちらの気持ちが強いのかを心情円盤で操作することで，どちらかに決めることの難しさに共感することができた。
◎たった一人のお客様の前で，手品を演じているときの手品師の気持ちを考えましょう。 ・男の子に喜んでもらえてとてもうれしい。 ・たった一人の男の子相手でも素晴らしい手品を見せよう。		・子どもとの約束を選んだ手品師の気持ちを考え，ワークシートに書くことで主人公に自我関与し，自分の考えを発表することができた。
○あなたは誠実に行動できたことはありますか。 ・自分の当番ではない仕事も手伝ってあげた。 ・休み時間に遊びたい気持ちもあったが，友達に真剣に勉強を教えてあげた。	１０	・誠実に行動できたことを紹介することで，道徳的価値が自分の中にあることに気づき，実践意欲を高めることができた。
○教師の説話を聞く。	３	・教師が誠実に行動することの大切さを話すことで，余韻を味わうことができた。

５　本時における人権教育の手立ての有効性（○）と今後に向けた課題（●）

○　資料を最後まで読むとねらいとする価値に固執してしまう子がいる。今回は資料を分断することで，自分の考えをもつことができ，多面的・多角的に道徳的価値に迫ろうとする話し合いが行われた。

○　コの字型にして話し合いをすることで，友達の心情円盤の動きについても興味を示し，友達の考えを聞こうとする態度が表れた。

●　導入ではプラスの側面で考えさせると，終末の振り返りに生きてくる。そのために，子どもの日頃の生活や実態に即したアンケートの肯定的な結果を提示することが有効である。

人権が尊重される環境作り

① ありがとうの木・・・(階段踊り場掲示板)

登校してすぐに目に入る掲示板に，「ありがとうの木」を掲示している。学校生活の中で友だちに助けてもらったこと，声をかけてもらったこと，応援してもらったことなどのうれしかった気持ちや，見ていていいなあと感じたことを，短い言葉にして，「ありがとうの葉っぱ」のカードに書いて掲示している。

＜ありがとうの木
秋・冬バージョン＞

「ありがとうの葉っぱ」に書かれた感謝の言葉は，給食の時の PR タイムに，代表委員会の児童が全校生の前で読み上げて紹介している。名前が呼ばれた児童も，葉っぱに書いた児童も，お互いににこにこしながら読み上げた内容を聞いている。

＜○○さんにΔΔしてもらったんだ。うれしかったな。＞

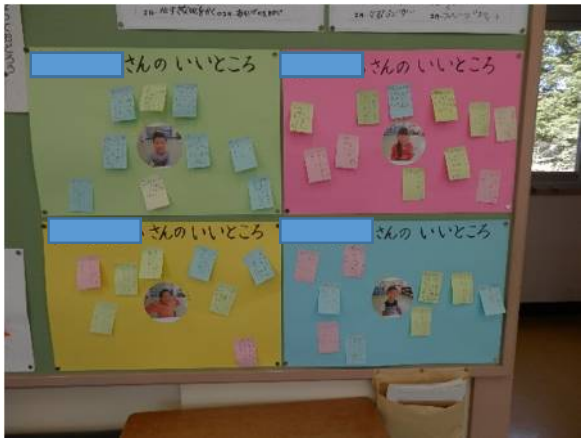
紹介後に「ありがとうの葉っぱ」を木に掲示して，どんどん増やしていくことで，自分や友達のよさを認め合えるような環境づくりを行っている。今年度はすでに２本目となり，全校児童のよいところや優しさが互いにたくさん見える環境となった。

＜たくさん茂った，ありがとうの木
春・夏バージョン＞

②　教室環境の整備

〈児童が互いのよさを認め合う掲示〉

友達のよい面に目を向けさせてお互いのよい面をほめた付箋を貼っていく。よい面に目を向けさせることで，お互いの個性を尊重し，互いに助け大切にし合う心が伸びるようにしている。

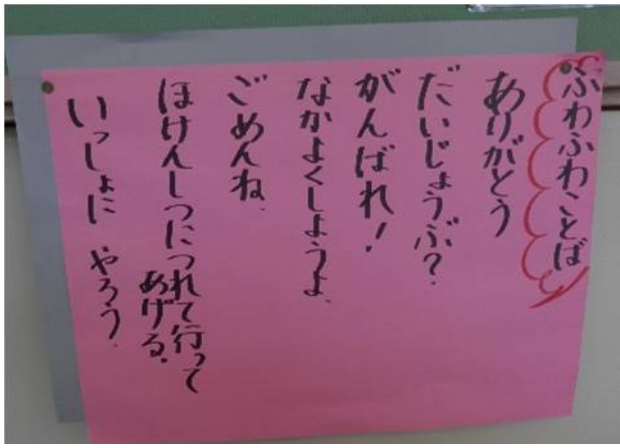


〈多くの教科で個性を大切にする掲示〉

書写やマラソンカード・読書など多くの視点から，児童の実態把握をしてよい面を見つけている。さらに，季節に応じた掲示を工夫して，子ども達が目を向けるようにしている。

〈友達への温かい言葉かけ〉

日常生活で，とても大切な言葉を掲示して児童がいつでも使えるような環境作りをすることにより，学級の雰囲気作りと児童相互の信頼関係構築に役に立った。また，児童相互のコミュニケーション能力を高められた。



〈児童のがんばりやよさを認める掲示〉

児童の日頃の頑張りや努力の様子が分かるような掲示を行っている。各教科ごとにまとめや反省を記入させ，学力と表現能力の向上も目指して示の仕方を変えて見やすくした。そして，自分の作いる。また，一人一人の頑張りにも目を向けて指導と評価の反復を行っている。また，教科ごとに掲品がが掲示される喜びと友達の作品を鑑賞する楽しさが伝わるようにした。

③　縦割り班活動

今年度は，１班５名～７名の８班編制の縦割り班で様々な活動に取り組んでいる。昨年度までは主に清掃活動を中心に行ってきたが，今年度は，活動の幅を広げるように，計画を立て取り組んでいる。

〈交流給食〉
毎月始めには，なかよし班で給食を食べる交流を行っている。普段は，学年での給食なので，他の学年の人と一緒に食べる，なかよし班の人と食べることで，清掃の時間には見られない交流が図られている。

６月の交流給食

７月の交流給食【１年生も慣れてきました】

〈たなばた集会での活動〉
代表委員会企画のたなばた集会では，なかよし班ごとにゲームをしたり，笹の飾り作りを行った。下級生のお世話をしたり，できないところを「手伝って。」とお願いしたりする姿が見られた。願い事を見せ合って，楽しい時間を過ごすことができた。

【おりひめ星とひこ星のお面をつけて】

【どんな飾りがいいかな】

〈なかよし班対抗全校リレー〉
今年度初めて，なかよし班対抗で水泳のリレーを行った。一人当たり基本は１３ｍとし，９回折り返しリレーになるように設定した。班ごとに，だれが往復するか，泳ぐ順番を決め，泳げない場合は，歩いてもよいこととした。本番では，チームを応援する声がプールに響きわたった。

④人権教育教室

1　ねらい

子どもたちが自らの命の大切さや尊さに気付き，他人への思いやりの心を育むとともに，人権意識を高める。

2　内容

子どもたちの身近で起こり得る「いじめ」をテーマにしたアニメ作品を視聴することで，子どもたちに「一人一人が大切な存在なんだ」と気づかせることをねらいとして実施した。

3　対象

小学校５，６年生

4　成果

・子ども人権委員の方の説明，ＤＶＤ視聴や人物関係図の板書は，児童にとって大変分かりやすいものであり，いじめには「いじめている子」,「いじめられている子」,「いじめを見ている子」の関係があることをとらえさせることができた。

・子どもたちはワークシートを活用することで，いじめを許さない勇気をもつことが大切であることを，自分の言葉で表現することができた。

・事前に子ども人権委員の方々と教室実施の詳細について打ち合わせを行い，授業内容を確認したことで児童に学ばせるねらいや内容が明確になった。

・学校等における人権教育と連携しながら，より広い範囲で具体的な事例をもとに人権意識を啓発することができた。

２　常葉地区人権教育実践の記録
（２）田村市立常葉小学校の実践

１　研究主題

確かな学力の向上と人権感覚を育む学習指導の在り方
～人権教育のねらいを踏まえ、道徳、各教科等に示された能力や態度を育てる指導を通して～

２　主題設定の理由

（１）今日的課題から

現今は、社会の激しい変化や科学技術の進展に直面している。未来を担う子どもたちに必要な力は、「生きる力」である。平成２３年学習指導要領改訂では、「生きる力」の理念は知識基盤社会の時代においてますます重要になっていることから、「生きる力」を支える「確かな学力」「豊かな人間性」「健やかな体」の調和のとれた育成が重要な課題となった。この流れを受けて、本校では、本主題を設定し、確かな学力の向上と人権感覚を育んでいこうと考えた。

（２）本校の学校教育目標から

本校教育目標具現化の構想から、学校課題として「基礎学力・体力や運動能力・思いやり」をいかにして育てるかをあげている。子どもたちの確かな学力の向上と人権感覚を育んでいくことは、本校の教育目標を達成していくためにも意義がある。

（３）児童の実態から

本校の学力向上グランドデザインから、児童の実態として「課題によって学ぶ意欲に違いが見られる。応用する力が弱い。」があげられる。平成２８年度 NRT の結果から、教科総合の５段階分布で５段階が少なく標準偏差が８．８となっている。

さらに、人権意識アンケートの結果から、肯定的自己評価の割合が「自己肯定感（９５％)」「他者価値（９６％)」で高く、「関係づくり（８２％)」で低かった。このことから、「自分も友達も大切である」と認めるものの「コミュニケーションを図ること」において難しさを感じていることが分かった。本研究は子どもの実態から見ても意義深い。

３　研究仮説

各教科等の取組において「育てたい能力・態度」を明確にし、言語活動を充実させ、人権教育を機能させた学習指導を行えば、確かな学力が向上し、人権感覚が育まれていくであろう。

４　研究の基本的な考え方

「確かな学力」とは・・・

「生きる力」を支える３要素（確かな学力・豊かな心・健やかな体）の１つであり、自分で課題を見つけ、自ら学び、主体的に判断し、行動し、よりよく問題を解決する資質や能力のことをいう。この学力の重要な要素は、①基礎的・基本的な知識・技能　②知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等　③学習意欲　ととらえている。そこで、本校では、確かな学力を「基礎的・基本的な知識や技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力」ととらえ、子どもたちの思考力・判断力・表現力が高まった時に、確かな学力が向上したと考える。

「人権感覚」とは・・・

人権感覚の定義を「人権の価値やその重要性にかんがみ、人権が擁護され、実現されている状態を感知して、これを望ましいものと感じ、反対に、これが侵害されている状態と感知して、それを許せないとするような、価値志向的な感覚」としている。（人権教育の指導方法等の在り方について[第三次とりまとめ]）つまり、日常生活の中で人権上問題のあるような出来事に接した際に、直感的にその出来事はおかしいと思う感性や人権への配慮がその態度や行動に現れるような人権感覚をいう。分かりやすい言葉で表現するならば「自分の大切さとともに他の人の大切さ

を認めること」であるということができる。これは、感覚だけにとどまらず、それが態度や行動に現れるようになることが求められている。

人権感覚を育成するためには、自他の尊厳や価値の感知、自他を尊重しようとする意志や態度、多様性の尊重と寛容の精神などを発達させることと、他者の感情を感知する感覚や技能、想像力、コミュニケーション能力、人間関係を構築する技能などを発達させることが求められている。

「確かな学力の向上と人権感覚を育む学習指導の在り方」とは・・・

人権教育を実践に結び付けていく方法として、基底的指導、間接的指導、直接的指導がある。これらを関連させながら指導していくことが大切である。

❶基底的指導

学校の全教育活動を通して、児童生徒が相手の立場に立って物事を考え、行動したり、温かい思いやりに満ちた人間関係を築いたりするとともに、生活上の不合理や矛盾に気付き、これを自分たちの問題として、協力して解決していこうとする力を育てる常時指導である。

❷間接的指導

各教科、道徳、外国語活動、総合的な学習の時間、特別活動の取組の中で、人権教育のねらいを踏まえ、各教科等に示された能力・態度を育てる指導である。

❸直接的指導

各教科、道徳、外国語活動、総合的な学習の時間、特別活動の取組の中で、特に、人権に係わる様々な問題を取り上げたり人権一般について取り上げたりして、様々な問題を主体的に解決しようとする力や、自他の人権を大切にしようとする力を育てる指導である。

①人権教育の三つの内容と「三指導」との関連

人権教育の内容

- 人権が尊重された雰囲気や環境をつくる⇒【基底的指導】人権に配慮した常時指導
- 豊かな人間性を育てる ⇒【間接的指導】人権教育のねらいを踏まえ各教科等に示された能力や態度を育てる指導
- 人権意識を高める ⇒【直接的指導】様々な人権問題及び人権一般を直接取り上げた指導

②人権教育における「育てたい能力・態度」とは

- 知　性：人権の大切さや人権に関わる様々な問題を正しく認識できる知性
- 判断力：偏見や差別の不当性を科学的に見極めるとともに、物事を公正・公平に見極める判断力
- 感受性：共に生きる喜びや、差別・不正に対する悲しみや怒りを感じる豊かな感受性
- 実践力：人権に関わる様々な問題を主体的に解決し、人権尊重の社会を築いていこうとする実践力
- 表現力：正しい言葉遣いをし、自分の考えを適切に表現しようとする表現力

この考え方から、確かな学力の向上と人権感覚を育むために、間接的指導の考え方を取り入れた学習指導の在り方を究明していくものとする。

【確かな学力が向上し、人権感覚が育まれた子どもの姿】（特に感受性の育成をめざす）

共に生きる喜びと差別・不正に対する悲しみや怒りを感じる子ども						
低学年		中学年		高学年		
友達の身になって考え、優しく接することができる 間違った考えや行いに気付くことができる		友達の気持ちになって考え、思いやりの心を持つことができる 間違った考えや行いに対して、怒りを感じることができる		相手の気持ちを共感的に理解し、思いやりの心で接することができる 差別に対して悲しみや怒りを感じ取ることができる		
国　語	社　会	算　数	理　科	生　活	道　徳	外国語活動
登場人物の気持ちや考え方に共感したり、文章の美しさを感じたりすることができる	それぞれの人間の生き方に接し、その考え方や気持ち、願いを共感的に理解できる	数学的な決まりや法則の発見に感動し、そのよさを味わって処理することができる	自然の仕組みのすばらしさにふれ、自然を愛し、生命尊重する心情をもつことができる	身近な人々や自然と関わる中で、それらのよさに気付き、愛することができる	相手の立場や気持ち、考えに共感し、互いの考えを尊重することができる	外国の言語や文化にふれ、そのよさや面白さ、豊かさ、コミュニケーションを図る楽しさを感じることができる

5　研究内容

❶　各教科等の特質を踏まえた言語活動を位置付ける。

❷　「人権教育との関連（単元レベル）」「人権教育の視点（本時レベル）」「人権教育上の配慮（展開レベル）」を明確にし、計画を適切に位置付ける。

❸　「育てたい能力・態度」を明確にした評価観点・評価規準・評価基準を設定する。

実践事例１ 特別支援（わかば） 学級・第２学年	人権教育のねらいを踏まえ、児童の道徳的実践力を高める「道徳の時間」における指導　～　シナリオ作り（台詞作り）と劇化（役割演技）を通して　～

平成２９年６月３０日　　授業者　関本真人

１　主題名　友達へのやさしさ　＜２－（２）思いやり、親切＞
　資料名　「こぼれた水」
　　※　「こぼした　ぎゅうにゅう」（小学校　道徳の指導資料とその利用３　文部省）一部改変

２　研究主題とのかかわり

【視点１】　道徳の特質を踏まえた言語活動を充実させるための手立て

手立て①　話の前後に合うように台詞を短冊に書かせる。それにより、児童が考えを深め、道徳的価値に近づけるようにする。

手立て②　小グループになって練習し、役割演技で発表させる。それにより、児童間で意見を交流させ、道徳的価値に近づけるようにする。

【視点２】　互いをのよさを認め合えるようにするための手立て

手立て①　１人１役で台詞を１つだけ考えさせ、必要な場合には個別に支援する。それにより、全員が自分の意見を持てるようにする。（知性）

手立て②　自分の台詞を役割演技で発表させる。それにより、児童が自信を持ったり、友だちを認める気持ちを育んだりできるようにする。（表現力、感受性）

３　本時について

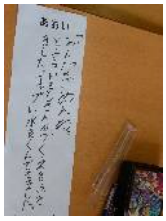
（１）本時のねらい　　思いやりのある温かい心で、友達にやさしく接しようとする心情を育てる。

（２）本時の実際

時間	学習活動　（T）教師　（C）児童	・　活動の様子
導入 ５分	１．本時の学習の進め方の説明を聞く。 T：お話の続きを考え、グループで劇をしてもらいます。 ２　「こぼれた水」の始めと終わりだけ聞き、内容を確かめる。	・　事前に小グループの編成（４～５人で１班、合計５班）、席の配置・着席、黒板への掲示、短冊の配布を済ませ、時間の短縮を図った。また、児童の本時の学習への関心を高めた。 ・　最初の読み聞かせからグループでの活動までを教室後方で行った。 ・　読み聞かせ後、分かっていることを黒板で確認した。
展開前半 ２０分 （５） ＋ (15)	３．話の続きを考え、役割演技で発表する。 （１）話の続きを考える。 T：あおいさん達がどんなことを言ったのか、考えましょう。 （２）役割演技をする。 T：グループで劇の練習をしましょう。 C：（小グループで劇の練習をする。） T：このグループから、発表してもらいます。 C：（小グループで役割演技をする。）	・　誰の役で台詞を考えるかをあらかじめ決めておき、短冊の色と役の名前で分かるようにした。 ・　話の前後に合うように、１人１役で台詞を１つだけ考えて、短冊に書いた。必要な児童には個別に支援した。特別支援学級児童については、特に配慮した。 ・　小グループになって練習し、児童間で意見を交流した。その後、役割演技で自分たちの台詞を発表した。 ・　発表後、短冊は黒板に掲示し、展開後半の話し合いで活かせるようにした。

展 開 後 半 １５ 分 （7） ＋ （8）	４．これまで出された意見をもとに、全体で考える。 （1）どんな台詞や行動がよいかを考える。 Ｔ：あおいさんは、どうしなければなりませんか。 Ｃ：謝る（ごめんね）。（水を）拭く。 Ｔ：他の人はどんなふうに言ったらよいですか。 Ｃ：いいよ。大丈夫だよ。（一緒に）拭くよ。 Ｔ：あおいさんは笑顔になれますか。（あおいさん役の児童に聞く。） Ｃ：なれます。ほっとしました。 （2）水がかかった側の道徳性について考える。 Ｔ：水をかけられたのに、どうしてそんなふうに言えるのですか。 Ｃ：間違いだった。謝った。かわいそう。 Ｔ：そう考えられる人は、どんな人でしょうね。 Ｃ：やさしい人。かっこいい人。	・　児童を教室前方に集め、黒板に貼られた短冊を見ながら話し合った。 ・　児童から出された意見の内容を別の児童に聞いて理解しているか確かめたり、意見への賛否を全員に投げかけるようにしたりして、話し合いをコーディネートした。 ・　あおいさんの戸惑いや立場の弱さ、誠意のある態度に気づいた。
終 末 ５ 分	５．話の続きを聞く。 Ｃ：黙って水を拭いてくれるのは、やさしい人。 Ｃ：水のかかったパンを食べてくれた。やさしい。	・　自分達の考えた話と比べて聞き、友達と仲よくしたり皆が居心地のよい学級にしたりするためにはやさしい心が必要であることを意識できた。

４　本時における手立ての有効性（○）と課題（●）



○　台詞を短冊に書かせたことによって、
- 考えが深まっていた。
- 話の場面をイメージしながら活動できた。
- グループでスムーズに役割演技の練習ができた。

○　グループで活動したことで、
- テーマから逸れずに考え、話し合うことができた。
- 始めは書けなかった児童も、活動の中で台詞を作っていけた（真似をする、聞くなども含めて）。
- 中心的役割を果たす児童、友だちにアドバイスする児童が現れた。
- 発表に向けて熱心に練習する中で、児童は真剣に意見を考え、交流が活発に行われた。

○　各自→グループ→全体という言語活動の流れの中で、児童の道徳的価値観に変容が見られた。

○　児童から素直な意見（本音）が出された。そこに至る過程は様々だが、全員が自分の考えを持つことができた。

○　楽しそうな表情で活動している児童が多かった。役割演技で発表することの他にも、グループ構成の工夫（助け合える、意見を認めてもらえる）、黒板に全員の短冊を貼るなど、児童が「自信を持つ」ための手立てがあった。

○　物語の読み取りではなく、自分ならどうするか、ということを考える時間が多くあった（再現構成法の応用）。

○　終末の教師の読み聞かせを児童はしんとして聞いた。児童は意欲と関心を持って学べたようだった。

●　笑顔で「ありがとう」の結末につながらないグループがあった。なぜそうなったか、考えさせる展開も有り得た。

●　友だちの考えをよいと思う理由を児童に言わせるなど、互いのよさを認め合えるようにするための手立てをより取り入れる。

●　主発問を板書すべきだった。それに対して児童から出されたふわしい考え方（ごめんね、いいよ、ふくよ、だいじょうぶ　など）も板書すべきだった（板書計画にはあった）。

●　展開後半の４（２）では発表者が限られ、話し合いの論点からずれて、自分の思いを発表する児童も出た。ももさん、みどりさん、こうさん役の児童にしぼって理由を聞かなかったことが原因と思われる（指導案にはあった）。

実践事例　２	互いの考えを表現し伝え合う活動によって、自分や友達の考えのよさを認め合うことができる授業
第６学年	

平成２９年７月１４日　　授業者　　樋口　博亮

１　単元名　比と比の値

２　研究主題とのかかわり

【視点１】各教科等の特質を踏まえた言語活動の充実

手立て①　説明が終わったときに、前者が言ったことを繰り返し言わせたり、ペアで復唱させたりするようにする。

【視点２】互いのよさを認め合える支援の工夫

手立て①　同じ方法で考えた人同士で集まり、考えを交流し合うことによって、自分の考えを補ったり、考えに自信をもてたりすることができるようにする。

手立て②　それぞれの考え方で共通している部分や違う部分を確認することによって、それぞれの考え方のよさに気づき、認め合うことができるようにする。

３　指導と評価の計画（総時数９時間）

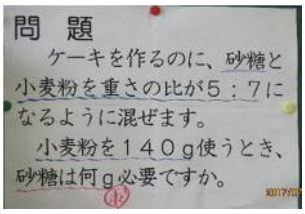
時間	学習活動	指導上の留意点
1 2	○　同じ味のソースを作るための方法を考え、比の意味と表し方を理解する。	○　図を用いることによって、視覚的にも比の意味を理解することができるようにする。
3	○　１つの量をもとにしたとき、もう一方の量の割合はどうなるかを考え、比について理解することができる。	○　比を割合で表すことにより、比の値は第５学年で既習の割合と同じ考え方であることに気づかせる。
4	○　等しい比どうしの関係を調べ、等しい比のつくり方と比の性質について理解する。	○　「比の両方の数に同じ数をかけても、わっても、比は等しい」ことを式や図などを使い、説明できるようにする。
5	○　比が等しいかどうかを考え、比を簡単にすることの意味を理解する。	○　等しい比になる理由を式や言葉で説明できるようにする。
6	○　小数や分数で表された比を、簡単にする方法を考え、比を簡単にできる。	○　それぞれの考えに共通している「整数の比になおす」ことに気づけるようにする。
7 (本時)	○　比の性質を使って、一方の数量を求める方法を考える。	○　図や式、言葉を用いて、考えを説明することができるようにする。
8	○　全体の量を部分と部分の比で分ける方法を考える。	○　図を用いて、全体の比が部分と部分の比の和で求められることに気づけるようにする。
9	○　これまで学習したことを用いて問題を解き、理解を確実にする。	○　既習内容を振り返りながら、学習内容の定着を図ることができるようにする。

４　本時について

（１）本時のねらい

比の性質や図を用いて、比の一方の値を求める方法を考え、説明し合う活動を通して、比の一方の値を求めることができる。

（２）本時の実際

学習活動	時間	・　活動の様子
１　本時の学習課題をつかむ。 （１）問題を読み、題意をつかむ。  問　題 ケーキを作るのに、砂糖と小麦粉を重さの比が５：７になるように混ぜます。 小麦粉を１４０ｇ使うとき、砂糖は何ｇ必要ですか。 （２）課題をつかむ。 ㋮比の一方の量を求めるには、どうすればよいのだろうか。	３ (分) ２	・　問題を読み、「分かっていること」「求めること」を確かめた。そのことにより、比の一方の量を求めるという課題であることをとらえることができた。 ・　線分図での表し方について説明した。しかし、線分図における１目盛りの大きさ（比の共通単位１の大きさ）に気づけない児童が見られた。
２　問題を解決する。 （１）解決の見通しを持ち、自力解決する。 ・数直線　・比の値　・等しい比の式 ・線分図 （２）解決した方法を小グループで話し合う。 （３）全体で解決方法を話し合う。 ３　まとめをする。 ㋷比の一方の量を求めるには、等しい比の性質や一方を１とみる考えを使えばよい。図を使うと分かりやすい。	４	 ・　発表が最後までできなくても、友達に補ってもらいながら考えを発表することができた。 ・　それぞれの考え方に共通点はないか問うことによって、等しい比の性質や一方を１とみる考えの理解を深めることができた。
４　適用問題を解く。 （教科書Ｐ９１　Δ１　Δ２）	３	・　適用問題を解くことによって、本時の学習内容を理解できたか確かめることができた。
５　学習の振り返りを書く。	３	

５　本時における手立ての有効性（○）と課題（●）

○　説明の続きを考えさせたり、考えを再生させたりすることによって、自分の考えを認めてもらえたという実感を得ることができた。また、友達の考えを聞くという意欲が高まり、学習内容の理解につながった。

○　同じ考えをもつ児童同士で集まったことにより、自分の考えに自信をもてない児童も交流の中で考えを補い、全体での発表を進んで行うことができた。

○　考え方の共通点や違う部分を問うことによって、それぞれの考えに児童の意識を向けることができた。全体で確かめていくなかで、それぞれの考え方のよさに気づくことができた。

●　自分の考えをもてない児童もいる。解決の見通しをもたせられるように、既習事項を大切にしていきたい。また、言葉と図と式を関連づけられるように、授業の中で意識して考えさせる機会を設けていく必要がある。

●　全体での話し合い時には、学習内容の理解が必要となる。終末に向けて、児童一人ひとりの習熟度を見極めながら、意図的指名を効果的に活用していく。教師のコーディネートの質を高めたい。

実践事例３	英語表現に慣れ親しむ活動を通して、積極的に尋ねたり答えたりして、児童相互にコミュニケーションを図ることができる授業
第５学年	

平成２９年９月１日　授業者　厚海　朗

１　単元名　「What do you like? 」　～色や形の言い方を知ろう～

２　研究主題とのかかわり

【視点１】各教科等の特質を踏まえた言語活動の充実

手立て①　子どもたちが持っているテキスト Hi friend! と同じ画面を拡大して見せることによって学習で扱う「色」や「形」といった言語内容を明確にする。

手立て②　デジタル教材を繰り返し提示し、色や形に焦点を当てることにより、学習に必要な英語表現を覚えることができるようにする。

【視点２】互いのよさを認め合える支援の工夫

手立て①　コミュニケーションに大切な反応や表情、ジェスチャーをおさえてお互いが気持ちよく活動できるようにする。

手立て②　好きなものを尋ねる英語でのやりとりを繰り返し練習し、互いに尋ねあう場面では、相手のリズムに合わせて英語表現ができるようにする。

３　指導と評価の計画（総時数３時間）

時	目標	主な活動	評価規準
１本時	色や形の言い方に慣れ親しみ、好きなものは何かを尋ねる表現を知る。	・色や形の言い方を知る。 ・メモリーゲームをする。 ・ペアでインタビューをしあう。	好きなものについて積極的に尋ねたり、答えたりする。（観察） 好きな色や形、ものについて聞いたり言ったりしている。 （観察･学習カード）
２	スポーツや動物の言い方に慣れ親しみ、好きなものは何かを尋ねる表現を知る。	・スポーツや動物の言い方を知る。 ・繰り返し発音し英語表現に慣れ親しむ。 ・インタビューゲームをする。	
３	好きなものついて、積極的に尋ねたり答えたりしようとする。	・ゲームを通して、全員がインタビューできるようにする ・日本語と英語の音の違いに気づく。	日本語と英語の音の違いに気づいている。 （発表）

４　本時について

（１）本時のねらい

色や形、好きなものは何かを尋ねる英語表現に慣れ親しむ活動を通して、好きなものについて、積極的に尋ねたり答えたりしてコミュニケーションを図ることができる。

（２）本時の実際

時間	学習活動	・　活動の様子
5	１．挨拶をする。 日直：Are you ready？ 児童：Yes. 以下　How are you？ 等の表現	・　挨拶については英語表現の型を使うことによってスムーズにできていた。 ・　児童の持っているテキストの色と同じものを拡大提示することによって色や形について全員で共有することができた。
5	２．めあての確認をする。 色や形の言い方を知ろう。	
１０	３．メモリーゲーム （１）　色の言い方を知る。 （２）　言い方の練習をする。 T　：What color is this？ C　：(It's) red.　/ blue / purple / 他. T　：Do you like red？	・　今まで活動した「Do you like ～」の言い方を想起させたり、児童が作ったキャラクターを使ったりして色や形に興味を持たせることができた。
5	４．ペアで練習をする。 C1　：Hello. C2　：Hello. C1　：What color do you like？ C2　：I like blue.	・　ペア練習では、自分の好きな色を相手に伝えたり、友達の好きな色を尋ねたりすることができた。
１０	５．T シャツの特徴をとらえる。 （１）色に加えて、形の言い方を知る。 （２）いくつか練習して次時につなげる。 T　：What is this？ C　：(It's) a dog. . T　：How many dogs？ T　：Two dogs.	
5	６．学習の振り返りをする。 ７．次時の学習の予告	・　次時へつながる活動はできたが、児童のキャラクターに登場する形を取り上げてもよかった。
5		

５　本時における手立ての有効性（○）と課題（●）

○　外国語活動は楽しい活動という意識が子ども達にあり、ペアを次々と換えての色の英語表現のやりとりも、自分から相手を探しに行く子が多く、進んで行っていた。

○　ICT 機器（プロジェクター）で自分の作ったカラフルなキャラクターが大きく紹介され、満足感を得られるとともに、他の子ども達の興味もより引き出すことができた。

○　子ども達にとって色の英単語は既知のものが多く、自信を持って活動できたため、友達同士のコミュニケーション力は普段より高まった。

●　子ども達の興味関心を引き出すことができていたので、活動の時間を多くして、「色」に絞った英語活動をさせたほうがより確かな学びの時間になった。

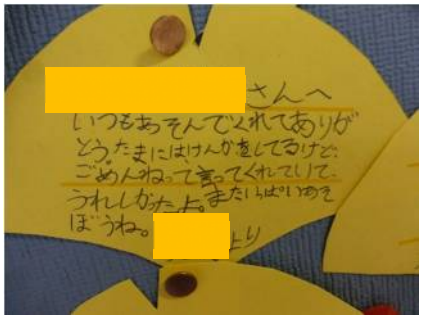
●　活動の中で、色の答え方として、「I like **pink !**」の「ピンク」に強さを持ってきたり、表情で強調しあったりするコミュニケーション力を高める時間も確保できればよかった。

人権が尊重される環境づくり

田村市立常葉小学校

（１）環境整備

「にこにこきらきらさんの木」「ぱちぱちの木」など各学年、やさしくしてくれた友だちや、よいことをしていた友だち、がんばっていた友だちを帰りの会に発表し、学級に掲示している。相手のよいところを探したり、感謝の気持ちを伝えたりできるようになっている。



廊下には、互いのよさを認め合える「人権コーナー」を設けている。「伝え合うわかり合う」「いっしょに歩く」「みんなと共にみんなのために」など児童の作品や写真にコメントを入れて、がんばりを称賛している。掲示することによりその時の気持ちを振り返りながら、自他のよさを認め合う場になっている。

（２）児童会委員会活動

生活集会委員会では、「あいさつ運動」を続けてきた。進んであいさつをすることで、気持ちのよい１日を過ごすとともに、互いの存在を認め合える気持ちを育てることができると考えた。また、あいさつのよかった児童を昼の全校放送で紹介することで、あいさつの輪がより広がり、地域の人や来校者にも進んであいさつする児童も増えている。目を見てあいさつすることの重要性や、あいさつをして返されたときのうれしい気持ち、返されなかったときの気持ちなどを考える機会にもなっている。

（３）縦割り班活動

４月に行われる「１年生を迎える会」は、６年生を中心に企画運営した。６年生に手を引かれた１年生２５名が体育館に入場し、全校生を１８班に分けた縦割り班ごとに座った。お互いに自己紹介をしたり、「みなさんよろしくじゃんけん大会」をしたりしながら自分の班のお兄さん、お姉さんと仲良くなった。１年生もにこにこしながら参加できていた。

日々の清掃活動は、縦割り班で行っている。上級生が、下級生にやさしく清掃の仕方を教えたり、手伝ったりする姿が見られる。上級生は、責任感が芽生え、自分から進んで行動している。

下級生は、教えてもらうことで安心感をもって取り組むことができている。

また、「七夕集会」も縦割り班ごとに座り、短冊に書いたお互いの願い事を発表しあったり、学級ごとに学級全体の願い事を全校生の前で発表したりしている。学級の願い事を考える話し合いでは、みんなのこれまでのがんばりや、努力していかなければならない点などを出し合うことで、学級や自分の行いを見つめ直す機会にもなっている。

（４）ふれあい活動（地域・高齢者とのふれあい）

◇　ふれあい集会

祖父母参観日のあとに行われる「ふれあい集会」では、お手玉・おはじき・竹馬・あやとり・折り紙・囲碁・将棋・ゲートボール・ラベンダースティック作りなどを、祖父母や保護者のみなさん、地域ボランティアの方々に教えてもらいながら、一緒に楽しんでいる。

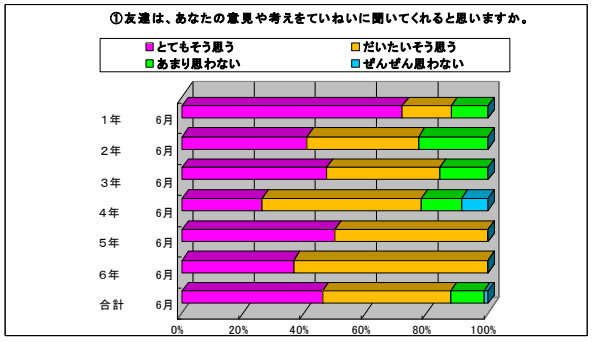
◇　しめ縄作り

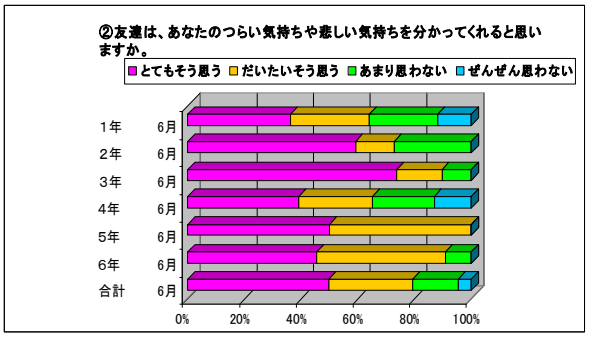
１２月には、地域の高齢者の方に指導をお願いをしてしめ縄作りをしている。縦割り班で輪になってお年寄りの方に手ほどきをしてもらうが、高学年は、慣れてきていて上手に縄をない、しめ縄の形にまとめていく。下級生は、上級生にやさしくこつを教えてもらったり、お年寄りに手伝ってもらったりしながら、完成させている。昔からの伝統の技を教えてもらうことで、地域や高齢者の方を敬い、ふれあうことのできるよい体験活動になっている。

その他、実行委員会を中心に運営される運動会や学習発表会（常小まつり）、全校生で楽しんだ見学学習、低学年が幼稚園児と一緒に活動する交流活動、中学校体験教室など学年や世代、地域や幼・小・中学校などの垣根を越え、一体となって人権教育を推進している。

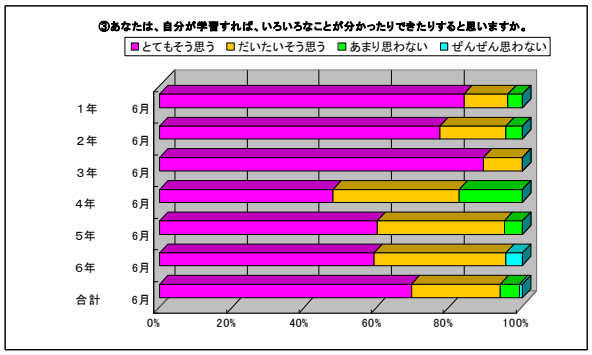
人権意識についてのアンケート　　平成２９年５月　　対象児童１３１名

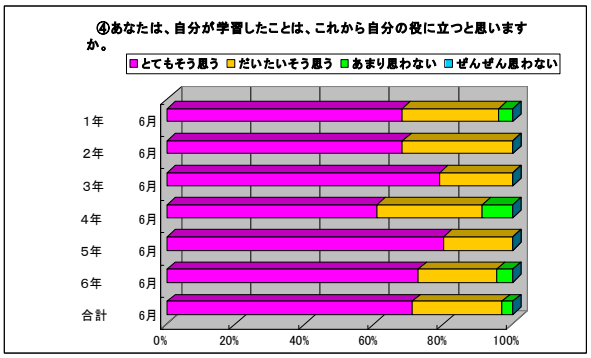
（１）自己存在感に関する内容について



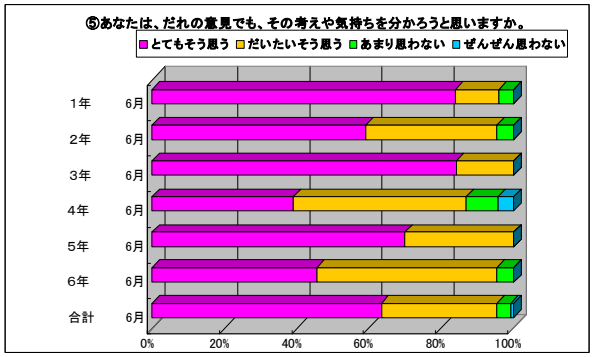


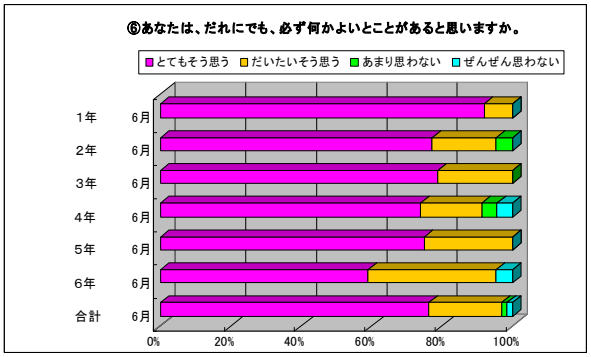
（２）自己肯定感に関する内容





（３）他者価値に関する内容





◇考察

（１）自己存在感に関する内容について

「友達は、あなたの意見や考えを丁寧に聞いてくれると思いますか」という質問に対して「とてもそう思う・だいたいそう思う」が８０％以上でおおむね良好である。「友達は、あなたのつらい気持ちや悲しい気持ちを分かってくれると思いますか」という質問に関しては、７９％である。友人関係については、コミュニケーションを図り、お互いの理解を深めていけるような支援も必要であるといえる。

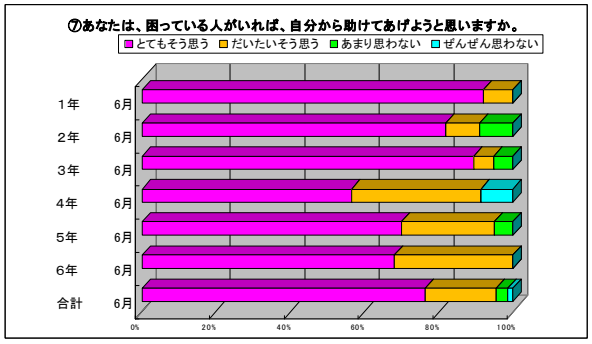
（２）自己肯定感に関する内容について

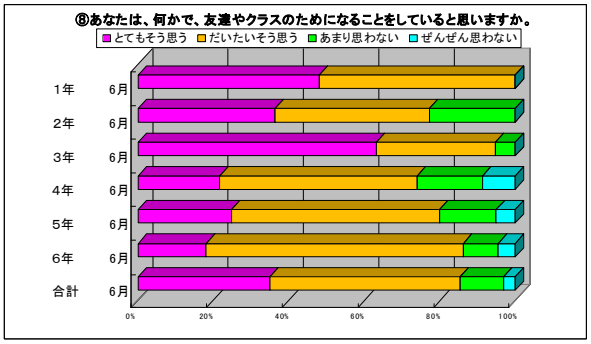
「自分が学習すれば、いろいろなことがわかったりできたりすると思いますか」「自分が学習したことは、これからの自分の役に立つと思いますか」という質問に対して９０％以上が肯定的で良好な結果である。

（３）他者価値に関する内容について

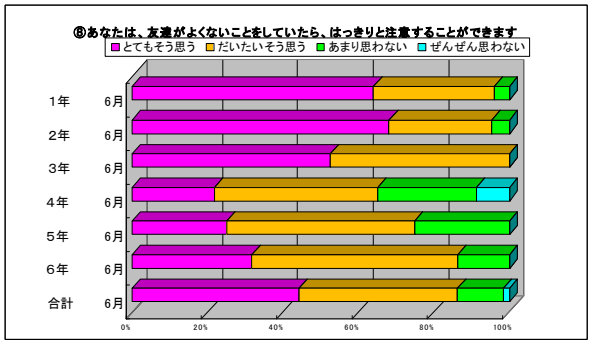
「だれの意見でも、その考えや気持ちを分かろうと思いますか」「誰にでも必ずよいところがあると思いますか」はどちらも９５％以上が肯定的で、非常に良好な結果である。

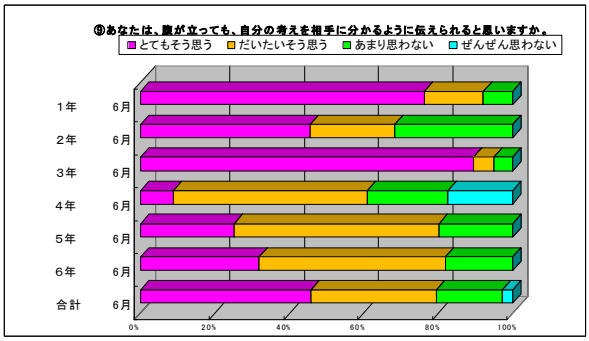
（４）集団への関与に関する内容



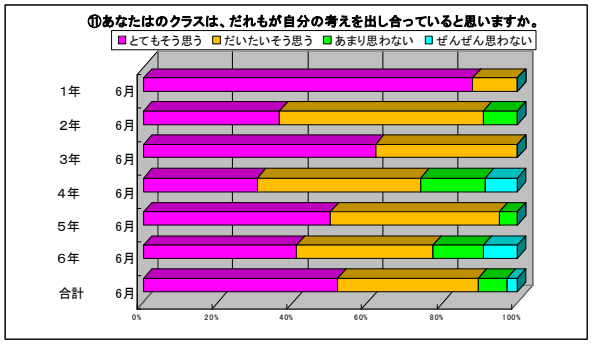


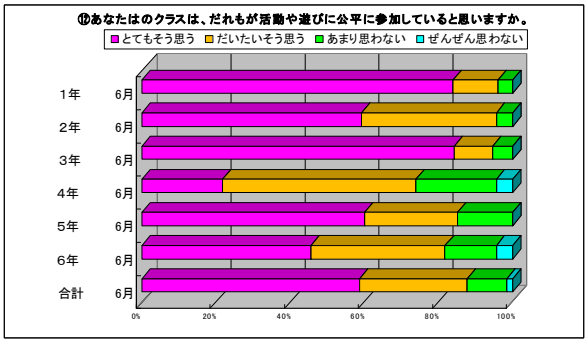
（５）関係づくりに関する内容





（６）成立基盤に関する内容





◇考察

（４）集団への関与に関する内容について

「友達やクラスのためになることをしていると思いますか」は８５％だった。集団への貢献感をもつことができるような活動を日常の中で工夫していくことと、それを適切に評価したり、称賛したりすることにより、集団への貢献感を実感できるようにしていくことが必要だと思われる。

（５）関係づくりに関する内容について

「友達がよくないことをしていたら、はっきりと注意することができますか」「腹が立っても、自分の　考えを相手に分かるように伝えられると思いますか」に対しての否定的な回答が１４％、２１％と他に比べて高い割合となっている。お互いの信頼関係を深めることにより、よくないことは注意をしても「話せばきっとわかる。話し合うことで解決できる」というような思いを醸成していくこと、そのような経験を多くさせていくことが大切である。

（６）成立基盤に関する内容について

「あなたのクラスは、だれもが自分の考えを出し合っていると思いますか」「あなたのクラスは、だれもが活動や遊びに公平に参加していると思いますか」という質問に対しては、「とてもそう思う・だいたいそう思う」と答えた児童の割合は、９０％に近い値であった。少数ではあっても「あまり思わない・ぜんぜん思わない」と回答している児童の思いを学級全体で共有していくことが必要である。支援的な集団づくり、自己肯定感や存在感の低い児童への個別支援をしていくことが今後とも必要である。

２　常葉地区人権教育実践の記録

（３）田村市立西向小学校の実践

平成２９年度　西向小学校現職教育

Ⅰ　研究主題

自己肯定感を高め、自他のよさを実感し大切にできる児童の育成

１　主題設定の理由

（１）教育の今日的課題から

現在、我が国の教育を取り巻く人権にかかる問題として、いじめや暴力、虐待等による人権侵害、同質性・均一性を重視しがちな性向や非合理的な因習的意識の存在、社会の急激な変化、人権尊重の理念についての正しい理解やこれを実践する態度が未だ国民の中に十分に定着していないことなどがある。このようなことから、人権についての知的理解を深めるとともに人権感覚を十分に身に付けることが重要となっている。全ての人々の人権が尊重され、相互に共存し得る平和で豊かな社会を実現するためには、国民一人一人の人権尊重の精神の涵養を図ることが不可欠であり、そのために行われる人権教育・啓発の重要性が高まっている。

（２）教育目標の具現化から

本校では教育目標を次のように掲げている。

教育目標　人間尊重の精神を基盤とし、自ら考え正しく判断できる児童を目指し、知・徳・体の調和のとれた人間性豊かな児童を育成する。
やさしく（徳）　かしこく（知）　たくましく（体）

本年度は「やさしく」にかかわる重点目標を「思いやりのあるこども」と設定している。自己肯定感を高め自他のよさに気づく児童を育成していくことは、本校の教育目標の達成に向けての取り組みそのものと言い換えることができるであろう。

（３）児童の実態から

児童の生活の様子や児童アンケートの結果を見ると、やるべきことは責任を持って行っているのだが、それが自己肯定感につながらず、「自尊感情が持てない。」「自己有用感が低い。」という傾向が見られる。そのため、自尊感情が高まるように友達との学び合いを工夫することや、助け合い協力し合う体験を重視すること、子どもたちが何かをした時にそれを認めるだけでなく意識的に意味付けや価値付けをするなどの手立てを講じることで、児童の人権感覚を高め、人権に関する知識理解を深める必要がある。

以上のような実態から、自分のよさに気づき自信を持つことで友達のよさを認め大切にする能力や態度を高めていくことが本校の課題であるといえる。

Ⅱ　研究の見通し

１　めざす児童像

○自分自身や友達のよさや違いが分かり認め合う児童

低学年	中学年	高学年
・友達の立場になって、よいところに気づく子ども	・友達の立場や思いを考え、よさや違いを受け入れる子ども	・相手の気持ちを共感的に受け止め、自他のよさや変化、成長を認め合う子ども

２　めざす児童に迫るための手立て

めざす児童像に迫るために、大きく４つに分けて手立てを考えた。

（１）主体的に活動するための課題設定の工夫
（２）考えを深め合う活動の工夫
（３）まとめの工夫
（４）関連活動・体験活動の充実

Ⅲ　研究方法

１　授業研究、関連活動の研究を通し、研究主題を受けて実践する。
２　各教科、道徳、学級活動で検証授業を公開し、研究の成果の共有化を図る。
３　児童の実態把握のための調査、実践資料等の収集を行い、活用する。

Ⅳ　研究内容

１　授業研究

①研究の手立てに基づいた各教科・特別活動・道徳の授業研究
②人権フィルターの活用

２　実態把握・研究授業の方法

①児童へのアンケート調査（意識調査）
②付箋紙を活用したフリーシートによる研究協議
③児童の姿や授業を中心にした研究のまとめ

３　研究の手立て

【手立て（１）主体的に活動するための課題設定の工夫】

①ねらいに関する実態把握と活用の工夫
②提示資料の工夫（紙芝居、影絵、パネルシアター、人形劇、ペープサート）
③既習事項や生活経験を生かした課題設定の工夫
④学習課題を選択できる機会の設定

【手立て（２）考えを深め合う活動の工夫】

①補助資料の工夫（BGM、効果音、映像資料、実物資料）
②表現活動の工夫（動作化、役割演技、実際の場面の追体験、相手意識・目的意識を持たせるための工夫、書く活動の工夫）
③話し合い活動の工夫（意図的指名、座席配置の工夫、パネル討議やディスカッションの活用、考えの立場や心情の可視化〈類別や心情円、グラフなど〉、ペア・小グループなどの学習形態の工夫）
④発問の精選（発問の構成や言葉の吟味、教師のコーディネート、意味付けや価値付けの工夫）

【手立て（３）まとめの工夫】

①心に響く終末の工夫（教師の説話、格言やエピソード、詩や歌の活用、わたしたちの道徳や田村市道徳資料集の活用）
②自分や友達の変化や成長に気づかせるための工夫（適用問題や練習問題、学習感想）

【手立て（４）関連活動・体験活動の充実】

人権意識を高め、居心地のよい人間関係を作るための環境作りを行う。

①学級掲示板の活用
②やかたの木（児童昇降口→特別活動室廊下掲示）の設置
③人権コーナーの設置
④人権教室の実施
⑤縦割り班（なかよしグループ）の活動の活性化
⑥体験活動の充実

実践事例 第２学年 道　　徳	登場人物の気持ちを考えたり、友達の考えを聞き合ったりすることにより、自他の存在（命）を大切にしていこうとする心情を高める授業

平成２９年７月１４日
授業者　根本　　賢（T1）佐久間理恵（T2）冨樫　厚方（T3）

１　主題名　　命のありがたさ　　Ｄ－（１７）生命の尊さ
資料名　　ドラえもん「ぼくの生まれた日」

２　研究主題とのかかわり
【視点１】　**主体的に活動するための課題設定の工夫**
＜手立て＞　児童の身近なマンガを活用することにより、学習への意欲を高める。
【視点２】　**考えを深め合う活動の工夫**
＜手立て＞ ハンドサインによる意思表示を行わせることにより、よく話を聞かせるようにする。
【視点３】　**まとめの工夫**
＜手立て＞　親からの誕生エピソードを知らせることで命がかけがえのないものであることに気づかせる。

３　指導計画

時	教師の指導・支援	人権教育がめざす資質・能力
事前	保護者に「誕生に関して」のアンケートをとる。	
本時	道徳授業「命のありがたさ」	想像力・共感力
事後	週末作文の「自分の名前について」を確認し、日常化を図っていくようにする。	自己尊重の感情 自己肯定感

４　本時について
（１）　本時のねらい
家族に大切にされていることに気づき、命を大切にしようとする心情を育てる。
（２）　本時における人権教育の手立て
登場人物の気持ちを考えたり、友達の考えを聞き合ったりして、自他の存在(命)がかけがえないものであることに気づき、大切にしていこうとする心情を育てる。
（３）　本時の実際

学習活動・内容　◎中心発問	時間	・活動の様子
１　自分が生まれたときの、両親の願いについて話し合う。 ・健康に育ってほしい。 ・明るく元気な子になってほしい。	５	・黒板前に集めてすぐ近い場所で話しやすい雰囲気で話し合ったことで、ねらいとする価値への方向づけを図ることができた。
２　資料を読んで話し合う。 （1）「ぼくの生まれた日」を読んで話し合う。 ○　パパとママに叱られたのび太君は、どんな気持ちだったでしょう。 ・いつもしかられて嫌だな。 ・ぼくのこと嫌いなのかな。	25	・「よかった」「よくなかった」の自分の立場を明確にさせて話し合わせた。「よかった」が多かったため、「親が叱っていること」から「よくなかった」のではないかと揺さぶりをかけたところ、自分の弟に対する思いと照らし合わせて本音で話す児童も見ることができた。

○　パパとママにとってのび太君は生まれてこなかった方がよかったのでしょうか。 ・パパとママが喜んだからよかった。 ・家族が増えてうれしい。 ◎　病院の廊下で、パパとママの気持ちを聞いたのび太君は、どんな気持ちだったでしょう。 ・名前には、パパやママの願いが込められているんだな。 ・僕に本当に期待しているんだ。 ・僕が生まれたのを喜んでいてうれしい。 ・期待に応えていきたいなあ。 3　自分のことを振り返る。 ○　どんなとき家族に大切にされていると感じますか。 ・ごはんをつくってくれる。 ・ものを買ってくれる。	5	・登場人物の気持ちにより近づけるために、目をつぶらせて、もう一度両親の会話を聞かせた。話を聞いた後、ほとんどの児童が吹き出しに自分の考えを書き始めることができた。 ・登場人物のお面を被り、父親の台詞を教師が言った後に吹き出しに書いた内容を発表させた。お面をつけたことで、登場人物になりきって話したり、友達の顔をしっかりと見て聞いたりすることができた。 ・自分が家族に大切にされているなと思ったことを想起させ、家族の自分への愛情を再確認させようとしたが、「自分が大切に思われている時」というのは、児童にとっては難しい問いかけであったようで、発言が出にくくなってしまった。
5　両親の思いを伝える。 	10	・宿題として①自分の名前の由来（わたしたちの道徳）をインタビューして日記に書いてくること、②家族にギュッと抱きしめられてくることを出題する。普段「ママはギュッとしてくれない」と寂しそうに言っていた児童は、この宿題内容に「にこっ」と笑顔になった。

5　本時における人権教育の手立ての有効性（○）と今後に向けた課題（●）

○　誰もが知っているキャラクターのマンガを紙芝居にして提示したことで、聞く意欲が高まった。ＴＴで役割分担をして読んだので、文字を読むことに抵抗がある児童にも話の内容が容易に伝わった。全員が内容を捉えることができたことで、自分の考えを持つことにつながり学習意欲を高めることができた。

○　ハンドサインによる挙手方法により、発言に消極的な児童にも授業に参加している実感を持たせることができた。意思表示をしなくてはいけないことから、友達の話を最後まで聞くことができ、自分の考えと比べて聞こうとする意識も高まった。

○　保護者に書いてもらった誕生に関するエピソード（①誕生前、誕生した日の感動したこと、②「どんな子に育って欲しいか」）の一部を名前を伏せて紹介した。保護者の愛情が伝わる話を、子どもたちは自分のことかと思って食い入るように聞き、自分の命もかけがえのないものであると感じることができた。

●　「生まれてきてよかったか、よくなかったか」の発問で全員が「よかった」の立場となったため、親は叱っていることに着目させて葛藤させようとした。子どもたちが気づきにくいことについて、葛藤につながる発問を工夫していく必要がある。

●　ＤＶＤでアニメの結末に出てくる両親の思いを見せたが、その後の段階での時間が少なくなってしまった。自分のこととして考えることができるような時間配分、発問の吟味が必要だ。

実践事例 第３学年 道　　徳	互いの体験や考えなどを伝え合うことで、道徳的価値の自覚を深めることができる授業

平成２９年９月８日
授業者：菅野　直美

１　主題名　ほんとうの友だち　　Ｂ－（９）友情、信頼
　資料名　なかよしだから（出典：小学校道徳３「明るい心で」東京書籍）

２　研究主題との関わり
【視点１】　主体的に活動するための課題設定の工夫
＜手立て＞　事前アンケートを活用し価値への方向付けを図るとともに、学習の見通しを持つことができるようにする。
【視点２】　考えを深め合う活動の工夫
＜手立て＞　ワークシートに自分の考えを書き、自分の考えや立場を確かめることができるようにする。
＜手立て＞　２人または３人で考えを伝え合うことができるようにする。

３　指導計画

時	○教師の指導・支援	人権教育がめざす資質・能力
事前	アンケートの実施。日常の観察など。	相手の立場に立って考える。
本時	道徳授業「なかよしだから」	人間尊重感・共感力
事後	相手の立場に立って考えられた場面の称賛。	人間尊重

４　本時について
（１）本時のねらい
　友達のことをよく考えて、友達を大切にしようとする心情を育てる。
（２）本時における人権教育の手立て
　役割演技をしたり友達と考えを伝え合ったりすることを通して、友達を大切にすることの大切さを実感することができるようにする。
（３）本時の実際

段階	学習活動・内容　◎中心発問	時間	・活動の様子
導入	１　アンケートの結果を見て話し合う。 ○　友達がいてよかったと思うのはどんなときでしょう。 ・励ましてもらったとき。 ・一緒に遊んで楽しかったとき。 ・助けてもらったとき。	５	・事前アンケートの結果を見ることにより、価値への方向付けができた。 ・自分の考えだけでなく、友達の考えも知ることができた。

展 開	2　資料「なかよしだから」を読んで話し合う。 （1）「ぼく」の気持ちを考える。 ○　ふん、とそっぽをむいたとき「ぼく」はどんな気持ちだったでしょう。 ◎　実君がなぜ「なかよしだから、なお教えられないよ」と言ったのか、だんだんわかってきた「ぼく」はどんなことを考えたでしょうか。 （2）考えを伝え合う。 ①ペア、または小グループで。 ②全体で。 	２０	・　授業者の話や板書をもとに、あらすじをとらえながら考えた。 ・ ワークシートに自分の考えを書き、自分の考えや立場を確かめた後、２人または３人で考えを伝え合った。
	3　自分の生活を振り返る。 ○　本当の友達とはどんな友達だと思いますか。	１０	・全体で発表を聞き合い、意味付け、価値付けしながら全体で共有していけるようにした。
終 末	4　本時のまとめをする。 考えたこと、思ったことなどを自分自身に向けて付箋に書き、ファイルのワークシートに貼る。	１０	・道徳のファイルや付箋などを活用し、自分の気づきや考えたことを残した。

5　本時における人権教育の手立ての有効性（○）と今後に向けた課題（●）

○　本時の価値に合わせたアンケートを実施して活用したことで、自分を振り返り学習の見通しを持つことができた。

○　子どもたちはワークシートに真剣に自分の考えを書くことで、自分の考えを確かなものにすることができた。

○　役割演技を通して友だちの考えを真剣に聞き合い、互いの気持ちを交流し認め合うことができた。

●　「ぼく」と「実くん」の両方の立場、気持ちを考えることが難しかった児童もいた。役割演技をさらに生かすためにゆさぶりの発問などを工夫していく必要がある。

実践事例 第５学年 算数	友だちと交流することを通して，公倍数の考え方を活用して課題を解決できる授業

平成２９年９月８日
授業者：榎本　愛美

１　単元名　　偶数と奇数,倍数と約数　　（７）整数の性質を調べよう

２　単元目標

偶数,奇数及び倍数,約数などについて知り、整数の性質についての理解を深めるとともに,整数の見方や数についての感覚を豊かにする。

３　研究主題とのかかわり

【視点１】主体的に活動するための課題設定の工夫

〈手立て〉　長方形の色板を並べて実際に操作することで、題意をつかませる。

【視点２】考えを深め合うための工夫

〈手立て〉　児童同士の考えをつなげながら話し合いをコーディネートすることで、共通点に気づかせる。

４　単元の指導計画（総時数１１時間　本時／第７時）

次	時	目標	学習活動
一	1 ・ 2	○偶数、奇数の意味や性質、整数は偶数と奇数に類別できることを理解する。	・　数をどのように2つに分けているか調べる。 ・　用語「偶数」「奇数」の意味を知り、すべての整数は、偶数と奇数に分けられることをまとめる。
二	3 ・ 4	○「倍数」「公倍数」「最小公倍数」の意味について理解する。	・　用語「倍数」を知る。 ・　「公倍数」「最小公倍数」の意味を確かめ、数直線上でいろいろな数の公倍数を見つける。
	5	○２つの数の公倍数を求めることができ、２つの数の公倍数は、最小公倍数の倍数になっていることを理解する。	・　４と６の公倍数の求め方を考える。 ・　公倍数は最小公倍数の倍数であることに気づき、公倍数の求め方に活用する。
	6	○３つの数の公倍数の求め方を理解する。	・　２と３と４の公倍数の求め方を考える。
	7 本 時	**○公倍数や最小公倍数の求め方を適用して、問題を解決できる。**	**・　縦6㎝、横8㎝の長方形の紙を同じ向きに敷き詰めて正方形をつくるときの、いちばん小さい正方形の1辺の長さの求め方を考える。 ・　公倍数を用いて、問題を解決する。**
三	8 ・ 9	○「約数」「公約数」「最大公約数」「素数」の意味について理解する。	・　縦12㎝、横18㎝の長方形の中に合同な正方形を敷き詰めるとき、隙間なく敷き詰められるのは、1辺の長さが何㎝の正方形のときか考える。 ・　用語「約数」を知り、約数と倍数の関係をとらえる。 ・　約数の性質を調べる。 ・　「公約数」「最大公約数」「素数」を知る。
	10	○2 つの数の公約数を求めることができ、2 つの数の公約数は、最大公約数の約数になっていることを理解する。	・　公約数は最大公約数の公約数になっていることに気づき、公約数の求め方に活用する。 ・　3つの数の最大公約数を求める。
四	11	○学習内容の定着を確認し、理解を確実にする。 ○発展問題に取り組み、見方や考え方を広げる。	・　「しあげのもんだい」「おもしろ問題にチャレンジ！」に取り組む。

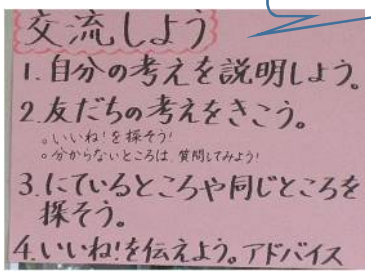
５　本時について

（１）本時のねらい（7/11 時）　　公倍数を利用して、問題を解決できる。【技能】

（２）本時における人権教育の手立て

交流で、友達の考えのよさに目を向けさせるとともに、全体での話し合いの際には、類推させたり、再生させたりすることで、友達の考えをよく聞き合いながら交流させる。

（３）本時の実際

段階	学習活動・内容	時間	活動の様子
導入	１　本時の課題を確認する。 たて６cm、横８cmの長方形の紙を同じ向きに、すきまなくしきつめて正方形を作ります。できる正方形のうち、いちばん小さいものの１辺の長さは何cmのときですか。 正方形の一辺の長さの求め方を考えよう。	５	 ・色板を並べる際に間違った並べ方を示すことで、「同じ向き」「すきまなく」「1番小さい正方形を作る」ということは理解することができた。
展開	２　解決方法の見通しを持つ。 ・かけ算・わり算　・図　・巣直線	５	・既習事項を意識させ、どのように考えたらよいか問いかけたので、「かけ算・わり算（計算）」「図」「数直線」が挙がった。 ・正方形は縦と横の長さが等しいことを改めて確認した。
	３　求め方を考える。 （１）　自力解決をする。 ・自分の考えをノートに書く。 （２）　３人グループで交流する。  交流の仕方の掲示 （３）　全体で求め方を話し合う。 ・図→数直線（倍数）→式（８×３） （６×４）	２５ （５） （５） (15)	・自力解決で６×８と書いている児童がいた。机間指導で式の意味を考えさせた。色板の縦と横の長さをもう少し分かりやすく示し、意識づける必要があった。 ・小グループの交流で、友だちの考えを聞くことで、問題の意味が理解できたり、公倍数を使えばよさそうだということに気づいたりしていた。 ・小グループの交流で悩んだグループから発表させ、色板を並べながら説明したことで、視覚的に理解することができた。 ・考えを類推させたり再生させたりして話し合わせたことで、６×８とした児童も内容を捉え直すことができた。→公倍数を使って考えているという共通点に気づくことができた。 ・１問目では、２つの数の倍数を書き出していた児童も、２問目では既習の簡単な求め方で解くことができた。
終末	４　本時のまとめをする。 （１）求め方をまとめる。 最小公倍数を使うと求められる。 （２）適用問題に取り組む。 ・適用問題１問→教科書の問題	１０	

６　本時における人権教育の手立ての有効性（○）と今後に向けた課題（●）

○　縦６cm横８cmの長方形の色板の提示があったため、問題の意味を捉えやすくなり、主体的な活動につながった。

○　黒板の前に集まっての話し合いは、少人数を生かした形態だった。発表に戸惑いを見せた児童がいたが、その児童を生かして話し合いを進めたのは、自信につながったと思われる。

●　１枚の色板の縦と横の長さや並べ方を確認し、分かりやすく示す必要があった。

●　多くの児童が話し合いに参加でるように、指名して推測・再生させるようなコーディネートを工夫する必要がある。

関連活動・体験活動の充実について

様々な活動を通して、互いの良いところを認め合うことや、他の人の役に立っていると感じることができる機会を提供し、児童一人一人が人権意識や自己有用感を高め、居心地のよい人間関係を作るための環境づくりを以下のように行っている。

①　学級掲示板の活用　　『じぶんのいいところ見つけたよ！』

児童のアンケートの結果から、自己肯定感が低い傾向が見られた。そこで、毎月１１日（いい子の日）に、自分のいいところを見つけて書く活動を始めたところ、自己肯定感が高まってきている。１～４年生は掲示板を利用して掲示し、みんながうにして見られるようにしている。５・６年生は、発達段階を考慮し、個人の冊子にして自分のいいところを記入するようにしている。

②　やかたの木（児童昇降口→特別活動室廊下掲示）の設置

教育目標の「やさしく・かしこく・たくましく」に向かってがんばっている友だちを見つけたら、みんなに紹介したり、感謝の気持ちを書いたりして、やかたの木に貼るようにしている。書いたものの中からいくつかを担当教諭が全校生の前で紹介する機会を設け、称賛も行っている。

③　人権コーナーの設置

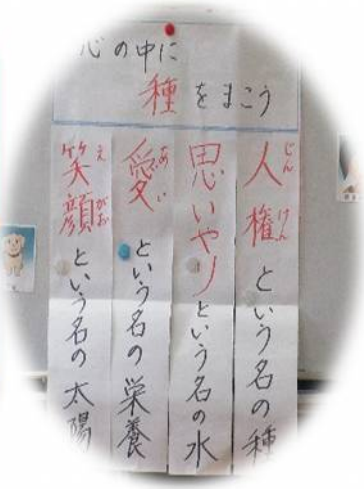
人権についての説明や人権教室の感想などを掲示し、他の学年の児童も知ることができるようにしている。

④　人権教室の実施

３・４年生が７月に、５・６年生が９月に人権擁護委員の方々を招いて、人権教室を実施した。人権の定義や、人権は誰もがみんな持っている大切な権利であることなどを学んだ。

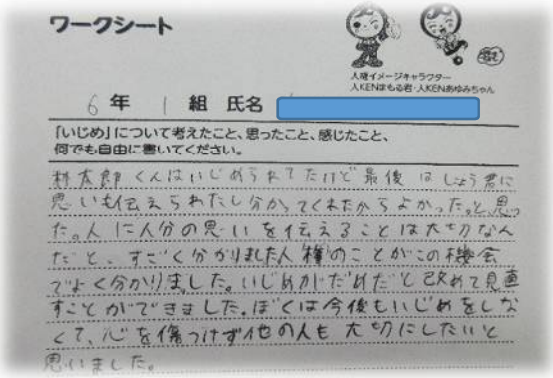
～３・４年生の様子から～

ＤＶＤ教材を視聴した後、友だちとけんかをしたときの気持ち、仲直りしたい気持ちなどについて考え、自分の考えや思いを見つめ直すことができた。



～５・６年生の様子から～

ＤＶＤ教材を視聴し、いじめについて考えた。いじめはよくないと分かってはいたが、人権教室を通して人の心を傷つけるからいじめはだめだと改めて認識することができていた。また、主人公が友だちに相談したことから、勇気を持って友だちや先生に相談することの大切さも感じることができた。

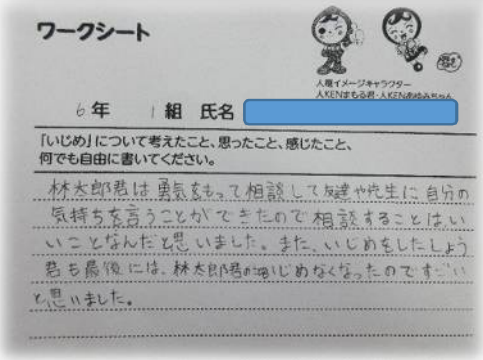

ワークシート

人権イメージキャラクター
人KENまもる君・人KENあゆみちゃん

6年　1組　氏名

「いじめ」について考えたこと、思ったこと、感じたこと、何でも自由に書いてください。

林太郎くんはいじめられてたけど最後はしょう君に思いも伝えられたし分かってくれたからよかったと思った。人に人分の思いを伝えることは大切なんだと。すごく分かりました人権のことがこの機会でよく分かりました。いじめがだめだとCKれて見直すことができました。ぼくは今後もいじめをしなくて、心を傷つけず他の人も大切にしたいと思いました。


ワークシート

人権イメージキャラクター
人KENまもる君・人KENあゆみちゃん

6年　1組　氏名

「いじめ」について考えたこと、思ったこと、感じたこと、何でも自由に書いてください。

林太郎君は勇気をもって相談して先生に自分の気持ちを言うことができたので相談することはいいことなんだと思いました。また、いじめをしたしょう君も最後には、林太郎君がいじめなくなったのですごいと思いました。

⑤　なかよしグループ（縦割り班）の活動の活性化

１年生を迎える会では、なかよしグループでゲームをして、楽しいひと時を過ごした。

まだ学校に慣れていない１年生も笑顔で過ごす、楽しいひと時となった。

よさこいの練習時間や休み時間に、同じ班の人同士で教え合う姿が見られ、本番では、１年生も踊りが苦手な子も自信を持って楽しく踊ることができた。

なかよしグループで様々な遊具で運動することを通し、他の学年の友だちとの交流を図ることと体力を向上することを目的として「西向 SASUKE」の時間を設定した。上級生が下級生を手助けしたり、グループ内で応援したりして、学年の枠を超えた交流が図られている。

⑥　体験活動の充実

～連合運動会～

今年度は、１４０周年記念大運動会として開催した。学校・地域が連携することのすばらしさを実感した。当日は悪天候で校庭が使えない状況のため、体育館で実施することとなり、児童は不安と落胆を隠せずにいた。ところが、児童が体育館で演技を行っている間、保護者や地域の方が校庭を整備してくださり、途中から外で行うことができた。

児童は、保護者の方々や地域の方々に感謝の気持ちを持ち、一層がんばることができた。児童・保護者・地域・学校の一体感を感じることができた運動会だった。

～地域の名人から学ぶ「総合的な学習の時間」～

総合的な学習の時間を中心に、地域の名人を講師に招き、郷土食作りや笠踊りの体験をしている。郷土食では、地域の特産品である赤しそを使ったしそジュース作りやエゴマを使ったさい餅作りなどを体験したり、笠踊りを通して地域の文化に触れたりるすることで、郷土愛を育んでいる。

～すこやか会（地域団体）主催の夏祭り「わんぱくフェスティバル」～

今年度で２９回目の伝統ある地域行事である。「すこやか会」が中心となり、人形劇鑑賞、露店、盆踊りなどが開催された。

毎年、小学生と保護者だけでなく、中学生や高校生、地域の方々も参加し、地域のふれあいの場となっている。

HoiClued

２　常葉地区人権教育実践の記録

（４）田村市立常葉中学校の実践

＜常葉中学校　研究・実践の概要＞

１　研究主題

研究主題：主体的な学びを通して互いに高め合う生徒の育成 副 主 題：互いを尊重し、伝え合う学びの工夫　（平成２９年度） 様々な意見を尊重し、思考を深める学びの工夫（平成３０年度） 自信をもって学び続ける生徒が育つ指導の工夫（平成３１年度）

２　主題設定の理由

本校では平成２６年度から平成２８年度までの３年間にわたって「自主的に発表・発言できる生徒」を目指す生徒の姿として研究を進めてきた。

生徒の実態として、リーダーとなる生徒の固定化や中心となる生徒へ依存する傾向が見られた。また、学習に関しては自分自身の学習に対する評価が低く、学ぶことに対する積極的な姿勢や意欲に欠けるという課題が挙げられていた。受け身の姿勢や学習に対する自信のなさが顕著に表れていたのが自主的な発言の少なさである。そのため、「課題設定」「意見交換や話し合いの場の設定」「評価・賞賛の方法」を工夫することにより、自分の考えに自信をもち、その考えを他へ伝えることのできる生徒を育てたいと考えた。学校教育全体を通して成就感や達成感を味わわせ、自己肯定感を高めることを意識した指導を行ってきた。また、生徒を「発言者・発表者として育てる」ためには、同時に「聞き手として育てる」ことが不可欠であり、それに向けた指導の在り方が検討された。

３年間の研究を終えて、生徒の意見発表の機会が増え、自主的な発言や互いに教え合う姿も多く見られるようになった。また、生徒を「聞き手として育てる」ことについては、生徒の発表後に賞賛の言葉が聞かれたり拍手が起こったりするなど、成長が見て取れる。

生徒を対象としたアンケートではほとんどの生徒が「友達のよさを認めている」と答えており、「周囲が話しやすい環境を作ってくれる」という記述もあった。認め合いや賞賛があることによって親和的な雰囲気が醸成されていると考えられる。

課題としては、小集団活動がねらいの達成に向けて十分に作用しない場面が見られたことが挙げられる。また、意見交流や話し合いが「他の生徒の意見に触れた」という段階で終わってしまうことも少なくないため、他から学んだことを生かした次の段階の活動を設定し、学びを深める指導を展開しなければならない。加えて、生徒の自己肯定感を高めるための、生徒同士の関わり、生徒への教師の関わりについての検討も求められる。

これらの状況から、「互いの考えや良さを認め合う」ことで「自己肯定感」をもたせることが主体性につながると考えられる。したがって、授業や学校行事の諸活動の中で他者から認められたり、賞賛されたりすることで自分への肯定的な気付きを促すことが必要となる。「自分が認められている」ことは「自分はできる」という自信につながり、様々な場面での主体的な学びにつながるであろう。それによって「他の考えから学び」、「思考を深める」活動を通して自信をもって学び続ける生徒が育つと考え、この主題を設定した。

３　本年度の研究における実践事項

３年間の研究の見通しとして１年次は「自分の意見を話すこと・他の意見を聞くこと」、２年次は「自分の意見と他の意見を比較・検討し考えること」、３年次は「互いの意見を認め合いさらに学びを深めること」に重点を置き、副主題を設定している。

本年度の研究にあたっては、以下の項目を踏まえて実践と研究を進めていく。

（１）研究の視点

視点１【多様な考えを受け入れ、一人一人の考えや活動のよさを認め合う場を設ける指導の工夫】

意見交換や話し合い､生徒の発表を通して生徒の考えが生かされる授業を構想し、効果的な形態や発表方法を探る。また、生徒を「聞き手」として育てるための指導方法を工夫する。

視点２【生徒の考えや意見を授業で生かし、思考の深まりが持てるような指導過程の工夫】

生徒の自信につながる成就感や達成感を与える授業者の関わりと、周囲の生徒の関わりの両面から考える。生徒の考えをつなぎ、より深い思考を持てるようなコーディネート力を磨く。

視点３【自己や他の行いを振り返ることで、自己肯定感を高められるような指導の工夫】

授業の中だけでなく、毎日行う「小さないいこと見つけた運動」、生徒会が中心となって行う「いいねの木」などの活動の充実を図る。

これらを基にしながら、学年の特徴を踏まえた計画を立案し、学校教育全体を通して互いに認め合う雰囲気の醸成に努めていく。

（２）人権教育が目指す資質・能力

人権教育がめざす資質・能力 「自分の人権を守り、他者の人権を守ろうとする意識・意欲・態度」

「人権に関する知的理解」と「人権感覚」を高めるための三つの側面として「知識的側面」「価値的・態度的側面」「技能的側面」が示されている。（１）に挙げた視点は、「能動的な傾聴、適切な自己表現等を可能とするコミュニケーション技能」の獲得などの「技能的側面」と、「自己についての肯定的態度」「自他の価値を尊重しようとする意欲や態度」などの「価値的・能動的側面」に関わる部分が大きい。

中学校の卒業と同時に大きな環境の変化が想定され、社会において求められる責任も大きくなる。これらを踏まえ、授業および諸活動における指導では「知識的側面」が高まる指導を生徒の実態に応じて実践する。

４　研究内容

（１）各教科および道徳、学級活動においては、「視点１」「視点２」に基づき、授業実践、検証を行う。

（２）「視点３」を踏まえた継続的活動、定期的な活動の充実を図る。また、学校行事を自己や他の行いを振り返る機会とし、他からの評価を自己肯定感につなげられるよう生かす。

（３）総合的な学習の時間に行われている「自己発見に関わる学習～性・こころに関する指導～」により、中学生の発達段階に応じた指導を充実させる。

（４）生徒を対象としたアンケートを実施し、変容をとらえる。

実践事例　1	同じ短歌を選んだ生徒によって構成される小集団活動を通して、他の人の視点や表現の良さを学び合い、他の人の疑問について意見を出し合うことによって、鑑賞を深める授業。
第２学年 国語	

平成２９年６月２８日
授業者：渡辺　春江

1　単元名　言葉と向き合う　「新しい短歌のために」「短歌を味わう」

2　単元の目標
○短歌を読む楽しさを知り、その表現の美しさを味わう。（関心・意欲・態度）
○解説文と短歌を読み、筆者のものの見方について自分の考えをもつとともに、作品中の言葉や表現に即して情景や心情を想像する。（読む）
○語句の効果的な使い方や、想像した情景や心情を基に鑑賞文を書く。（書く）
○短歌のリズムを意識しながら音読し、伝統文芸の世界に親しむ。
（伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項）

3　指導計画　（総時数　４時間）
（１）「新しい短歌のために」を読んで短歌について理解し、筆者のものの見方をつかむ。
---------- １時間
（２）短歌を音読し、具体的な言葉や表現に即して情景や心情を想像する。---- ２時間（本時 2/2）
（３）鑑賞文を書き、選んだ短歌の魅力を伝え合う。---------- １時間

4　本時について
（１）本時のねらい
短歌に詠まれた情景や心情を想像し、伝え合うことができる。

（２）本校研究主題との関連と手立て
研究主題　「主体的な学びを通して互いに高め合う生徒の育成」
【視点１】多様な考えを受け入れ、一人ひとりの考えや活動のよさを認め合う場を設ける指導の工夫
＜手立て＞自分が選択した短歌について想像した情景や心情を伝え合う活動では、小集団の中で全員に発言の機会を持たせ、互いの良さを認め合い、学び合う場とする。

【視点２】生徒の考えや意見を授業で生かし、思考の深まりが持てるような指導過程の工夫
＜手立て＞小集団で伝え合う活動を行った後に、グループ内で解消されなかった疑問を全体で共有し、他グループの生徒にも考える場を与える。

（３）本時の実際

段階	学習活動・内容	時間（形態）	○生徒の活動の様子 ◇研究主題との関わり
導入	1　本時の学習課題を把握する。 ○短歌から想像した情景や心情を伝え合おう。 2　学習の手順を把握する。	5 （一斉）	○教師の説明や板書によって、活動の流れを把握し、学習の見通しを持つことができた。

展開	3　自分が選んだ短歌について考えを記入する。 (1)短歌の大意、想像した情景や心情、心引かれた言葉や表現を書く。 	１５ （個別）	○まず大意、次に季節、場所、人物など様々な観点から、歌に詠まれたものを想像して書くことに取り組んだ。
	(2)疑問点や他の人の意見を聞きたい点があれば書く。	5 （個別）	○情景や心情が上手くまとまらない生徒も意見交流に参加するための材料は記入することができた。
	4　「３」で記入したことについて伝え合う。 (1)自分の考えを小集団で伝え合う。 	１５ （小集団）	◇小集団の中で全員に発言の機会を持たせ、互いの良さを認め合い、学び合う場とする。【視点１】 ○同じ短歌を選んだ生徒で小集団をつくり、伝え合う活動を行った。共感や自分にない視点への賞賛を伴う伝え合いができた。 ◇グループ内で解消されなかった疑問を共有し、他グループの生徒にも考える場を与える。【視点２】 ○二つの疑問が出され、それについての考えが発表された。
	(2)各グループから挙げられた疑問について意見を出し合う。	5 （一斉）	
終末	5　本時の授業について振り返り、次時の学習について見通しを持つ。	5 （一斉）	○本時で解決されなかった疑問について話し合うことを確認した。

5　本時における手立ての有効性（○）と課題（●）

○個人で考え、ワークシートに記入する過程を経ての伝え合いであったため、それぞれの生徒が自分なりの鑑賞や疑問を伝えることができた。同じ短歌を選んだ生徒で２名から４名の小集団を組ませた。他の人の意見に対する共感の声や、自分とは異なる視点や深い鑑賞に対する賞賛の声が聞かれ、互いの良さを認め合い、学び合う場として有効であった。

●自分が選択した短歌について鑑賞文を書くことを前提としており、鑑賞の対象が限定される。他の短歌についても優れた気づきがあり、全体で共有すべきものであると考えた。グループ内で解消されなかった疑問を全体の場で取り上げ、意見を出し合うことを手立てとしたが、生徒は自分の疑問が価値あるものと捉えられず、教師がひろって示す形となった。「自分の疑問は他の人の学習にとっても価値あるものだ」という意識を高め、積極的に発言できる環境づくりに努めなければならない。

実践事例　２	生徒の考えを課題設定に生かし、小集団での話し合いや全体での説明を通して、多様な課題解決の方法を学ぶ授業。
第３学年 数学	

平成２９年６月２７日
授業者：大坂　理香
渡辺　颯

１　単元名　平方根

２　単元の目標
○　様々な事象を数の平方根でとらえたり、それらの性質や関係を見出したりするなど、数学的に考え表現することに関心を持ち、意欲的に数学を問題の解決に活用しようとする。（関心・意欲・態度）
○　数の平方根についての基本的な知識や技能の活用を通して、数学的な見方や考え方を身に付け、論理的に考察することができる。（見方や考え方）
○　数の平方根をふくむ簡単な式の計算をしたり、数の平方根で表現したり処理したりすることができる。（技能）
○　数の平方根の必要性と意味などを理解している。（知識・理解）

３　指導計画（総時数２１時間）
（１）平方根……６時間
（２）根号をふくむ式の計算……９時間
①　根号をふくむ式の乗除……４時間（本時１／４）
②　根号をふくむ式の加減……２時間
③　根号をふくむ式のいろいろな計算……１時間
④　平方根の利用……１時間
⑤　基本の問題……１時間
（３）章のまとめ……１時間

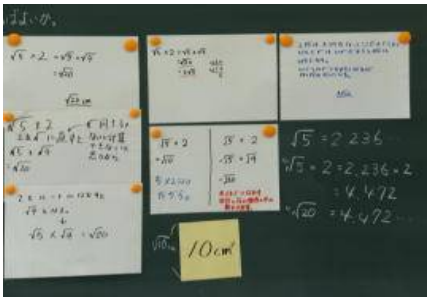
４　本時について
（１）本時のねらい
根号をふくむ式の乗法の計算のしかたを見いだし、それを用いて乗法の計算をすることができる。

（２）本校研究主題との関連と手立て
研究主題「主体的な学びを通して互いに高め合う生徒の育成」
【視点１】多様な考えを受け入れ、一人ひとりの考えや活動のよさを認め合う場を設ける指導の工夫
＜手立て＞課題解決に向けて予想した結果や方法を班で話し合わせる。その際に、考えがまとまらなかった生徒には、自分の考えが持てた生徒の発表から学ばせる。

【視点２】生徒の考えや意見を授業で生かし、思考の深まりが持てるような指導過程の工夫
＜手立て＞①授業の導入では、生徒から出された考えをもとに本時の課題につなげる。
②課題解決の方法を発表する活動では、違う方法を用いている班を意図的に指名し、様々な方法を比較検討できるようにする。

（３）本時の実際

段階	学習活動・内容	時間（形態）	○生徒の活動の様子 ◇研究主題との関わり
導入	１　問題に取り組む。 面積が５㎠の正方形を４つ並べてできる、大きな正方形の１辺の長さを求めてみましょう。	５（個別）	○実物を提示、T2 の個別支援により見通しを持つことができた。 ◇出された考えをもとに本時の課題につなげる。〈視点２〉

	・$\sqrt{5}\times 2$　・$\sqrt{5}+\sqrt{5}$　・$\sqrt{20}$ 2　本時の課題を把握する。 根号を含む式の乗法はどのように計算すればよいか考えよう。	5 （一斉）	
展開	3　課題を解決する。 （1）$\sqrt{5}\times 2$ の結果を予想する。 ・$\sqrt{5\times 2}$　・$\sqrt{5\times 4}$　・$\sqrt{20}$ （2）予想した方法が正しいかどうかを説明する。 ①　既習事項を使って考える。 ②　予想した結果や方法を班で話し合う。 ③　予想した結果や方法を発表する。  ④　全体で確認する。 （3）評価問題に取り組む。 （4）習熟度別問題に取り組む。	3 （個別） 5 （個別） 7 （班） 5 （一斉） 5 （一斉） 5 （個別） 5 （個別）	 ◇班で話し合わせる。その際に、考えがまとまらなかった生徒には、自分の考えが持てた生徒の発表から学ばせる。 〈視点１〉 ○話し合いの手順をあらかじめ指示することで班のメンバーに自分の考えを伝えることができた。考えが持てなかった生徒は、方法を学ぶために真剣に説明を聞いた。 ◇違う方法を用いている班を意図的に指名し、様々な方法を比較検討できるようにする。 〈視点２〉 ○生徒自身がコースを選択し、計算練習に取り組むことができた。
終末	4　本時のまとめをする。 （1）本時のまとめを聞く。 （2）次時の学習内容について見通しを持つ。	5 （一斉）	○次時は、根号を含む式の除法に取り組むことを確認した。

5　本時における手立ての有効性（○）と課題（●）

○課題設定の段階で生徒の意見を反映させることは、課題解決への意欲を高めることにつながった。

○小集団で話し合う場を設けた。互いの説明を熱心に聞き合い、学び合う態度をさらに高めることができた。

●小集団活動では自分の考えを他の人に伝える活動があった。話し手にとっては自分の思考を他の人に分かるように説明することが難しく、聞き手は理解できた部分と理解できなかった部分を明らかにしながら聞く力が十分でない。伝える力、 聞く力をさらに高めていく必要がある。

実践事例　３	＜保護者参観の授業＞ 　外部講師を招いて行う、思春期の特性や男女の心身の特質等への理解を深める授業。
総合的な学習の時間	

ここに示す実践事例は、常葉中学校保健教育計画「性・こころに関する指導」に位置づけられているものである。実際の授業は「自己発見に関わる学習」として総合的な学習の時間に行われている。

毎年１２月の授業参観日に実施することとしており､多数の保護者が参観する中での授業となる。授業参観日に実施することで、保護者が子どもへの理解を深め、人権に対する意識を高める機会となっている。

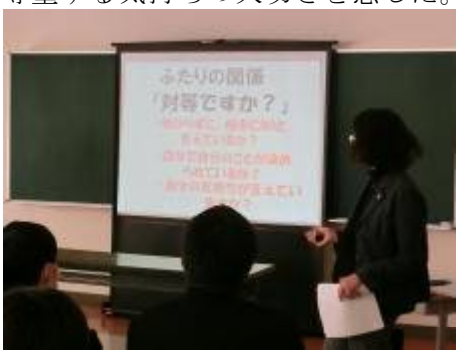
学年の発達段階に応じ、１学年から３学年まで、次の主題名、ねらいで指導が行われる。現代社会の問題を取り上げた３学年の「デートＤＶから考える相互理解」についてのみ授業の実際を紹介した。平成２９年度の授業は１２月に予定されているため、ここには平成２８年度の実践を示す。

第１学年　指導者：精神保健福祉士　大森　洋亮　様　　１学年担当教員
１　主題名「思春期の心と行動の理解～思春期危機を乗り越える」（田村市こころの健康事業） ２　ねらい 　思春期は人間関係の変化や受験など様々な場面で誰もが悩みを持つ時期であり、気持ちの切り替えや誰かに相談することで対処できることを理解する。

第２学年　指導者：助産師　吉岡　利恵　様　　２学年担当教員
１　主題名「異性との関わり」　（田村市思春期保健講座） ２　ねらい （１）欲求の違いなど、男女の性の性質を理解し、男女交際の在り方を考えるとともに、互いに尊重し合う態度を育てる。 （２）互いの良さを伸ばし合えるような男女のかかわり方を考えさせ、適切な判断、意志決定ができるようにする。 （３）誤った性情報や流行に惑わされることなく、自分や相手を尊重し、大切にする態度を養う。

第３学年　指導者：助産師　松本　美津子　様　　３学年担当教師
１　主題名「デートＤＶから考える相互理解」（田村市思春期保健講座） ＜主題設定の理由＞ 　現代の性に関する問題は、性情報の氾濫、十代の性感染症や人工妊娠中絶の増加ばかりではなく、ＤＶやストーカー・セクシャルハラスメント等の問題も取り上げられている。３年間最後の性の授業として、ＤＶについて正しい知識を学び、相手を尊重する意識を高め、相互に協力する態度を養わせ、性・いのちを大切にし、正しい意志決定ができる生徒を育てたい。 ２　ねらい （１）デートＤＶがどのようなものであるかを理解する。 （２）お互いに尊重し対等な関係を築くにはどうしたらいいのかを考えるきっかけにする。

３　授業の実際

段階	学習活動・内容	時間 （形態）	○生徒の活動の様子
導入	１　講師の紹介をする。 ２　本時の学習課題を確認する。 ○デートＤＶについて学び、お互いに尊重し合える関係を築けるようにしよう。	５ （一斉）	
展開	３　「デートＤＶ」について理解する。 (1)「デートＤＶ」って何？ ・ＤＶは犯罪、そして人権侵害 ・意識チェック ・暴力の種類 (2) なぜＤＶをするのだろう？ ・ＤＶは「力と支配」 ・ロールプレイ（デートＤＶ版） ・グループワーク (3) ＤＶをしないために、されないために、間違っていることに気づいて学ぶ。 【気づくこと】 ・力と支配は間違っていること ・暴力を甘くみる風潮 ・ジェンダー・バイアス 【学ぶこと】 ・相手を尊重すること ・怒りを態度や行動で表さないこと ・自分の感情を相手のせいにしないこと (4) 終わりに ・友だちへのサポートについて ・ＤＶをする人にも、される人にもならないために	１０ （一斉） １０ （一斉） １０ （一斉） １０ （個別）	○「意識チェック」結果を活用しながらＤＶについて説明を聞いた。 ○デートＤＶの事例について、受けた気持ちを想像した。 ○なぜＤＶをするのか、どんな気持ちになるのかをロールプレイやグループワークを通して考えることができた。 ○資料を参考にしながら、自分で選ぶ「自分らしさ」に気づいた。 ○成功版のロールプレイを行い、相手を尊重する気持ちの大切さを感じた。  ○デートＤＶのリスクとして、望まない妊娠、性感染症があること、またその予防法について知ることができた。
終末	４　学習のまとめを行う。 ・学習を振り返り、まとめの話を聞く。 ・授業の評価を記入する。 ・感想をワークシートに記入する。	５ （一斉）	＜生徒の感想の一例＞ デートＤＶについて詳しく知ったのは今回が初めてでしたが、その危険性を知ることができたのでよかったです。

４　本時の成果

生徒たちにとって、「デートＤＶ」はまだ現実的に起こっている問題ではない。しかし、具体的な事例を示しながら話をすることで、自分にも起こりうる問題としてとらえさせることができた。「暴力を甘く見る風潮」「ジェンダー・バイアス」などに対する問題意識を持たせることにより、人権感覚を高めることにつながった。

人権教育推進のための全校的な取り組み

田村市立常葉中学校における実践

１　互いの良さを認め合う生徒主体の取り組み「いいねの木」

生徒会長の提案に賛同し、全校生で「いいねの木」と名付けられた活動を行っている。その名の通り「いいね」と思った他の人の行動などを書き、木の形をした台紙に貼り付けるというものである。平成２８年度後期生徒会総会から実施されている。

平成２８年度後期生徒会総会で完成した木

木の形をした台紙、個人の記入用紙は生徒会執行部が準備している。全校生が一堂に会する中、自分が「いいね」と思った内容を記入し、その場で台紙に貼り付けていく。

平成２８年度後期生徒会総会で最初の「いいねの木」が完成した。個人の記入用紙は青葉の形であった。

平成２９年度前期生徒会総会
満開の桜に似た「いいねの木」が完成
生徒からは大きな拍手が起こった

自分が書いた「いいね」を貼っていく

完成した「いいねの木」は生徒昇降口近くの廊下に掲示される。生徒たちは他学年の木にも目を向け、顔をほころばせている。

個人名を挙げて記入されているものもあり、その内容に共感する姿も見られる。この取り組みによって他の人の良さを新たに発見することもあるが、再確認する機会となることも多い。

昇降口近くに掲示された「いいねの木」

「１年生が……」「３年生が……」と、他学年の生徒の良いところについて書かれているものもある。上級生と下級生の温かい関係づくりにもつながっている。

２　自己肯定感を高める取り組み「小さないいこと見つけた運動」

前述の「いいねの木」により、他の人の良さに目を向けようという意識が高まった。自分が気づいた他の人の良さを表現すること、また自分自身の良さを認め表現することで自己肯定感や有用感をさらに高めたいと考え、この取り組みを設定した。

「小さないいこと見つけた運動」はその日一日を振り返り、「小さないいこと」を記録していくという継続的な取り組みである。記録する内容は①感動したこと、②自分のよい行い、③感謝としており、毎日いずれか一つを記入する。月の終わりには、そのひと月で一番と思うものを別紙に記入し、廊下に掲示することで「いいこと」を共有している。

ひと月分の記録用紙と№１の記入用紙

廊下に掲示されたその月の№１

廊下に掲示された「□月の№１」はふた月分が並び、前月のものと見比べることができるようになっている。開始当初は事実だけの記入が多く見られたが、回を重ねるうちに相手に対する思いや、自分の今後に関わる言葉が書き添えられるようになった。

３　具体的な問題について考える取り組み

（１）ＮＨＫ「いじめを考えるキャンペーン」　いじめをノックアウト

全クラス共通の資料を用いて、学級担任が指導する。今年度は９月１９日に実施した。最後に「いじめをなくすために自分にできることは何か、何をしたいか。」を行動宣言として記入する。傍観者ではなく、当事者としての意識が高まる瞬間である。

女子５人仲良しグループ内で起きたトラブルについて考える。
「これっていじめ？みんなはどう思う？」
「“どんな行為の選択肢”があったのかな？」

いじめをノックアウト！
「わたしの行動宣言！」を書く。

（２）情報モラル　ＳＮＳや掲示板を使うときのルールを考えよう

全クラス共通の取り組みであり、学級担任が指導する。今年度は９月２１日に実施した。話し合いの中では「インターネットを悪用した人権侵害」に関わる意見も出されている。

ＳＮＳの「良いところ」と「悪いところ」を考え、付箋に記入する。

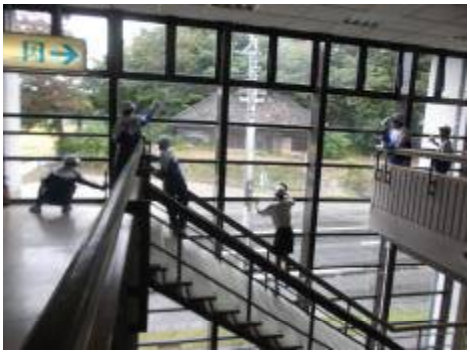
ＫＪ法で意見を出し合い、整理していく。様々な角度から意見が出された。

それぞれのグループの発表を聞く。

必要なルールについて意見を出し合う。

４　その他の取り組み

（１）思いやりと感謝・奉仕の精神を育てる取り組み　校外ボランティア活動



１年生から３年生までの全校生徒が、学校外の公共施設でボランティア活動を行っている。自分たちが利用している施設に加え、児童生活センターや特別養護老人ホームなどにも出かけている。生徒にとっては自分たちの住む地域を知る機会の一つとなっている。

今年度も１年生から３年生までの異学年の班を編制し、３年生を中心としながら協力して活動した。あいにくの雨のため屋内での活動となり、ガラス磨きを中心としたボランディアとなった。地域の方から声をかけられる場面もあり、「ご苦労様」というねぎらいの言葉に生徒は笑顔で応じていた。

（２）３年生から後輩たちへ　「新人大会に向けての応援メッセージ」

一人一人が書いたメッセージをクラスごとに模造紙に貼り掲示

新人総合大会を控えた後輩たちへ、部活動を引退した３年生から応援メッセージが贈られた。異学年間のつながりの深さと、３年生の温かさが感じられる取り組みであった。職員室前の廊下に掲示された。自分が所属した部の後輩に向けて、具体的なプレーに関するアドバイスもあり、真剣な表情で文字を追う１、２年生の姿が見られた。

（３）「全国中学生人権作文コンテスト」福島県大会への参加

昨年度までは自由参加としていたが、今年度は人権に関する知的理解の一助とすることをねらいとし、中学３年生（４４名）を対象として人権作文を書く時間を設けた。

作品の応募票には「作品の内容」として１７の分類が示されている。人権問題として取り上げられるものの全てを含むわけではないが、中学生が人権感覚を備えていくための知的理解に関わるものであり、生徒にとっては初めて触れる言葉もあった。

生徒が実際に選んだテーマは次の通りである。人権を考える視点を学ぶ機会とはなったが、作文のテーマとして選ばれたものは限られていた。何が生徒にとって身近な問題であるのかを知ると同時に、社会を見る視野を広げていくための指導について考えさせられる結果となった。

(1)女性問題をテーマとした作品	
(2)子どもに関する問題をテーマとした作品	１４編
(3)高齢者問題をテーマとした作品	５編
(4)障害のある人に関する問題をテーマとした作品	６編
(5)同和問題をテーマとした作品	
(6)アイヌの人々に関する問題をテーマとした作品	
(7)外国人の人権問題をテーマとした作品	
(8)ＨＩＶ感染者・ハンセン病患者等に関する問題をテーマとした作品	
(9)犯罪被害者等に関する問題をテーマとした作品	
(10)性的指向・性同一性障害に関する問題をテーマとした作品	
(11)差別問題一般をテーマとした作品	１編
(12)戦争や平和をテーマとした作品	７編
(13)環境問題をテーマとした作品	４編
(14)プライバシー問題をテーマとした作品	１編
(15)東日本大震災に起因する人権問題をテーマとした作品	２編
(16)その他オリンピック・パラリンピック競技大会をテーマとした作品	
(17)その他人権の尊重をテーマとした作品	４編

２　常葉地区人権教育実践の記録

（５）田村市立常葉幼稚園の実践

＜実践事例＞「一緒に行こう！」自分も大切にすることで他の人も大切にする優しい人づくり　常葉幼稚園

＜幼児の姿＞　２年保育　５歳児

○　クラスの構成　５歳児　１７名（男児６名　　女児１１名）

○　Ａ子：集団行動の中でうまく他児についていけないことが多く、教師と一対一のかかわりが多い。

○　Ｂ子：入園当初は友達が困っていても興味を示さず、声をかけることもしなかった。

幼児の姿　幼児の変容	●環境構成　★教師のかかわりと援助　教師の思い
≪年中　４月≫ 入園当初から「小さい順に並んでください」「女の子来てください」など教師の呼びかけにＡ子は「わからない」と泣いてしまうことが多く、他児は見ているだけだった。 最初は「教師に頼まれたから」と渋々Ａ子の手を引いていたが、教師に「ありがとう」と言われることで自信をもち始めている。	★Ａ子に全く興味がなかったＢ子に「一緒に並んであげて」と声をかける。 友達に興味をもち、かかわっていってほしい。 ★助けてくれた子には「ありがとう」と声をかける。 誰かが困っていたら助けてあげられる優しい気持ちが育ってほしい。
≪年長　４月≫ １年間一緒に生活をしてきたことで、誰かが困っていたら助けようとする気持ちが育ってきた。また、Ａ子に対しても優しくかかわろうとする姿が多くみられている。 Ａ子は、年長児になったことを喜ぶ半面、支援員がいなくなったことや保育室が変わったことに不安を感じている。 Ｂ子は、友たちに興味をもち、友達と一緒に活動しているが、やりたいことがあっても自分から遊びに誘うことができない。 ≪９月≫ 運動会の練習が始まり、「綱引きの順」や「よさこいの順」など考えて並ばないといけないことが増えてきた。 Ａ子が不安な顔をしていると、Ｂ子は、手をつなぎ「一緒に行こう！」と声をかけ、手を引いた。 Ｂ子が「解らなかったら聞いてね」と優しく声をかけ、Ａ子は「ありがとう」と笑顔を見せた。 Ｂ子は、自分から友達にかかわろうとしなかったが、少しずつ「一緒に遊ぼう」と自分から誘うなど行動する姿も見られるようになった。	★進級したことで自信をもち、年中児の世話を積極的にやろうとする園児に対し、教師が感謝の気持ちを伝えることで、Ａ子に対してもお礼を言えるように気づけるようにした。 今まで、困っているとお礼も言えないほど混乱してしまうＡ子だが、少しずつ「ありがとう」と感謝の気持ちを言えるようになってほしい。 教師の見守りだけでなく、友達も自分のことを気にしてくれていると感じ、安心したのではないか。 友達一人一人の優しさに気づき、その優しさを認めることで、自分の人を思いやる気持ちに気づいていってほしい。

＜成果と考察＞

・　友達や教師から「ありがとう」と言われることで、クラス全体で少しずつ友達に優しくしようとする姿が多くみられるようになってきた。

・　友達からの優しさを経験することで、「自分も困っている友達に声をかけよう」など友達に優しくしようと思えるようになったのではないか。

＜実践事例＞「クワガタさん、元気でね」　昆虫を介して命の尊さを感じた事例　　常葉幼稚園

＜幼児の姿＞　　２年保育　５歳児

○　クラス構成　５歳児１８名（男児８名、女児１０名）

○　自分の思いを伝えたり相手の思いを聞いたりして、話し合って物事を決める姿が多くなっている。

○　昆虫を捕まえたり観察したりして楽しむが、扱いが荒く死なせてしまうこともある。

幼児の姿　幼児の変容	●環境構成　★教師のかかわりと援助　教師の思い
６月から、クラスでクワガタ虫を飼育する。世話をしたり、様子を観察したりを楽しんでいる。	
＜９月＞ A男「あれ！クワガタが動いてないよ！」 B男「寒くなってきたから、そろそろ死んじゃうのかな。」 A男「このまま家族に会えないで死んじゃうのは、かわいそうだよ。」	寒くなりクワガタ虫が弱ってきている。 観察の中で、弱っていることに気づき、今後の飼育をどうするのかを自分たちで考えてほしい。 ★A男の言葉を拾い、他児に聞こえるように「そうだね、先生だったら悲しいかもしれないな」と話す。
A男の言葉に、クラス全員がクワガタ虫の気持ちを考え始める。	昆虫の気持ちや、命の尊さに気づくきっかけとなるに違いない。
C子「先生、クワガタを逃がしてあげた方がいいと思う。」 ほとんどの子が放すことを選択する中、D男は「ぼくは、まだお別れしたくない」と思いを伝える。	★C子の思いを全員に伝え、「逃がしてあげる？それとも最期まで面倒見る？」とクラス一人一人の思いを尋ねる。 ★D男の思いと他児の思いを汲み取り、全員が納得した上で、３日後に放すことを決める。
＜約１５分後＞ A男「先生大変！クワガタが死んじゃいそうだよ！」 みんなが駆け寄り、死が近いことを話し合う。	クワガタ虫がひっくり返り動かない。 ●より観察がしやすい場所に飼育ケースを置く。
D男は、悲しい表情をしてしばらく何かを考えた後、「ねぇ、やっぱり今日逃がしてあげよう！」とみんなに話す。	★D男が一人で考えている姿を大切にし、話しかけずに見守る。
放虫する際に、ほとんどの子が「今までありがとね」「家族に会って、元気になるんだよ」などと、クワガタ虫に声をかける。 D男は、クワガタ虫をじっと見つめ、涙を流す。	★３ヵ月間しっかり世話をできたことを認め、また、クワガタ虫の成長を気づかせながら、木の幹に放す。 ただ放すのではなく、３カ月間飼育してきたクワガタ虫とのお別れに、寂しさなどを感じてほしい。
D男は、クワガタ虫が動かず、もうすぐ死んでしまうかもしれないことに涙を流した。この出来事をきっかけに、『命』を題材にした絵本の読み聞かせで泣くようになる。	

＜成果と考察＞

- 遊びの中で見つけた昆虫ではなく、自分たちが飼育してきたクワガタ虫の弱った姿を見たからこそ、命の尊さを学ぶことができたのではないか。
- クワガタ虫の姿を自分と置き換え考えたことで、「悲しい」「可哀想」などクワガタ虫の気持ちに気づきことができた。
- クワガタ虫の気持ちや、今後の飼育をどうするかを話し合う時間を設けたことで、一人一人が自分の思いを伝え、クラス全員が納得して放虫することができた。

３　人権教育に関するアンケート

（１）児童生徒

（２）教職員

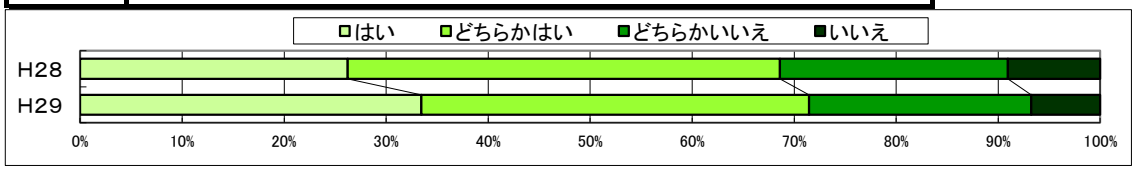
（３）保護者

人権教育に関するアンケート《児童生徒》集計　結果

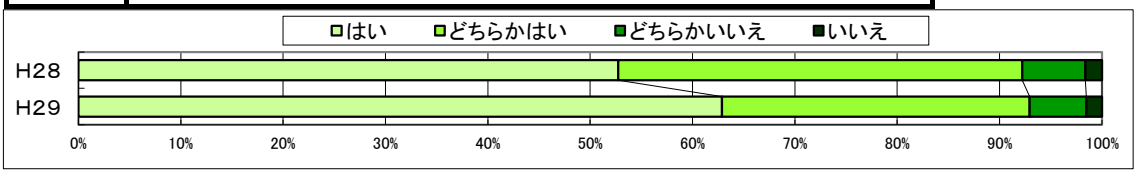
平成２８年度調査(H28．７月集計)と平成２９年度調査（H29．７月集計）の比較

○　人権教育を意識した様々な教育活動が推進されてきた中で、自分自身を見つめ直したり、お互いの良さを認め合ったりするなど、すべての項目において人権意識が高まったと言える。
●　「自分のしたことが〇〇のためになった」という項目についても、よい変容は見られているものの、他の項目と比較すると、自己肯定感が低い傾向がある。自分自身にまだ自信がないことや、謙遜してしまう傾向が背景にあると考えられるが、課題として意識した取組を考えていきたい。

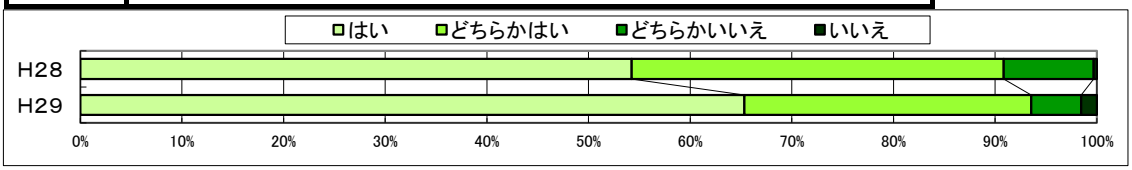
質問1	自分のよいところを知っている。



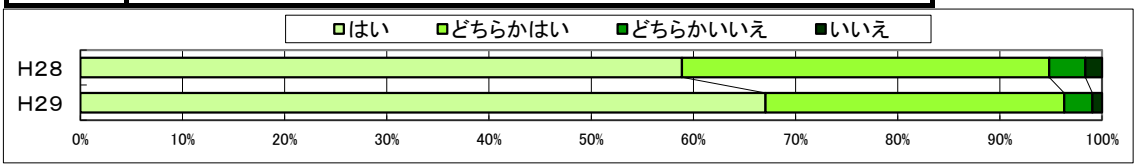
質問2	友だちのよいところに学ぶことがある。



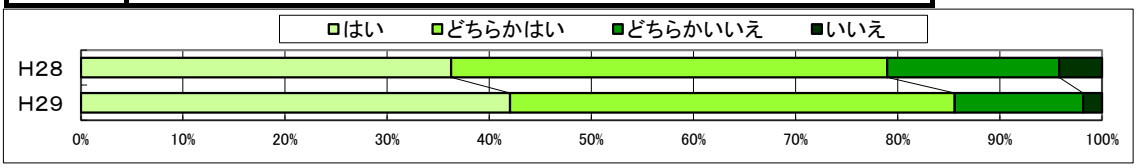
質問3	学級のみんなと協力し合っている。



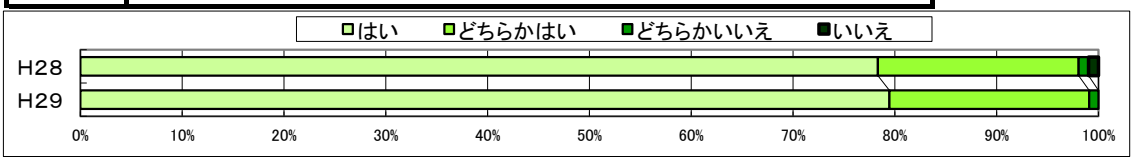
質問4	まわりに困っている人たちがいたら、助ける。



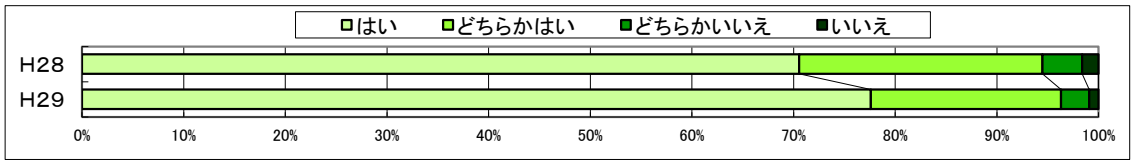
質問5	自分が困っている時は、まわりに助けを求める。



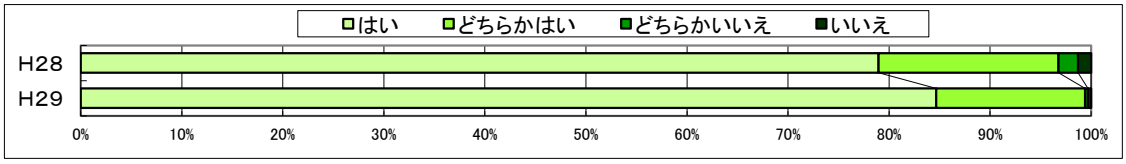
質問6	考えや感じ方には、人それぞれ違いがあってよいと思う。



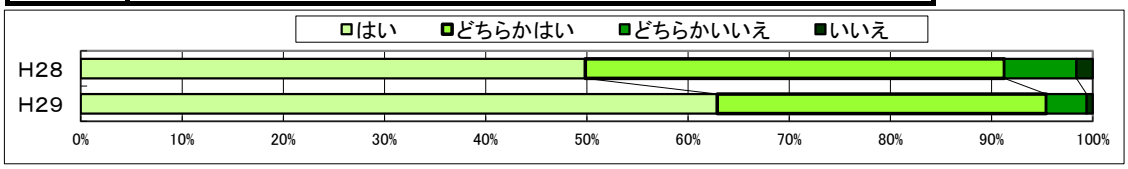
質問7	人の気持ちがわかる人間になりたい。



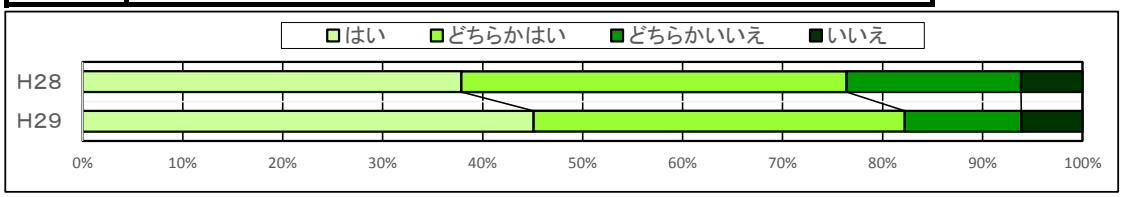
質問8	相手の嫌がることやいじめは、どんな理由があっても行ってはならないと思う。



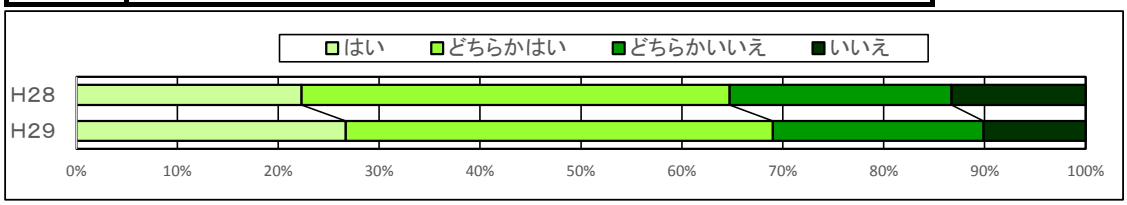
質問9	誰かがつらい思いをしている時、一緒に考えるようにしている。



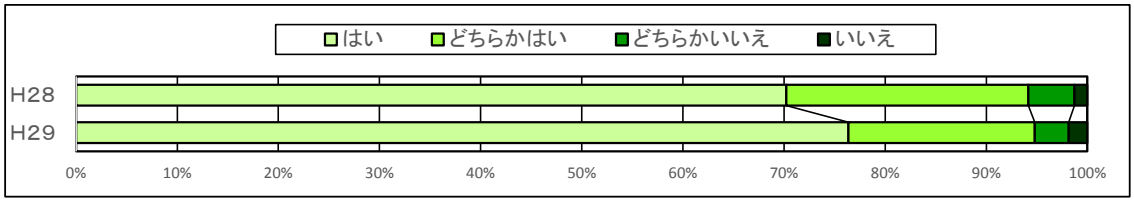
質問10	自分のしたことが、家族のためになったことがある。



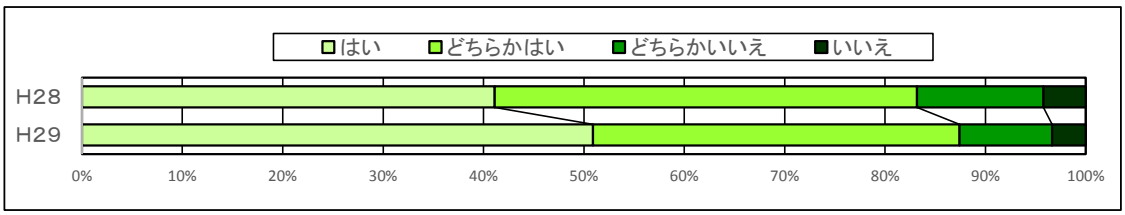
質問11	自分のしたことが、地域や学校・学級のためになったことがある。



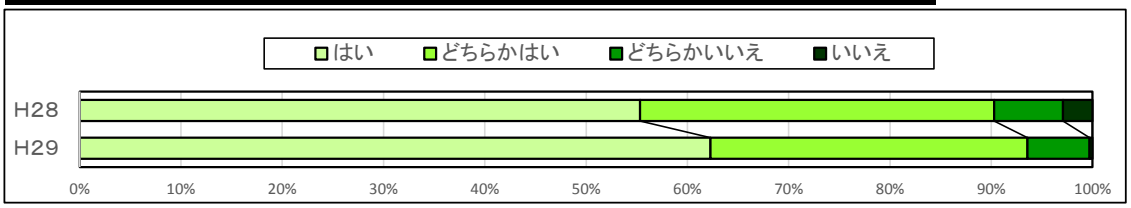
質問12	学校で友だちに会うのは楽しい。



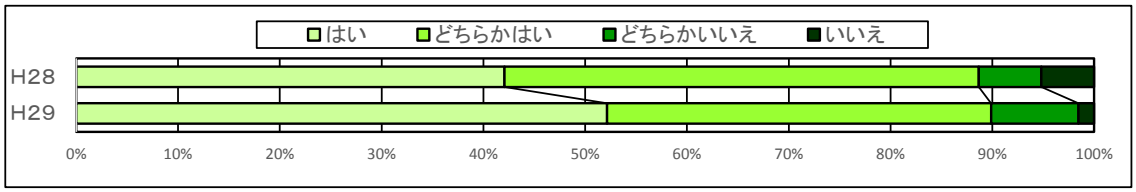
質問13	学校で、勉強をすることは楽しい。



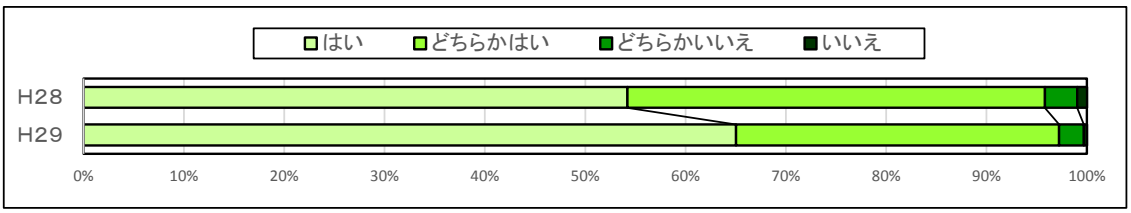
質問14	あなたは、家族から大切にされていると感じることがある。



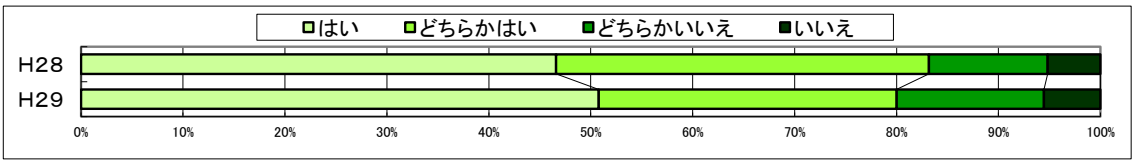
質問15	あなたは、友だちから大切にされていると感じることがある。



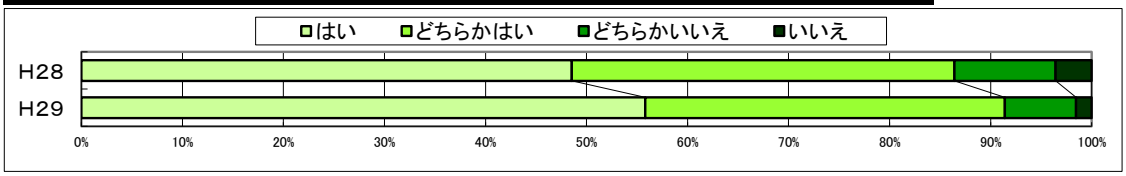
質問16	あなたのまわりで、自分を含め、子どもはみんな大切にされていると思う。



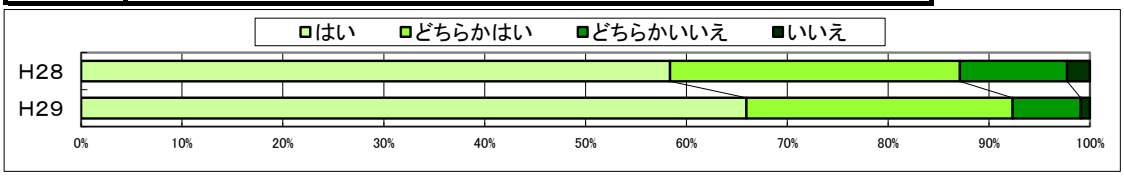
質問17	学校に行きたくないと思うことはない。



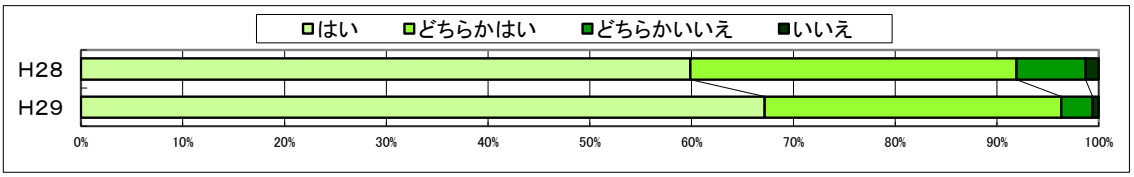
質問18	友だちは、頑張ったことを認めてくれていると思う。



質問19	家族は、頑張ったことを認めてくれると思う。



質問20	学校の先生は、頑張ったことを認めてくれると思う。

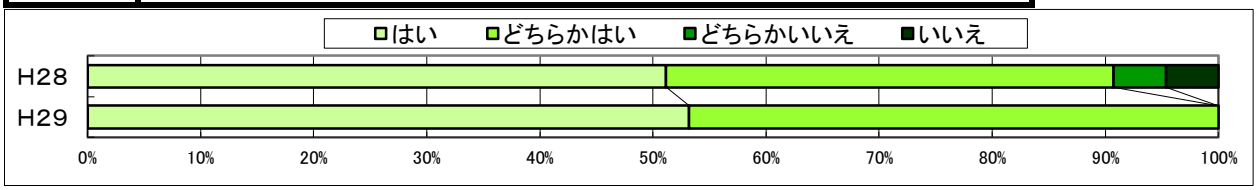


人権教育に関するアンケート《教職員》集計　結果

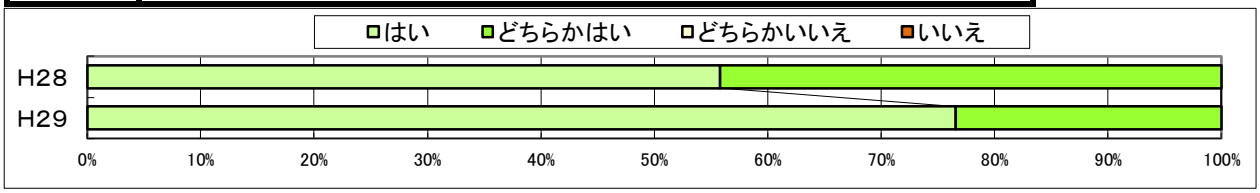
平成２８年度調査(H28．７月集計)と平成２９年度調査（H29．２月集計）の比較

○　平成２８年度に人権教育開発事業の委託を受け、学級経営の中でお互いの良さを認め合う活動を取り入れたり、授業の中で「伝え合い活動」や「交流活動」を意識して取り入れたりするなど、教育活動全般で人権教育を意識した実践できた。
●　＜児童生徒＞や＜保護者＞のアンケート調査でも、全体的によい変容が見られているが、大切なのは全体像ではなく、児童生徒「一人ひとり」である。これまでの人権教育の実践を振り返り、さらによりよい教育活動を推進していきたい。

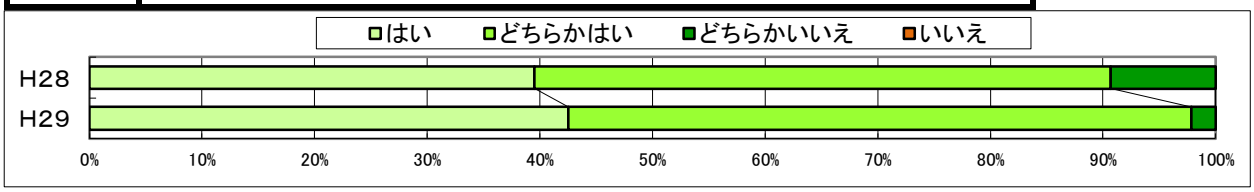
質問1	人権教育の視点が学級経営目標の中に位置づけられている。



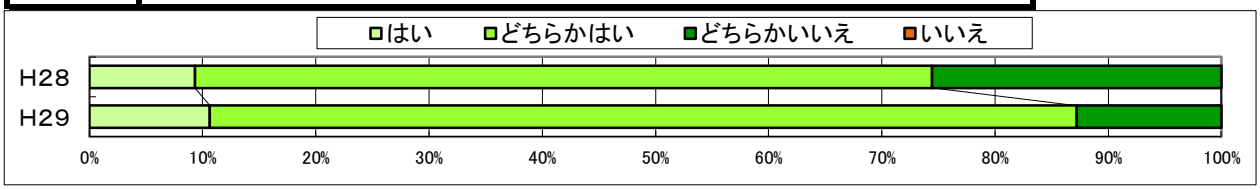
質問2	配慮や支援を要する児童生徒への支援について共通理解を図っている。



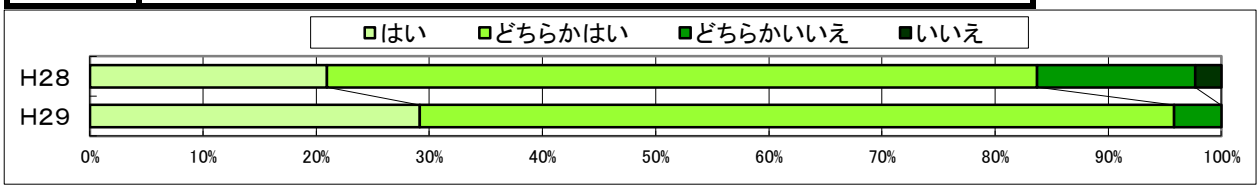
質問3	言語環境及び教室環境の適正化を図り、偏見や差別意識が生まれることのない言葉づかいや掲示板等の指導をしている。



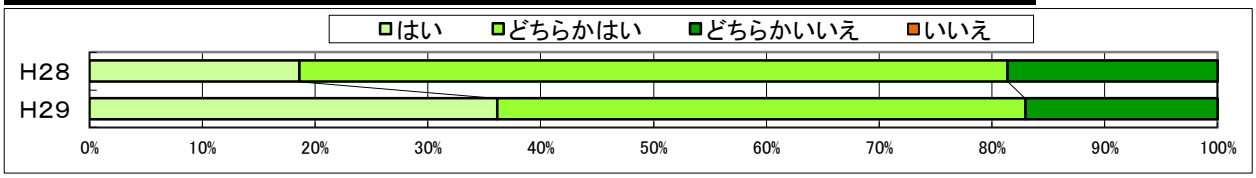
質問4	人権についての知的理解を深める指導を推進している。



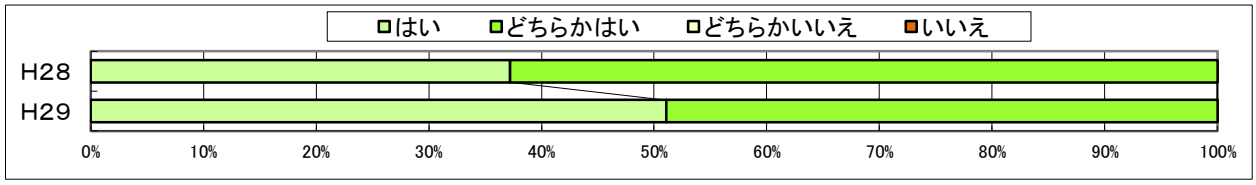
質問5	人権感覚を育成する指導を推進している。



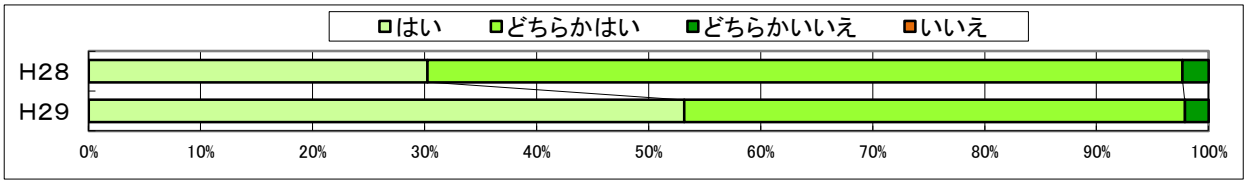
質問6	人権教育の指導を進めるにあたり、体験活動や交流活動を多様に組み入れるなど、指導方法の工夫を行っている。



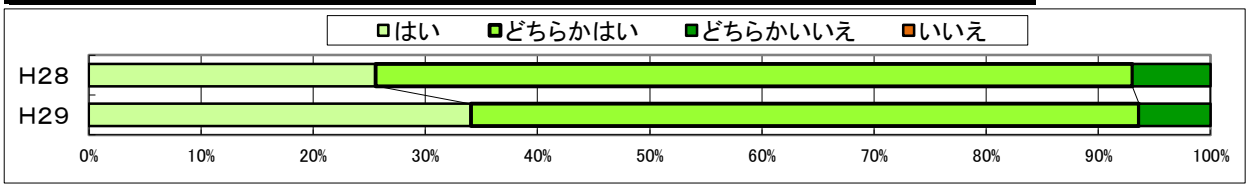
質問7	人権を尊重し支えあう集団づくり（人間関係づくり）に取り組んでいる。



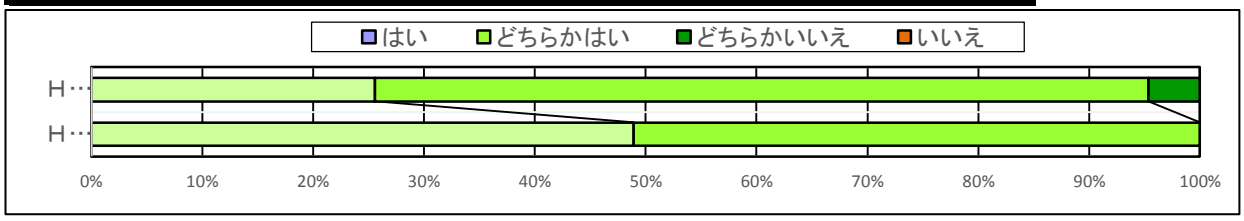
質問8	集団活動において、児童生徒が、互いのよさを認め合い協力するとともに、自己を生かすことのできる場や機会を適切に設けている。



質問9	学習内容が定着していない児童生徒や支援を必要とする児童生徒に適切な支援を行っている。



質問10	積極的生徒指導の視点に立って、相互に人権を尊重し、支え合う人間関係づくりを援助している。



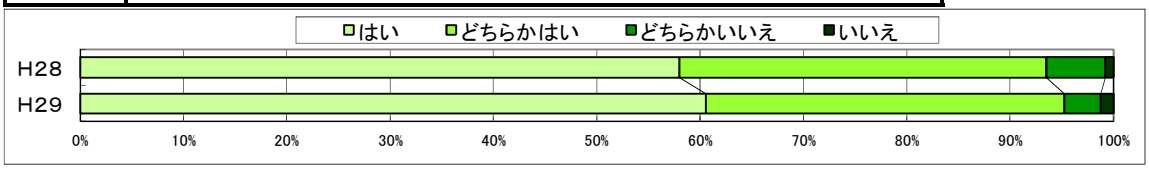
人権教育に関するアンケート《保護者》集計　結果

平成２８年度調査(H29．１月集計)と平成２９年度調査（H29．９月集計）の比較

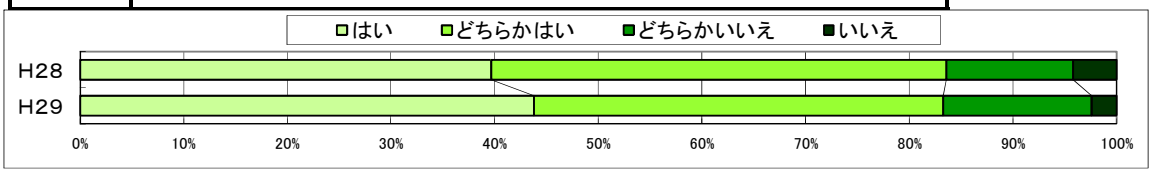
○　平成28年度と平成29年度を比較してみると、＜児童生徒＞、＜教職員＞と同様に、ほとんどの項目でよい変容があらわれている。各学校・園だより、学級だより、ホームページ等による人権教育に関する地域や保護者への啓発活動、教職員の人権教育に関する考え方や姿勢のあり方、子どもたちの心の成長等がよい成果に結びついていると思われる。

●　男女平等に関しては、他の項目のものと比較すると個々の考え方に差があるようである。この結果については、様々な背景が考えられるので、実態を考慮した上で、今後の教育活動を進めていきたい。

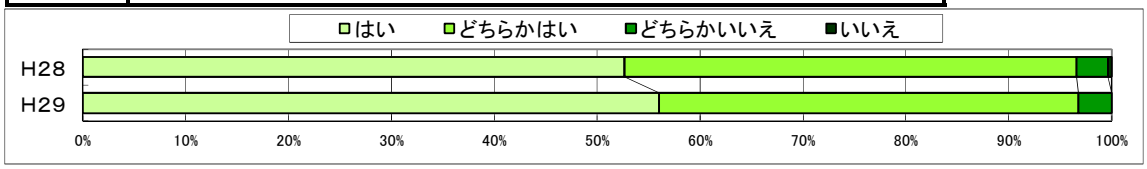
質問１	子どもは、学校に楽しく通っている。



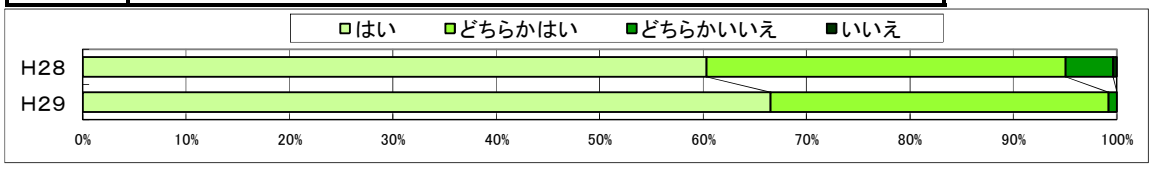
質問２	子どもは、学校生活の様子を家庭で話している。



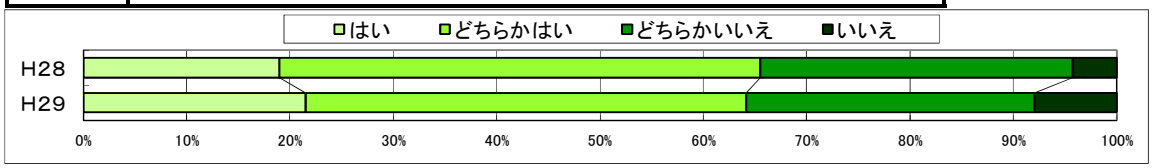
質問３	子どもの話をよく聞くように心がけている。



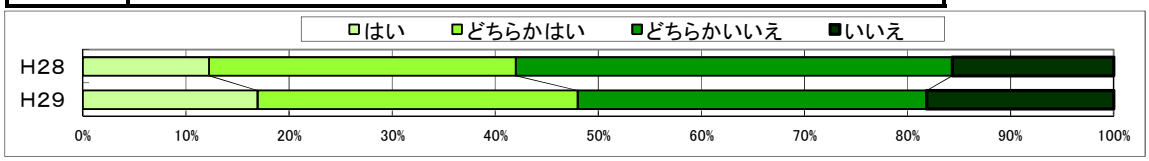
質問４	子どものよさ、努力（がんばり）、可能性を大切にしている。



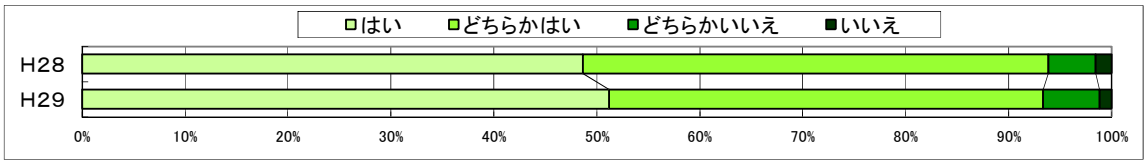
質問５	家庭や地域で問題が起こった時、学校にも相談している。



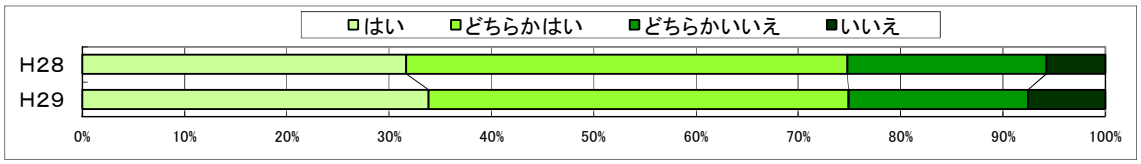
質問６	家庭で男女平等について話をする時がある。



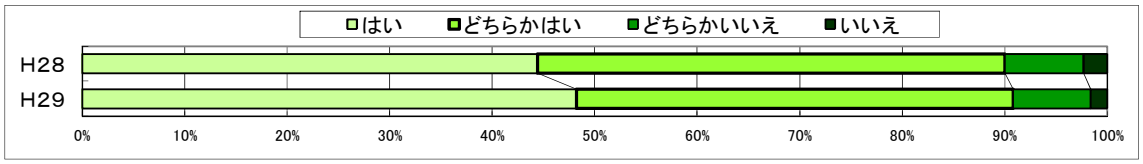
質問7	家庭で、いじめを許さない雰囲気づくりをしている。



質問8	家庭で、人種差別や障がいをもつ人に対する差別について話をする時がある。



質問9	子どもにも人権があることを意識している。



４　常葉地区人権教育研究発表会

（１）研究発表会要項

福島県教育委員会委託

平成２９年度常葉地区人権教育開発事業

人権教育研究発表会要項

第２年次

常葉地区人権教育開発事業推進テーマ

自分を大切にし、他の人も大切にするやさしい人づくりをめざして

１　日　時　　平成２９年１１月１７日（金）１３：２０～１６：３０

２　会　場　　田村市立常葉小学校・常葉中学校

３　主　催　　田村市教育委員会
田村市常葉中学校区幼小中連携推進委員会
田村市立常葉幼稚園
田村市立関本小学校
田村市立常葉小学校
田村市立西向小学校
田村市立常葉中学校

４　日　程

受付	公開授業 ○常葉小学校 （生活・道徳） ○常葉中学校 （道徳・音楽・社会）	移動・休憩	全体会（常葉中学校）				
			開会行事	・研究経過報告 ・授業に関する質疑・感想等	休憩	・講演会 「人権教育と私の実践」 ～アニメ「かっぱのすりばち」の活用を通して～ 【講師】 前西郷村立熊倉小学校長 佐藤　修　様	閉会行事

13:00　13:20　14:05 (小) 14:10(中)　14:20　15:00　15:05　16:30

５　公開授業
＜常葉小学校＞（１３：２０～１４：０５）

教科等	単元・題材名	授業学級	指導者	授業場所
生　活	つくろう　あそぼう	１年	佐藤　智子(常葉小) 真城　順子(常葉小) 佐藤　里美(常葉幼) 羽生　有花(常葉幼)	１年教室 ﾌﾟﾚｲﾙｰﾑ
道　徳	愛校心　４－（４） 「風船と花のたね」	４年	櫛田　正人(常葉小) 宇田　良弘(関本小) 今井　　遼（西向小）	会議室

＜常葉中学校＞（１３：２０～１４：１０）

教科等	単元・題材名	授業学級	指導者	授業場所
道　徳	正義、公正・公平　４－（３） 思いやり　２－（２） 「一歩前に進め」 役割演技で気づくこと	１年	中村　幸恵(常葉中)	集会室
音　楽	合　唱 アカペラの魅力「Amazing Grace」	２年	小野　　健（常葉中）	音楽室
社　会	現代の民主政治と社会 「国の政治の仕組み」 模擬裁判をやってみよう	３年	白岩　恒雄（常葉中）	３年学習室

６　全体会　（１４：２０～１６：３０）

○ 進行 田村市教育委員会学校教育課 指導主事 伊藤 恒明

（１）開会のことば　　田村市立関本小学校長　　吉田　　勇

（２）主催者あいさつ　　田村市教育委員会教育長職務代理者　増田　英子
田村市立常葉中学校長　　佐藤　道拓

（３）研究報告　　田村市立常葉中学校教頭　　細田　長務

（４）授業に関する質疑・感想等

（５）講演会　　講師紹介：田村市立西向小学校長　　髙橋　みどり

【演題】「人権教育と私の実践」～アニメ「かっぱのすりばち」の活用を通して～

【講師】前西郷村立熊倉小学校長　佐 藤　　修　様

（６）お礼の言葉　　田村市立常葉小学校長　　髙島　　仁

（７）閉会のことば　　田村市立常葉幼稚園長　　坪井　淑枝

４　常葉地区人権教育研究発表会

（２）公開授業学習指導案と当日の様子

【幼稚園・小学校】

第１学年　生活科学習指導案

平成２９年１１月１７日（金）　５校時
場所　１年教室・プレイルーム
授業者　　佐藤 智子　　真城 順子
常葉幼稚園　佐藤 里美　　羽生 有花

１　単元名　　つくろう　あそぼう

２　単元設定の理由

（１）教材観

本単元では、学習指導要領の内容（6)「自然の物を使った遊び」を主たる内容とした学習で、身近な自然を利用して遊びに使うものを工夫してつくったり、遊び方を工夫したりして、その面白さや自然の不思議さに気付き、友達と一緒に遊ぶことができるようにすることをねらいとしている。加えて内容（５）「季節の変化と生活」、内容（８）「生活や出来事の交流」が次に続く内容で、遊びや遊ぶものを工夫してつくって気付いたことを身近な人に伝え合う活動を行い、身近な人々と関わる楽しさが分かり、進んで交流することができるようにすることをねらいとしている。また、幼稚園児との交流活動で、友達とともにみんなが楽しめる場を設定することは、目的意識が明確になり、意欲をもって取り組むことができ、達成感と満足感も得ることができ、自分のよさや成長にも気付くことにつながると考えられる。

（２）児童観

児童はこれまで、「がっこうだいすき」「なつだあそぼう」「いきものとなかよし」の学習の中で、春は、昆虫や花さがし、シロツメクサの冠作り、オオバコの茎を使ったひっぱり相撲、笹舟づくり、夏には、アサガオの色水づくりを行った。秋の虫探しでは、「初めて、バッタやトンボを取った。」「触ったのは初めめて。」という子などが、虫と初めて触れ合ったという体験をした。その中で、昆虫を飼育し、昆虫に触れ合うことで、気持ちも大きく変化し、自然の大切さを実感することができた。最近では、近くの公園にどんぐり拾いに行き、それを持ち帰り、どんぐりごま、まつぼっくりけん玉など、自分の思いや願いをもっておもちゃづくりを楽しんだ。しかし、自分の満足いく物をつくるだけにとどまり、おもちゃを工夫してつくったり、遊びのルールを考えて友達と遊んだりするまでには至っていない。

（３）指導観

前単元「たのしいあきいっぱい」では、拾ってきたどんぐり、まつぼっくりを使い、こまやじろべえなど簡単なおもちゃをつくった。自分でつくったもので遊んだだけだったので、本単元では、第１次に、前単元での秋の自然物を取り入れて、さらに空き箱やリサイクル品なども取り入れたおもちゃに進化させて試し遊びを繰り返し行い、動くおもちゃも視野に入れてつくる。第２次では、改良したおもちゃで試し遊びをしたり、友達のおもちゃを交換して遊んだりして、遊びのルールを考える場を設定し、グループでの交流活動を主に行いたい。そして、幼稚園児の交流に合わせ、自分ばかりでなく多くの人々が楽しく遊べるように考えさせる。第３次では、交流を行うため楽しく遊べる方法を考え、交流活動が行えるようにする。遊び方は、おもちゃごとにワークショップ的にして行い、児童が園児に遊び方の説明をそれぞれに行い、いっしょに遊ぶ。そうした中で成立した幼児との豊かなコミュニケーションは、児童にとって大きな達成感や成就感につながることから、さらなる交流や相互理解ができるようにしたい。

３　単元の目標

○　身近な自然物や、身の回りにあるものを使って、おもちゃを工夫してつくったり、遊び方を工夫したりして、遊びの面白さや自然の不思議さに気付き、安全に気をつけながら、みんなで遊びを楽しむことができるようにする。

・　身近な物を使って、遊びに使うものをつくったり遊んだりすることに関心を持ち、みんなで楽しく遊ぼうとしている。　【生活への関心・意欲・態度】

・　自然物や身の回りのものを利用して、遊びに使うものを工夫してつくったり、みんなが楽しく遊べるように、約束やルールを考えたりしながら、みんなで楽しく遊んでいる。

【活動の体験についての思考・表現】

・　自然物を利用して遊んだり、遊びに使うものをつくったりすることの面白さや、自然の不思議さ、秋の自然物を使ってみんなで遊ぶことの楽しさに気付いている。　【身近な環境や自分についての気付き】

4　人権教育との関連

◇普遍的な視点【共感と連帯感】

他者の立場や思いに興味・関心をよせ、仲間同士としての共通の目的をめざして努力しようとする。

◇個別的な視点【自分と集団との関わり】

友達のよさやちがいを認め合い、互いに助け合う中で尊重するなどの人間関係の基礎的なことを身に付ける。

◇人権教育で育てたい能力・態度

身近な自然と関わる中で、それらのよさに気付き、認めることができる態度を養う。（感受性）

自分が考えた遊びを、相手を意識して表現することができる。（表現力）

5　本時の指導と仮説との関わり

【視点１】生活科の特性を踏まえた言語活動の充実

手立て①　おもちゃ遊びへの関心が高まるように提示の仕方や場の工夫をする。

手立て②　園児に遊び方やルールが分かるように、説明書を準備し、掲示したり、伝えたりするようにする。

【視点２】互いのよさを認め合える交流活動の工夫（人権教育）

手立て①　遊びだけでなく一緒につくる活動をし、交流を深めるようにする。

手立て②　互いの気持ちを伝える場を設けて、いっしょに遊んだ楽しさやよさを共有できるようにする。

6　指導と評価の計画（総時数１２時間）

小単元の目標	時間	学習活動	指導上の留意点	評価基準と評価方法
【おもちゃをかいりょうしよう】 ・　木の実や身の回りのものでおもちゃを工夫して作り面白さや自然の不思議さに気付くことができる。	5	①　前につくったおもちゃであそぶ ②③おもちゃを改良しながら遊ぶ。 ④⑤おもちゃを改良したり、つくるものを変えたりして遊ぶ。	・　教科書や図鑑などを参考にして自分のおもちゃのイメージをもたせる。 ・　道具の使い方など教科書を参考にしながら、安全面に十分配慮する。 ・　作ったおもちゃを友達と比べる場などを設定して、自分のおもちゃの改良点などを気付けるようにする。	【関・意・態】 自分たちで集めた自然物や身の回りのものを工夫しておもちゃをつくろうとしている。（観察） 【思考・表現】 集めたものの中から、使ってみたいものを選び、試したり、見立てたりして、工夫しながらつくっている。（観察）
【みんなであそぼう】 ・　改良したおもちゃで友達と一緒に遊びながら、もっと楽しく遊べるように工夫し、遊びを楽しむことができる。	3	①　つくったおもちゃで友達と遊びながら、助言をもらいながらさらに工夫する。 ②③おもちゃをさらに改良し、遊び方を工夫しみんなで楽しむとともに、交流会について話	・　友達と交流しながら、つくり直したり、ルールの変更をしたりするなど工夫を重ねる活動を促すような支援・助言をする。 ・　友達のおもちゃで遊び、感想を伝えるなどの時間を確保する。	【思考・表現】 実際に遊ぶ中で、みんなが楽しく遊べるように考え、遊びのルールや約束を工夫している。 （発表） 【気付き】 ルールや約束を工夫することで楽しく遊べることや、友達のものと違う

		し合う。		よさがあることに気付く。（発表・観察）
【いっしょにあそぼう】 ・　つくったおもちゃで園児と遊ぶ中で遊びをさらに工夫したり、相手の喜びを実感したりすることで、人とのかかわる楽しさがわかり、自分自身の成長に気付くことができる。	2	**①　園児といっしょにたのしく遊ぶ。** **（本時１／２時間）** ②つくったことや遊んだことの振り返りをする。	・　園児には、いっしょに遊ぶことをねらいとし、園児にとっても学びのある活動とする。 ・活動にあたっては、安元確保に十分留意し、園児の安全を守る立場にあることを、児童にも改めて指導する。	【思考・表現】 相手が園児であることを考えて、おもちゃや遊びのルールを工夫して、いっしょに遊んでいる。 （発表・作品） 【気付き】 自分たちで、園児を楽しませることができたことが分かり、自分自身の成長に気付いている。（カード・発表）

７　見取りの視点

観点	1	2	3	4	5
生活への関心・意欲・態度	自然物や身近なものを利用することができず、遊びに関心を持つこともできない。	自然物や身近なものを利用し遊びに関心を持っている。	自然物や身近なものを触って遊ぼうとしている。	自然物や身近なものを利用し遊びに関心を持ち、遊びを考えようとしている。	自然物や身近なものを利用し遊びに関心を持ち、みんなで楽しめる遊びを考えようとしている。
活動や体験についての思考・表現	自然物や身近なものの中から、ものを見つけて、考えることができない。	自然物や身近なものの中から、ものを見つけて、遊ぼうとしている。	自然物や身近なものの中から、遊びを考えたり、使ってみたいものを見つけたりしている。	自然物や身近なものの中から、使ってみたいものを見つけ、作ろうとしている。	使ってみたいものを選び、試したり、見立てたりして、おもちゃをつくったりルールや約束を考えたりできる。
身近な環境や自分についての気づき	遊びを通して交流する楽しさに気付いていない。	身近な自然物を使った遊びを楽しいと気付いている。	身近な自然物を利用して遊ぶ楽しさに気付き、つくろうとしている。	身近な自然物を利用して遊ぶ楽しさや、遊びをつくり出す面白さに気付いている。	遊ぶ楽しさや遊びをつくり出す面白さや、園児と交流する楽しさに気付いている。

８　板書計画と場の設定

（1）板書計画

つくろう　あそぼう

おもちゃ
作り場面①

おもちゃ
作り場面②

�め おもちゃランドをようちえんのみんなとたのしもう。

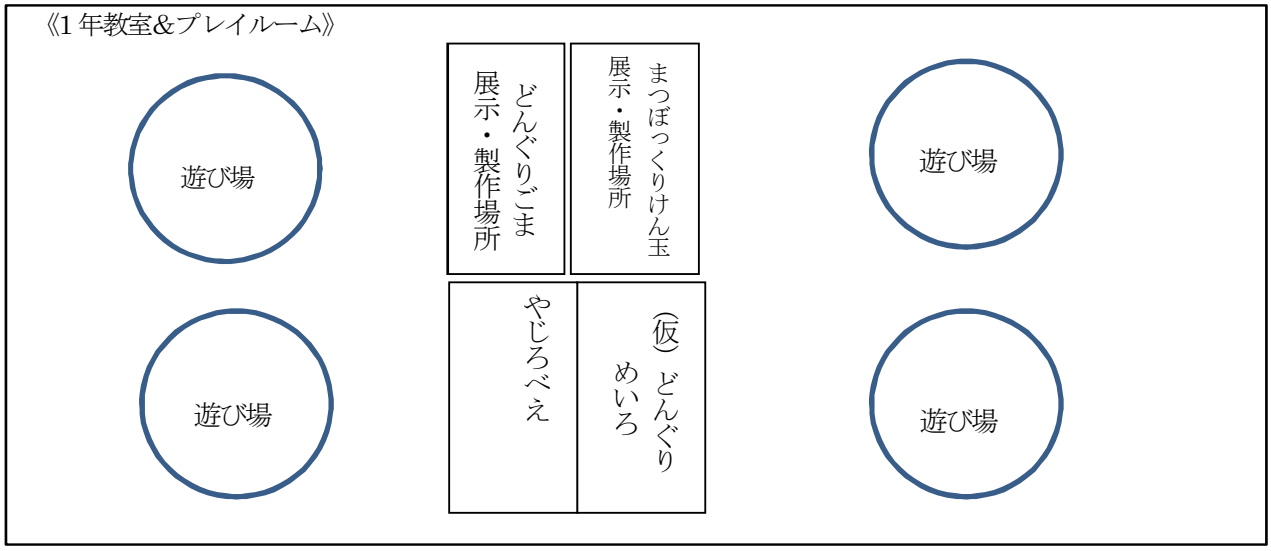
【やくそく】
・

【じかん】

【あそびば】

遊び場の地図

（2）場の設定


《1 年教室&プレイルーム》
遊び場
遊び場
どんぐりごま
展示・製作場所
まつぼっくりけん玉
展示・製作場所
やじろべえ
（仮）どんぐり
めいろ
遊び場
遊び場

９　本時の目標

自分でつくったおもちゃの遊び方を、園児にていねいに教え、一緒に楽しく遊ぶことができる。

１０　学習過程

学習活動	時間	予想される園児の反応	予想される児童の反応	○指導上の留意点　◇評価 ◎視点【指導の手立て】
１　前時を振り返り、本時のめあてをつかむ。 （１）おもちゃを紹介する。	5	どんぐりごまをまわしてみたいなあ。 いろいろなおもちゃがある。あそんでみたいな。 まわしてみたいな。	どんぐりを使って、こまをつくりました。かんたんにつくれました。 どんぐりとまつぼっくりで、やじろべえをつくりました。バランスが取れた時は、うれしかった。 ゆびで、楊枝をつまんで素早く回すとうまく回ります。やってみるので見てください。	○　おもちゃの製作過程の写真を見せて、おもちゃ遊びへの関心を高める。 ○　数人に自分のつくったおもちゃの説明をさせる。（どんぐりごま・やじろべえ・松ぼっくりけん玉　などを提示しておく。）
（２）本時のめあてをつかむ。				○　うまく言葉で表現できない場合には、実演して伝えるように話す。 ◎　おもちゃ遊びへの関心が高まるように提示の仕方や場の工夫をする。　【視点１手立て①】
２　本時の活動の流れを確認する。 （１）園児におもちゃ遊びの説明をする。 ・おもちゃの種類 ・おもちゃの遊び方 ・注意すること （２）活動時間や場所などの約束事を確かめる。 ３　自分のおもちゃを園児に遊んでもらう。 （１）おもちゃの遊び方を教える。 （２）　一緒につくって、遊ぶ。	35	**おもちゃランドをようちえんのみんなとたのしもう。** どこで、あそんでみようかな。 どうやってあそぶのかな。あてるのがむずかしそうだな。 ゲームがあってたのしそうだな。やってみたいなあ。	ぼくのところにきてくれないかな。おしえてあげたいな。 どんぐり的当ての遊び方は，真ん中が５０点です。上手にあててね。コツは、どんぐりをこうやるんだよ。 粘土にどんぐりをうめてください。きりで穴をあけてあげますね。	○　同じ遊びに集中しないように、幼稚園児には、場所ごとに、いくつかに分かれてもらい、ローテーションする。 ○　活動の流れを知らせることで、活動の見通しを持たせる。 ○　終了時刻を掲示しておく。 ○　遊んでもらうことも考慮して、おもちゃの置き方など工夫するように支援する。 ◎　園児に遊び方やルールが分かる

（３）つくったおもちゃをプレゼントする。 ４　本時の活動を振り返る。 ・感想を発表する。	5	どんぐりこま、ぼくもつくれそうだな。 やじろべえをつくってみたいなあ。 じぶんでつくったのがもらえる。うれしいなあ。 プレゼントありがとうございます。 おしえてもらってうれしかったなあ。 １年生とたくさん遊ぶことができてたのしかったなあ。	やじろべえのバランスをつくるのがむずかしいなあ。どうやっておしえようかな。 プレゼントをよろこんでもらってよかったなあ。 はなしをよくきいてくれて、うれしかったなあ。 ルールを守って遊んでもらってありがとうございます。 じょうずに説明できてよかった。 また、いっしょにあそびたいなあ。	ように、説明書を準備し、掲示したり、伝えたりようにする。 【視点１　手立て②】 ○　簡単につくれるおもちゃだったら、事前に準備しておき、園児もつくる体験ができるように工夫する。（穴をあけて、楊枝をさすなど） ◎　遊びだけでなく一緒につくる活動も行えるおもちゃは、いっしょにつくって、交流を深めるようにする。　【視点２手立て①】 ◇　自分でつくったおもちゃの説明や遊び方を丁寧に説明できているか。（対話・観察） ◎　互いの気持ちを伝える場を設けて、いっしょに遊んだ楽しさやよさを共有できるようにする。 【視点２手立て②】 ◇　園児と関わって遊んだことを振り返り、自分の言葉で活動の感想を話すことができたか。（発表）

1年　生活

＜どんぐりごまコーナー＞
どんぐりのあなの中にようじをさしてね。気をつけてね。

＜まとあてコーナー＞
点数の高いところをねらってね。
おしい！　あとすこしだったね。

１年生のおにいさん、おねえさんといっしょにあそべて、うれしかったです。プレゼントをもらって、とてもうれしかったです。ありがとうございました。

授業者の自評

○　「園児を楽しませる」という共通の目的意識をもって、全員が活動に取り組むことができた。子どもたちなりに「こうしたい、ああしたい」という思いが各々あったが、環境や材料等に限りがあり、すべてをかなえることは難しかった。
○　手作りおもちゃで遊ばせてもらったことや優しく教えてもらったことが嬉しかったようで、小学生への憧れの気持ちが強くなったように思う。
○　「おにいさんに、『すごい』ってほめられたよ。」「『こうするといいよ』って教えてくれたよ。」など、満足げに話していて、小学校入学を楽しみにしている様子だった。

第４学年　道徳学習指導案

日　時　平成２９年１１月１７日（金）第５校時
場　所　会議室
授業者　櫛田正人（常葉小）宇田良弘（関本小）
今井　遼（西向小）

１　主題名　愛校心　４－（４）
題材名　「風船と花のたね」（学研　３年「みんなのどうとく」）

２　主題設定の理由

（１）ねらいとする価値について

それぞれの学校には、長い年月をかけてその地域の子どもたちを慈しみ愛情を持って育ててきたという独特の雰囲気があり、伝統がある。学校には、独自性があり、よき校風もある。この校風を引き継ぎながら、学校という集団生活の中で、学年での様々な学習や関わりを通して学校を愛する心を深め、自分の役割と責任を自覚して、よりよい学校生活をつくろうと努力する心情を育てることは、大切なことである。

常葉地区３つの小学校は、卒業すると同じ中学校へ進学する。４学年では、３校合同で宿泊学習や合唱の練習をするなど、小小連携の活動も進めてきている。来年度、５学年でもまた一緒に、宿泊学習に行くことになっている。進級、進学してもお互いのよいところ、各学校のよい伝統を出し合いながら、みんなで協力し合ってよりよい校風をつくっていくようになってほしいと願っている。そのためにも、今、自分たちが通っているそれぞれの学校のよさに気づき、その学校で学ぶ喜びをもつとともに、よい校風を高めていくことが大切だと考える。３校の児童が集まって話し合うことで積極的によりよい学級づくり、ひいては学校づくりにつなげていける態度を育てていきたいと考える。

（２）児童の実態について

常葉小（男１３名　女９名）西向小（男３名　女６名）関本小（男２名　女５名）　計３８名

児童は、今年度、宿泊学習に一緒に行ったり、田村市童謡・唱歌音楽祭で発表するために一緒に練習したりするなどそれぞれの学校の枠を超えて活動してきた。一緒に集まったときには、○○小の児童という自分の学校の一員としての思いを強く自覚して臨んでいた。１泊２日の宿泊学習では、寝食を共にし、お互いの学校の行事の楽しさなどの情報交換をし、他校の素晴らしさを感じたり自校を誇りに思ったりすることができた。他校と交流する機会が増えたことで自分たちの学校はどうだろう、ということを意識する場面が増え、よりよい学校生活をつくることに関心をもつようになった。

（３）指導にあたって

本資料は、開校百周年を祝って飛ばした風船が偶然卒業生の手に渡り、卒業生が感動して手紙と花のたねを送ってきたという話である。まず、手紙の送り主である山野さんの気持ちを考えることで、ずっと続いている学校の伝統を守り育てることのよさに気付かせたい。その上で各校で自分たちの学校のよさについて話し合い、さらに３校の児童が集まって、そのよさをお互いに伝え合う。そうすることで学校のよさを引き継いでいこうとする気持ちや愛校心を育むことにつながるものと考える。

3　人権教育との関連

◇　普遍的な視点【共感と連帯感】

他者の立場や思いに興味や関心をよせ、仲間同士として共通の目的をめざして努力しようとする。

◇　個別的な視点【自分と集団との関わり】

友達のよさやちがいを認め合い､互いに助け合う中で人間関係の基礎的なことを身に付ける。

◇　人権教育で育てたい能力

相手の立場や気持ち、考えに共感し、互いの考えを尊重することができる。（感受性）

事象を自分なりに捉え、考えを深め、相手に伝わるように表現することができる。（表現力）

4　本時の指導と仮説との関わり

【視点１】　道徳の特性を踏まえた言語活動の充実

手立て①　友達と意見を交流することを意識し、自分の考えをワークシートにまとめさせることにより、よりよい学校をつくるためにはどうしたらよいのか、明確に伝えることができるようにする。

手立て②　小グループで意見交換することにより、自分の考えを深め、道徳的価値の自覚を促すようにする。

【視点２】互いのよさを認め合える交流活動の工夫（人権教育）

手立て①　相手の立場に立って考え伝え合い、情報を共有させることによって、友達の考えに対して共感できるようにする。

手立て②　これから先、どうしたらよいかを焦点を絞って前向きに考えさせることによって、自分たちのよさを伸ばしていけるようにさせる。

5　指導計画

（第１時）　各校で資料「風船と花のたね」を読み、自分の学校のよいところを話し合い、発表資料にまとめる。

（第２時）　他校のよいところも聞いて、高学年になる来年の学校生活で自分たちもよりよい学校生活をつくろうという気持ちを高める。（本時）

6　本時のねらい

学級や学校の一員として自分にできることを考え、よりよい学校生活をつくろうとする心情を育てる。

7　学習過程（本時２／２）

学　習　活　動	・予想される児童の反応　　○Ｔ１,Ｔ２,Ｔ３の支援	時間	○指導上の留意点　　◇評価 ◎視点【指導の手立て】
【１時目は各校で実施】 1　自分の学校を、どんな時にいいなあと思うか発表し合う。	自分の学校のいいところは何ですか。 ・運動会や学習発表会の時、楽しい。 ・あいさつがいいとほめられる。	3	○　学校生活や学校の行事などの写真を提示し、その時の思い出などを語らせながら、思い起こさせる。
2　資料「風船と花のたね」を読み、話し合う。	風船とカードを見てどんなことを考えたのでしょう。 ・風船に山下小とあり、びっくりしたなあ。 ・「百年つづく思いやり山下小」とは、なつかしいな。 ・今でも、「思いやり」を大切にしているのかなあ。 ・「やさしい心、思いやりの心」という言葉が今でも心に生きている。 山野さんが、手紙と一緒にコスモスの花の種を送ったのは、どんな気持ちからでしょう。 ・花いっぱいの「菜の花の学校」が今も続いているといいなあ。 ・やさしい心の子たちがいっぱいになるといいなあ。	２０	○　手紙の送り主である山野さんの気持ちを考えることで、ずっと続いている伝統を守り育てることのよさに気づかせるようにする。 ○　百年続く学校の「伝統」「誇り」は、卒業して何年たっても心に生きていることに気づかせるようにする。 ○　山野さんがいるころに始まった、花いっぱいの学校にしようとする取り組みを続けてほしい、という気持ちを捉えることができるようにする。
3　自分たちの学校のよさについて話し合う。	自分たちの学校のよいところや、ずっと守っていきたいところは、どこですか。	２０	○　全校的な教育の工夫や、児童会活動、学校の行事などを取り上げ、話し合わせる。

・よさについてワークシートに書く。	・下級生にやさしいところ。 ・１年から６年までみんな仲がいい。 ・あいさつがよくできる。 ・業間マラソンに熱心に取り組んでいる。 ・全校給食で楽しく食べている。		○　ワークシートに自分が考えた学校のよさを書く。 ○　発表した意見を書き出しておき、２時目の３校での話し合いに生かせるようにする。 ◇　自分たちの学校のよさについて考えることができたか。（発表）
4　次時の予告をする。 ・常葉小に３校集まること	次時は常葉小に３校集まって、それぞれの学校のよさについて話し合ってみましょう。	2	
【２時目（本時）常葉小に３校集まって実施 】 1　前時の学習を振り返る。	童謡・唱歌音楽祭では、みんなで仲よく歌うことができましたね。もっとお互いのことを知って仲良くなりましょう。　(T1)	2	○　自分たちの学校のよさについて話し合ったことを想起させる。 ○　田村市童謡・唱歌音楽祭の写真を提示し、もっとお互いの学校のことで知りたいことはないか、関心を持たせる。
2　自分の学校のよさを伝え合う。 ・　宿泊学習の６グループでの話し合い	自分の学校の「ここがすごい！」というよいところは、どんなことですか。　(T1) ・百年以上の歴史がある。 ・あいさつを進んで行う。 ・全校生の仲がよく、みんなでふれあっている。 ・地域の人がとても協力的。 ・勉強をがんばる学校。	３０	◎　友達と意見を交流することを意識し、前時にワークシートにまとめてきた資料を見て、自分の考えを明確に伝えることができるようにする。 【視点１手立て①】 ○　前時、各学校の話し合いで出された意見をまとめた資料を準備しておき、振り返りやすいようにしておく。

	○　グループの中に教師が入り、児童が考えを深め、話し合いが活発にできるように支援する。 （T1,T2,T3） ○　進行役は、班長が務め、グループ内で全員が発表してから、感想と質問を述べさせるようにする。 （T1,T2,T3）		◎　相手の立場に立って考えを伝え合い、情報を共有させることによって、友達の考えに対して共感できるようにする。 【視点２手立て①】 ◎　小グループで意見交換をすることにより、自分の考えを深め、道徳的価値の自覚を促すようにする。 【視点１手立て②】
３　これからよりよい学校をつくっていくためにできることは何かをまとめる。	他の学校の話を聞いて改めて気付いた自分の学校のよさや、自分の学校でもやってみたいことを書いて発表しよう。（T1） ・下級生に優しく接し、わからないことは教えてあげる。 ・下級生のお手本となるように進んであいさつをする。 ・○○小学校で行っている昼休みのスポーツ集会を自校でもやってみる。	１３	◎　これから先、どうしていくかを焦点を絞って前向きに考えさせることによって、自分たちのよさを伸ばしていけるようにさせる。 【視点２手立て②】 ◇　学級や学校の一員として自分にできることを考え、よりよい学校生活をつくろうとしているか。 （ワークシート、発表）

4年　道徳

全校生が食堂に集まって給食を食べているのか。他の学年の人の話が聞けるからおもしろそうだな。

６つのグループで発表し合って、自分の学校のよさに気づいたことがいくつもあったようですね。それはどんなことですか。

３年後、わたしたちが一緒になったらいろいろな楽しいことができそうです。中学生になるのがとても楽しみです。

図書館が４つもあるなんて、いいですね。いろんな種類の本がたくさんある学校はうらやましいな。

授業者の自評

○　３校が合同で授業をするというメリットを生かすため、題材を２時間扱いにしたことは、子どもたち一人一人が自分の考えをもち、まとめて発表することにつなげることができた。

○　事前準備が大変だったが３校協力して進めることができた。自分の学校や他校のよさについて改めて考え、「もっとがんばろう、やってみよう」と思えるよい機会となった。

○　子どもたち主体の話し合いをとおして、相手の立場や考えを尊重する態度が養われた。

○　３人の教師の授業に向けた役割分担や価値理解を深めるための子どもへの関わり方等、共通理解を図る事前の話し合い時間の確保が不十分だった。

４　常葉地区人権教育研究発表会

（２）公開授業学習指導案と当日の様子

【中学校】

第１学年１組　道徳指導案

日　時：平成２９年１１月１７日（金）
指導者：中村　幸恵
場　所：集会室

１　主題名　　４－（３）正義、公正・公平　２－（２）思いやり
　資料名　　「一歩前に進め」役割演技で気づくこと

２　主題設定の理由
（１）生徒観
　男子８名、女子１４名の学級である。話合い活動に積極的に取り組むことができる。友人に対する思いやりを行動にして実践できる生徒も多い。差別や偏見についての感覚についても、正義感をもって立ち向かおうとして発言できる生徒も数名いる。一方で発言する一部の生徒の意見に同調することが多く、自分の意見を表現できずにいる生徒もみられる。５月に実施したＱＵアンケートでは、学級生活満足群に位置する生徒の割合が全国平均より高い割合であった。しかし、活動の成果を上げる力の差があることと承認感にも差がある面がみられる。一人ひとりが安心して自己表現し、自己の肯定的評価をできる環境を整えていく必要があると感じる。
（２）教材観
　本教材は、平成２６年放射線教育事業放射線等に関する指導資料（福島県教育委員会）１７４頁、体験的な学習を取り入れた人権教育「一歩前に進め」を引用し、学級の実態に合わせて教材を作成したものである。役割カードを用いることで自分と立場や境遇の異なる他者を理解し、話合い活動により不平等を解消する方法の共有ができる教材である。また、役割を演じることで主観的な立場と客観的な立場の両面から価値を考えることができる教材である。
（３）指導観
　自分が与えられた役割を演じることで、あたりまえの日常があたりまえでないことがおこりうるかもしれないということに気付かせる。また、不平等の原因や人権を踏みにじられたと感じた瞬間について伝え合うことで、互いに立場や気持ち、考えに共感し、それらを尊重できるようにする。話合い活動を通して、他者の立場や思いに関心をよせ、共通の目的を目指して努力しようとする共感と連帯感を感じさせたい。役割を演じたことへの賞賛を行い、役割演技の終了を明確にし、客観的な立場で話合いをさせるようにしたい。

３　本時のねらい
○　自分とは異なる他の人の気持ちを想像し、与えられた情報からその人の置かれている境遇や状況を考え、自分の身に起きるかもしれない不平等について意識を体感できる。体感した不平等について共感をもち、積極的に解決方法を考えることができる。

４　本校研究主題との関連

研究主題「主体的な学びを通して互いに高め合う生徒の育成」

【視点１】多様な考えを受け入れ、一人ひとりの考えや活動のよさを認め合う場を設ける指導の工夫
【視点２】生徒の考えや意見を授業で生かし、思考の深まりが持てるような指導過程の工夫

５　人権教育との関連
（１）人権教育目標
　本校では、「自信をもって積極的に行動できる生徒の育成。自己肯定感をもって前向きに生活することができる生徒の育成。他者とのつながりを大切にする生徒の育成。」の３つの柱を人権目標とする。
（２）道徳教育における人権教育の主幹主題
　人間尊重の精神、生命に対する畏敬の念、豊かな心、文化の創造、国際社会への貢献、主体性のある生き方の育成を主幹主題とする。
（３）本主題の人権教育の視点
　自分の人権を守り、他者の人権を守ろうとする意識・意欲・態度および人権感覚の基幹を育成する。

6　学習過程

段階	学習活動 ・予想される生徒の反応		○指導の手立て▲評価 ◇人権教育上の配慮
導 入	1　本時の道徳の題材名を知る。 （1）写真を見て、様々な環境で生活する人々がいることを想起する。 「一歩前に進め」役割演技で気づくこと	5 (一斉)	○　ワークシートを事前に配付しておく。 ○　リラックスさせるように班毎に司会などを話合いで決めさせる。 ○　各自の役割があることを伝え、そのためには、落ち着きが必要であることを伝え、生徒の様子を確認する。
展 開	2　各自が役割演技を行い、感想をまとめる。 （1）自分の役割のイメージをつかむ。 （2）役割演技をして、教師の質問に答え、一歩ずつ前に進む。 （3）役割を演じた感想を色分けのの付箋に記入する。	２５ (一斉)	○　役割カード配付前に指示まで開けないことと他の人に見せないことを指示する。 ○　自分の役割のイメージをつかむためにワークシートの問いに簡潔に答える。 ▲　役割のイメージをつかめたか。(挙手) ◇　役割カードについては、国籍や文化、性別、年齢等を越えて作成する。それぞれに役割演技の難しさはあるが、想像力と共感性を感じさせる。 ○　１列に並ばせて状況や出来事を１項目毎に質問し、自分の役割で「その通りです」と答えられるときは、一歩前に進むことを説明する。 ○　最後の質問の後、班の人の位置を確認させ、自分の役割を伝えさせる。 ○　役割を頑張ったことを褒め、全員の役割演技に拍手をして役割を終了させる。 ▲　自分の感想を記入できたか。(観察) 桃色付箋：役割の感想 黄色付箋：立ち位置の差の感想
終 末	3　班毎に各自の感想を発表し、不平等の解決方法を話し合う。 （1）各自の感想を発表する。 （2）不平等の解決方法を班で話し合う。 （3）班の代表が話合いの内容を発表する。 4　今日の道徳で頑張ったことや友達の意見を聞いて感じたことを発表する。 ・思いやりをもって差別しないようにしたい。 ・自分にできることを考えて行動したい。 ・弱い立場の人を理解したい。 ・前に進めなかったときに嫌な気持ちになった。 ・役割を演じて不平等があることに気づいた。	１５ (班) 5 (一斉)	○　班の司会の進行によって付箋を記録用紙に順に貼りながら発表させる。 ○　自分と他者の多様な立場があり、相手の立場に寄り添うような話合いができるようにさせる。 ▲　不平等な現状を理解し、解決方法を主体的に考えることができたか。(観察・発表) ○　みんなで話し合えた今日の機会を次に生かせることを願っていると伝え、今日の道徳の頑張りを賞賛する。

7　板書計画・その他

（１）板書計画

今日の道徳 「一歩前に進め」役割演技で気づくこと。 （活動順序） １ 役割演技【１０分】 ①　話をしない。 ②　役割りカードの役柄を友達に教えない。 ③　役のイメージをつかむ。（ワークシートに記入） ２ 質問【１５分】 ①「その通りです。」と答えられるときは一歩前に進む。 ②　感想を付箋紙に記入する。 ３ 話合いと発表 １５分 班毎に発表する。	あなたが○○だったらと役割を演じて、その内容に「その通りです」と答えられる人は、一歩前に進む。 【質問】　※カードで順に提示する。 ①　あなたは、電話とテレビのある立派な住まいをもっています。 ②　あなたは、友達を自宅での夕食に招待することができます。 ③　あなたは、年に一度は休みの日にどこかへ出かけることができます。 ④　あなたは、少なくとも３ヶ月に一度は新しい洋服を買います。 ⑤　あなたは、助言や手助けが必要な時に、頼りにする人がいます。 ⑥　あなたは、家でインターネットを使うことで自分に役立てることができます。 ⑦　あなたは、学習することができて自分の好きな職業につけると感じています。 ⑧　あなたは、自分の住んでいる社会で、自分の能力が正しく評価され、尊重されていると感じています。 ⑨　あなたは、楽しい生活をし、あなたの未来について前向きに考えています。 ⑩　あなたは、自分が必要なときに適切な医療を受けることができます。 ⑪　あなたは、これまで一度も深刻な財政的困難に直面したことはありません。 ⑫　あなたは、自分のことで差別されていると感じたことはありません。

（２）その他

【準備物】　ワークシート（イメージ質問も含む）・「状況と出来事」質問カード
付箋（桃色・黄色）・班活動用画用紙・マジック・生徒は、ファイル、筆記用具を準備する。※椅子・机を使用しない。

（３）ワークシート等

今日の道徳　　１年　　組　　番　氏名（　　）

１　題材　「　　」　役割演技で気づくこと

２　活動内容と手順

１ 役割演技 ①　カードをもらう。（話をしない） ②　役割りカードの役柄を友達に教えない。 ③　役のイメージをつかむ。（ワークシートに記入）	２ 状況と出来事質問に対して ①「その通りです」と答えられるときは一歩前に進む。 ②　質問は１２問ある。 ③　感想を付箋紙に記入する。 ３ 話合いと発表　１５分 班で発表する。

３　自分の役割を演じるために次の質問に役になりきって短く答えてください。

①　あなたは、どのようなところに今住んでますか。　（　　）

②　あなたの子ども時代は、どのようなものでしたか。　（　　）

③　あなたは、月にどれくらいのお金を稼ぎますか。　（　　）

④　休日にはどんなことをしますか。　（　　）

⑤　あなたの楽しみは何ですか。　（　　）

⑥　あなたは、今困っていることがありますか。　（　　）

⑦　あなたは普段の服装はどのようなものですか。　（　　）

⑧　あなたは、普段どのような食事をしますか。　（　　）

４　活動を振り返ってみましょう。

役割を演じた感想（桃色）	状況と出来事の質問後の感想（黄色）

５　今日の活動で自分が頑張ったことや友だちと意見を交換して感じたことを書こう。

役割カードと班分け

１班	３班
①年齢：　２２歳　性別：男性 職業や立場：あなたは、大手企業の社長の息子で、大学で経済学を学んでいます。	⑫年齢：　２２歳　性別：女性 職業や立場：あなたは、大手企業の社長の娘で、大学で経済学を学んでいます。
②年齢：　３３歳　性別：女性 職業や立場：失業中で、仕事を探している母親で、５才の息子がいる。	⑬年齢：　３３歳　性別：男性 職業や立場：失業中で、仕事を探している父親で、５才の息子がいる。
③年齢：　５０歳　性別：男性 職業や立場：大手企業の男性重役です。	⑭年齢：　５０歳　性別：女性 職業や立場：大手企業の女性重役です。
④年齢：　３０歳　性別：女性 職業や立場：交通事故で足が不自由となり車いすで生活している女性。	⑮年齢：　３０歳　性別：男性 職業や立場：交通事故で足が不自由となり車いすで生活している男性。
⑤年齢：　２５歳　性別：男性 職業や立場：ニューヨークで活躍するアフリカ系の男性ファッションモデルです。	⑯年齢：　２５歳　性別：女性 職業や立場：ニューヨークで活躍するアフリカ系の女性ファッションモデルです。
⑥年齢：　８０歳　性別：女性 職業や立場：介護施設への入居を断られた一人暮らしの８０才女性です。	⑰年齢：　８０歳　性別：男性 職業や立場：介護施設への入居を断られた一人暮らしの８０才男性です。
⑦年齢：　３５歳　性別：男性 職業や立場：男性派遣社員（派遣元の会社から他の企業に派遣されて勤務する）	⑱年齢：　３５歳　性別：女性 職業や立場　：女性派遣社員（派遣元の会社から他の企業に派遣されて勤務する）
⑧年齢：　７０歳　性別：男性 職業や立場：東京の多摩川の河原に段ボールで家を作って住んでいます。	⑲年齢：　７０歳　性別：女性 職業や立場：東京の多摩川の河原に段ボールで家を作って住んでいます。
⑨年齢：　１６歳　性別：男性 職業や立場：アラスカに住む自給自足の生活をする息子です。	⑳年齢：　１６歳　性別：女性 職業や立場：アラスカに住む時給自足の生活をする娘です。
⑩年齢：　４５歳　性別：女性 職業や立場：広告代理店女性社長で中学生の息子と娘がおり、夫は公務員。	㉑年齢：　４５歳　性別：男性 職業や立場：広告代理店男性社長で中学生の息子と娘がおり、妻は公務員。
⑪年齢：　１０歳　性別：女性 職業や立場：ドイツに難民としてきたアラブ系イスラム教徒の女の子です。	㉒年齢：　１０歳　性別：男性 職業や立場：ドイツに難民としてきたアラブ系イスラム教徒の男の子

２班　　４班

当日の様子

「一歩前へ進め」役割演技で気づくこと
写真を見て様々な環境で生活する人々がいることを想起する。

全員が一人一役。役割演技で気づくことを考えてみよう。
「私の役割は５０歳の大手企業の男性重役です。」普段は、どんな生活をしているのだろう？

役割カードを受け取って一列に並ぶ。質問に対して自分の役割が「その通りです」のときには一歩前に進む。一歩ずつが大きな差になっていく。

話し合い「不平等の解決方法は？」班で話し合った内容を発表し聞き合う。

今日のこの機会が次に活かされることを願っています。

授業者の自評

○班活動を通して自分の考えを班の中で伝え合ったり、学級全体に代表として発表することに対して抵抗なく、一人一人が真剣に活動に取り組むことができた。また、机や椅子を使用しないことにより、緊張感をもたずに班活動に集中することができた。

○役割演技で、少ない情報からその人の立場になって考えることは、中学１年生にはやや難しい様子であった。様々な境遇の人がいることは理解できても、その人の立場にたって意見を交換し合うためには生活経験等の積み上げが必要であると感じた。価値に近づくための発問を教師側から問いかけることが、価値の押しつけとならないように配慮する必要があると感じた。

第２学年２組　音楽科学習指導案

日　時：平成２９年１１月１７日（金）
指導者：小野　健
場　所：音楽室

１　題材名　　【合唱】アカペラの魅力　「Ａｍａｚｉｎｇ　Ｇｒａｃｅ」

２　題材設定の理由

（１）生徒観

２年２組は男子１２名、女子１４名、特別支援学級より男子１名、女子１名が交流で参加し、合計２８名の学級である。男女とも音楽活動に意欲的に取り組む生徒が多く、響きある豊かな声で歌唱することができる生徒が多い。日々の授業では、継続的な発声指導や読譜力向上に力を入れた指導を実践し２年目となった。本題材の前に学習していた合唱分野では、生徒が主体的に合唱練習に取り組めるよう、パートリーダーが中心となって本時の課題を決めたり、互いの良さを認め合い賞賛しあうことができるよう、個人カルテを充実させた実践を行ったりした。その経験から、昨年度よりも主体的に音楽活動に取り組めるようになっただけではなく、良さを認め合う力も以前より高まった。難易度の高いアカペラの楽曲に対する生徒の関心・意欲も高く、協働的に活動することができるのではないかと期待される。

（２）教材観

本教材「Ａｍａｚｉｎｇ　Ｇｒａｃｅ」は、イギリスの牧師ジョン・ニュートン（John Newton）の作詞による賛美歌である。作曲者は不明。アメリカで慕われ、良く歌われるこの曲は、日本のアーティストによるカヴァーもたびたび話題となる楽曲である。そのメロディーは大変有名で、本校生徒も馴染みあるものである。しかし、この歌詞が誕生するに至った経緯を知る生徒はごくわずか、または皆無ではないかと考える。

ジョン・ニュートンは商船の指揮官であった父に付いて船乗りとなったが、さまざまな船を渡り歩くうちに黒人奴隷を輸送するいわゆる「奴隷貿易」に携わり富を得るようになった。そのような中、イングランドへ蜜蠟を輸送中、船が嵐に遭い浸水、転覆の危険に陥った際、ニュートンは必死に神に祈った。すると流出していた貨物が船倉の穴を塞いで浸水が弱まり、船は運よく難を逃れた。その後ニュートンは病気を理由に船を降り、牧師となった。その１７年後「アメイジング・グレイス」が作詞された。歌詞中では、黒人奴隷貿易に関わったことに対する悔恨と、それにもかかわらずゆるしを与えた神の愛に対する感謝が歌われている。	
Amazing grace! how sweet the sound *That saved a wretch like me!* *I once was lost but now I am found* *Was blind, but now I see.*	*驚くべき恵み！　なんと甘美な響きよ* *私のように悲惨な者を救ってくださった！* *かつては迷ったが、今は見つけられ、* *かつては盲目であったが、今は見える*

本教材を通し、音楽的な魅力だけではなく、歌詞の背景にある時代的側面も学ぶことで、より深まった演奏を目指したい。

（３）指導観

本題材においては「教科横断型による授業実践」を計画している。単に音楽科の授業のみだけで学習を終えるのではなく、社会科・道徳の授業とも関連を図ることで、生徒の学習の深化を狙うとともに、楽曲の背景に十分迫り、音楽をより深く味わうことを目指す。

（※教科横断型による表現授業実践の構想については、次頁の一覧表参照）

教科横断型による表現授業の構想 題材【Ａｍａｚｉｎｇ　Ｇｒａｃｅ】　対象学年【２学年】		
社会科	音楽科	道　徳
T1：社会科／（T2：音楽科）	T1：音楽科／（T2：社会科）	T1：道徳／T2：音楽科
○イギリスで産業革命が起こった要因の一つとして、三角貿易による利益と富の蓄積がある。歴史的背景を復習する。	○奴隷貿易に携わっていたこの楽曲の作詞者ジョン・ニュートン牧師の人生を知り、歌詞の理解を深める。 ○必要に応じ Ｔ２社会科が資料提供や講話を行う。	○正義を重んじ、誰に対しても公正、公平にし、差別や偏見のない社会の実現に努める。(正義･公正公平) ○必要に応じ Ｔ２音楽科が資料提供や講話を行う。
＜リンク時間＞ 導入・終末の学習の時間	＜リンク時間＞ 展開・終末の学習の時間	＜リンク時間＞ 導入・終末の学習の時間

３　題材の目標

○　アカペラに関心を持ち、意欲的･積極的に練習するとともに、歌詞の理解を深めることができる。（関心・意欲・態度）

○　曲想にあった発声法や表現の工夫を演奏に生かすことができる。（感受・表現の工夫）

○　声部の役割を理解し、無伴奏で演奏をすることができる。（表現の技能）

４　指導計画（総時数３時間）　　**本時２／３時**

（１）パートごと音取りをしよう（ゲストティーチャー：ＡＬＴ）･････････････････１時間

（２）歌詞の内容を理解し、曲想に反映させよう（資料提供：社会科Ｔ２）･････････１時間（本時）

（３）声部の役割を知り、まとめの合唱をしよう･････････････････････････････････１時間

５　本時のねらい

○　楽曲の持つ背景を理解し、歌唱することができる。（関心・意欲・態度）

○　楽曲の背景を理解し、表現方法を工夫することができる。（感受・表現の工夫）

○　発声法に注意し、無伴奏混声四部合唱曲の演奏をすることができる。（表現の技能）

６　本校研究主題との関連

研究主題「主体的な学びを通して互いに高め合う生徒の育成」

【視点１】多様な考えを受け入れ、一人ひとりの考えや活動のよさを認め合う場を設ける指導の工夫

【視点２】生徒の考えや意見を授業で生かし、思考の深まりが持てるような指導過程の工夫

７　人権教育との関連

人権教育を通じて育てたい資質・能力		
（１）知識的側面	（２）価値的・態度的側面	（３）技能的側面

（１）奴隷貿易に携わった作詞者の歴史を知る。

（２）人間の尊厳、自己の価値及び他者の価値を感知する感覚。

（３）奴隷として扱われた人々の気持ちと作詞者が感じた感情を想像する。

８　学習過程

段階	学習活動・内容	時間 (形態)	○指導上の留意点　　▲評価 ◇研究主題との関わり
導入	１　既習曲の歌唱をする。 Amazing Grace を一度全員で歌唱する。（１番のみ） ２　本時の学習内容を確認し、ワークシートに記入する。 曲の成り立ちを理解し、歌の表現を深めよう！	５ (一斉)	○演奏を録音する。 １番のみの歌唱であることを伝える。 ○本時の目標を板書する。
展開	３　英語の訳詞を確認する。	５ (一斉)	○英語の詞ではどのようなことが書かれていたかを改めて確認する。
	４　Amazing Grace の作詞者について知る。 ・生涯について ・奴隷貿易について	１０ (一斉)	○補助プリントを配布し、作詞者ニュートンがこの詞を作詞するまでの生涯を理解させる。 ▲【関心・意欲・態度】　観察・ワークシート 楽曲の持つ背景について理解できたか Ａ：背景を知り、心情に迫ることができる。 Ｂ：背景を知ることができる。 Ｃ：背景を理解することができない。 （Ｃの手立て：声をかけ、つまずきを聞き取る）
	５　パートごとに分かれ、歌唱練習を行う。 ○ソプラノ･･･音楽準備室 ○ア ル ト･･･旧生徒会室 ○男　　声･･･音楽室	１３ (グループ)	◇パートごとに分かれ、練習するよう指示する。その際、歌詞の（作詞者の）背景を踏まえ、演奏をどのように工夫するかをパートリーダーが中心となって考えさせる。　＜視点２＞ ▲【表現の工夫】　観察・ワークシート 楽曲の背景を表現に反映させようとしたか Ａ：積極的に工夫点を考えることができる。 Ｂ：工夫点を１つ考えることができる。 Ｃ：表現の工夫をすることができない。 （Ｃの手立て：声をかけ、技術の伝達）
	６　全体で合唱する （１）パートで考えた工夫点を全体に発表し共有する。 （２）まとめの歌唱をする。	１０ (一斉)	◇予想される生徒の反応　＜視点２＞ ・悪いことをした、という深い反省の気持ち ・救ってもらった神への感謝 ○録音をする。 ▲【表現の技能】　録音・観察・ワークシート 発声法に注意し、表現を工夫して演奏できたか Ａ：響きある声で工夫した表現を表出できる。 Ｂ：演奏することができる。 Ｃ：演奏することができない。 （Ｃの手立て：声をかけ、個別・パート別練習）
終末	７　録音を聴き比べる （１）初めとまとめの演奏を聴き比べ感想を発表する。 （２）個人カルテに記入する。	５ (一斉)	○授業の前後での演奏の違いに気がつけるよう、録音した演奏を鑑賞させる。 ◇ワークシートを交換させ、互いの良さを認め合い、賞賛の言葉を記録させる。　＜視点１＞
	８　次時の連絡を聴き、見通しを持つ。	２ (一斉)	○本時の賞賛と次時の課題を伝える。

当日の様子

Amazing Grace の作詞者が送った人生、奴隷貿易についての一斉学習の様子

パートごとに考えた、歌詞に合う表現方法を提案し、全体で共有した。
「この部分は神へ感謝の気持ちで！」

「歌詞の意味を考えて歌うことができたので良かった。この曲には奥深い意味があって、心が打たれた･･･」

「皆と歌詞の意味の話し合いもできたので、より歌に感情が込められました」

「歌詞の意味がしっかり分かって歌うと、こんなにも違うのかと実感した時間でした。とても良い経験でした」

授業者の自評

○歌詞の理解が音楽表現を一層豊かにすることを、生徒たちは録音した演奏の比較によって明確に感じ取ることができた。

○表現分野においての教科横断型による授業の実践とした本授業は、鑑賞における教科横断型による授業同様、生徒たちにとって非常に意味があり、深い学びに繋がる実践であると、改めて感じた。

○ワークシートを工夫し、改善を加えた「個人カルテ」を活用した。カルテ内には友人から賞賛の言葉を書いてもらう枠を設けた。互いの良さを認め合ったり、声をかけ合ったりする中で、言語活動の充実化や主体的・対話的な学習習慣の確立、親和的な学習集団の確立を図ることができた。

第３学年１組　社会科学習指導案

日　時：平成２９年１１月１７日（金）
指導者：白岩　恒雄
場　所：３年学習室

１　単元名　現代の民主政治と社会

２　単元設定の理由

（１）生徒観（３年１組　男子１２名、女子１０名）

本学級は、明るく親和的で、男女間の協力関係も良好である。社会科における授業態度は、落ち着いた雰囲気の中にも積極的な取り組みが見られ、特にグループ活動や作業的活動に意欲的に参加する生徒が多い。また、授業開始時に教師が「今日の１面記事」を継続的に示してきたこともあり、社会科の公民分野に対する興味・関心は比較的高く、政治に関するニュースをテレビや新聞で日常的に確認している生徒も少なくはない。政治に関する基礎知識については、これまでの授業を通じてある程度は身についている。さらに、基本的な学習訓練は全体的に行き届いており、ノートを丁寧にまとめる生徒が増えている。授業では、積極的に発言する生徒が限られているものの、概ね話を聞く学習習慣が身についており、学力が少しずつ向上している。一方で、上位生徒と下位生徒の学力差が大きいという課題がある。

（２）教材観

本単元は、中学校学習指導要領の内容（３）「現代社会の民主政治とこれからの社会」のイ「民主主義と政治参加」に当たる。ここでは、「国民の権利を守り、社会の秩序を維持するために、法に基づく公正な裁判の保障があることについて理解させる」ことが主なねらいとして示されている。つまり、司法権の独立と法律による裁判が憲法で保障されていることにより、法に基づく公正な裁判が行われ、その裁判によって国民の権利が守られ、さらに社会の秩序が維持されているということを理解させるということである。日本では、現代社会において国民が互いに人間として尊重し合い安心して生活するために、個人間の利害を調整して社会の秩序を維持するための司法制度が整えられてきた。特に国民が参加する裁判員制度は、これまでにない大胆な司法制度改革であったと言える。それらを踏まえ、本単元ではまず憲法や法律を基に裁判が国民の自由や権利を守る重要な働きをしていることを学習する。そして国民の司法参加の意義について考え、国民が刑事裁判に参加することによって裁判の内容に国民の視点や感覚が反映されることや、司法に対する国民の信頼を高めるための裁判員制度が抱える課題等についても気づかせることをねらいとしている。

（３）指導観

本単元の指導は、日本の司法についての理解を深めさせながら、国民の一人として、主権者として、自分が将来どのように司法制度に関わっていくのかを考えさせるものとなる。単元の指導においては、模擬裁判を通じて裁判員制度を含めた日本の司法について考える学習を２時間設定した。本時の授業においては、模擬裁判の内容や争点を踏まえ、被告人が有罪か無罪の評決を下す。グループで協議した後、最終的に全ての生徒が裁判員の一人として判断を行う。裁判員という立場に立ちながら他者と議論をすることで、社会的事象を多面的・多角的に考察し、自分の考えを適切に表現する力を養わせたい。また、一連の活動から主権者としての意識や司法に対する関心も高まるものと考える。

３　単元の目標

○　身近で具体的な事例をとおして政治に関心をもち、主権者として積極的に国や地方の政治に関わっていこうとする意欲をもつことができる。（関心・意欲・態度）

○　国民の政治参加がよりよい民主政治の運営につながっていることに気付き、良識ある主権者としての政治参加について考えることができる。（思考・判断・表現）

○　新聞記事や統計資料などを活用し、現実の政治の動きを多面的・多角的にとらえることができる。（技能）

○　日本の民主政治における仕組みのあらましや地方自治の基本的な考え方について理解することができる。知識・理解　）

４　指導計画（総時数　２４時間）

（１）現代の民主政治・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・７時間

（２）国の政治の仕組み・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１２時間

①立法権をもつ国会----------３時間
②行政権をもつ内閣----------２時間
③司法権をもつ裁判所----------３時間
④模擬裁判をやってみよう----------２時間（本時２／２）
④三権の抑制と均衡----------１時間
⑤学習のまとめ----------１時間

（３）地方自治と私たち・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・５時間

5　本時のねらい
（1）主権者として、積極的に裁判員制度に関わっていこうとする態度をもつことができる。
（2）法に基づいた論理的思考力や多面的・多角的に物事を見る力、根拠を挙げて表現する力を身に付けることができる。

6　本校研究主題との関連

研究主題「主体的な学びを通して互いに高め合う生徒の育成」

【視点１】多様な考えを受け入れ、一人ひとりの考えや活動のよさを認め合う場を設ける指導の工夫
【視点２】生徒の考えや意見を授業で生かし、思考の深まりがもてるような指導過程の工夫

7　人権教育との関連
◆人権に関する知的理解で深まるもの
・人権侵害に関する現状に関わる知識
・人権関連の主要な法令に関する知識
・人権を擁護するために活動している国内の機関等についての知識
◆人権感覚で高まるもの
・人権侵害を受けている人々を支援しようとする意欲や態度
・人権の観点から自己自身の行為に責任を負う意志や態度
・能動的な傾聴、適切な自己表現等を可能とするコミュニケーション技能
・情報を収集・吟味・分析し、公平で均衡のとれた結論に到達する技能

8　学習過程
【前時】

段階	学習活動・内容	時間 (形態)	○指導上の留意点　▲評価 ◇研究主題との関わり
課題把握	1　これまでの学習内容を確認する。 ①法曹三者の役割 ②裁判の課題 ③裁判員裁判の特徴 2　本時の学習課題を把握する。 主権者の一人として、裁判にどのように関わればいいのかを考えよう。	１０ (一斉)	○　教師主導で既習事項の要点を確認する。 ○　主権者教育の一環ということを強調する。
課題追究①	3　「本能館放火殺人事件」の概要を確認する。 4　模擬裁判のシナリオに沿って、分担した役割ごとに模擬裁判劇を実演する。 5　模擬裁判の争点を確認する 6　次時の予告を聞く。	5 (一斉) ２５ (一斉) １０ (一斉)	○　公民資料集を活用して説明する。 ○　予め担当する生徒を決めておき、スムーズに実演が進むようにしておく。 ◇　生徒の個性に合った役割分担を行い、実際の裁判に似た演出を行うことで互いの活動を認め合えるような雰囲気をつくる。＜視点１＞ ▲　模擬裁判の様子から裁判に対する興味を深めているか。　(関心・意欲) A　興味を深め、自分の考えをもとうとしている。 B　興味を深めている。 C　模擬裁判について理解が浅く、興味をもつことができない。（Cへの手立て：模擬裁判のシナリオに登場する人物を選択させ、その立場に立たせることで内容の理解を図る。） ○　検察官の論告と弁護人の最終弁論を行う中で、裁判の争点を明確化する。

【本時】

段階	学習活動・内容	時間 (形態)	○指導上の留意点　▲評価 ◇研究主題との関わり
課題追究②	7　前時の振り返りをする。 （1）前時の模擬裁判の様子についてＶＴＲで振り返る。 （2）模擬裁判の争点を再確認する。	１０ (一斉)	○　模擬裁判の様子を視覚的に振り返ることで学習課題を再確認し、スムーズに課題の追究活動が行われるようにする。 ○　資料集を見ながら、確実に裁判の争点を再確認できるようにする。
	8　事件について話し合い、最終的な判断をする。 （1）班ごとに話し合い、有罪か無罪かについて判断する。 （2）班ごとの発表と質疑応答を行う。 （3）一人一人が最終判断をくだす。	２５ (グループ)	○　実演に参加した生徒も裁判員として話し合いに参加させる。 ○　裁判員として判決を出すことについて、責任の大きさを意識させるとともに、必ず根拠を明確にして発表させる。 ○　班ごとの判断や発表は、黒板に分かりやすく集約する。 ◇　少人数（３～４名）のグループにより、意見交流を積極的に行いながら互いを認め合うような親和的な雰囲気づくりを心がける。＜視点１＞ ▲　検察側と弁護側の主張を踏まえ、根拠を明確にして判断し、表現しているか。(思考・判断・表現) Ａ　根拠をもって判断し、進んで発言している。 Ｂ　根拠をもって判断できる。 Ｃ　根拠をもって判断できず、自分の意見をもつことができない。(Ｃへの手立て：資料集のイラストを活用した個別支援により、裁判の内容を理解させる。)
整理・発展	9　まとめをする。 （1）弁護士の裁判に関するビデオメッセージを見る。 （2）模擬裁判を振り返り、主権者として裁判にどのように関わろうと考えたかを書き、発表する。 10　次時の予告を聞く。	１５ (一斉)	○　本物の弁護士の話を聞くことで裁判をより身近に感じさせ、抱える課題も身近であることを捉えさせる。 ○　裁判員裁判が抱える課題にも触れ、今後の裁判員制度のあり方にも目を向けさせる。 ▲　主権者としての自覚をもち、裁判に関わることの大切さを感じているか。(関心・意意・態度) Ａ　主権者として裁判に関わることの大切さに気付き、自分の考えをもつことができる。 Ｂ　主権者として裁判に関わることの大切さに気付くことができる。 Ｃ　裁判に関わることの大切さに気付くことができない。(Ｃへの手立て：裁判を身近に感じるような新聞資料を提示することで、国民と裁判が深く関わっていることに気付かせる。

当日の様子

前時に行った模擬裁判の様子をＶＴＲで振り返り、争点を再確認。「 異議あり！」の声などから裁判の緊張感が伝わってきました。

班ごとに話し合い、有罪か無罪かの最終判断をしました。裁判員の一人という意識をもって、真剣に話し合いました。人を裁くことの難しさを実感していました。

班ごとの発表と質疑応答を行い、有罪と無罪の主張に真剣に耳を傾けました。学級によって最終判断に違いがあることを伝えると戸惑う生徒も･･･。

裁判に関する弁護士のビデオメッセージを見ました。「裁判は身近なもの」という言葉から、今後の関わり方についても考えました。自分の意見をワークシートにまとめ、主権者としての意識を高めました。

授業者の自評

○　疑似体験としての模擬裁判を行うことにより、生徒は緊張感をもって裁判と向き合うことができた。また、裁判をより身近に感じながら、自分に関わることとして学習に取り組むことができた。

○　有罪か無罪かを話し合う評議に、多くの生徒が真剣に臨むことができた。また、他者の発表を参考にしながら、自分の考えを構築していた。

○　考えたり発表したりする時間を確保したつもりだが、予想以上に生徒の真剣な活動が見られ、まとめの時間が少なくなった。また、判決の重みを考えさせるアプローチを工夫すれば、更に生徒の思考の深まりが図られたと思われる。

全体会（講演会）

研究経過報告

【講師】
前西郷村立熊倉小学校長
佐　藤　　修　様

授業に関する質疑・応答

【演題】
「人権教育と私の実践」
～アニメ「かっぱのすりばち」の活用を通して～

５　常葉地区人権教育研究発表会

【感想まとめ】

福島県教育委員会委託　平成２９年度常葉地区人権教育開発事業

人権教育研究発表会　感想まとめ

◆　期日　　平成２９年１１月１７日（金）
◆　会場　　田村市立常葉小学校・常葉中学校

会　場	教科等	学年	授　　業　　者
常葉小学校	生　活	１年	佐藤　智子(常葉小)　　真城　順子(常葉小) 佐藤　里美(常葉幼)　　羽生　有花(常葉幼)

○　授業を参観させていただき、子どもたちの自信をもって、のびのびと園児に寄り添う姿がとても印象的でした。一貫して「相手意識」をもって指導していくことが大切なのだと感じました。本日はありがとうございました。（教員：田村市）
○　ほのぼのあたたかく交流でき、「ありがとう」や「どういたしまして」などの言葉が自然にでていてとてもよかったです。（未記入）
○　子どもたちが楽しそうに生き生きと学ぶ姿が見られ、すてきな授業だったと思います。（教員）
○　児童は、とてもいきいきと自分の担当するゲームを説明しているのが印象的でした。自然に役割を分担して、幼児を楽しませてあげる様子もありました。「大物をつると、こんないいことあるよ」と呼び込む児童もいて、積極的に活動できていると思いました。幼児も自分で動いて楽しんでいてとてもよい活動だと思いました。（教員：田村市）
○　一年生が園児におもちゃを教えてあげるという目的が明確になっていたため、楽しく小さい子に教え合っている姿が微笑ましかったです。小さい子にも分かりやすく話そう、指示をしようと相手意識も明確になっていてよかったと思いました。（教員：その他）
○　子どもたちがみんな優しいなあと思いました。園児を喜ばせたいという一年生の気持ちをとても感じました。温かい気持ちになりました。ありがとうございました。（教員：田村市）
○　授業までの場や、道具や遊びをすすめるなどの準備がきちんとされていたので、本時は園児がとっても楽しく遊ぶことができていたと思います。場所も２つの部屋を使って広い場でできたのがよかったと思います。秋を感じるどんぐりを拾うところから今日まで、子どもの意欲を持続させるとってもいい教材で、それを選ばれたのもよかったです。当たり前かもしれませんが、最後のそれぞれの感想発表の場でも、園児の「楽しかった」という感想から、小学生の「緊張したけど、喜んでもらえてよかった」という感想がでるような交流ができていて、いいなあと思いました。（教員：田村市）
○　子どもたちが生き生き、のびのびと活動していた姿がよかったです。（人権擁護委員）
○　子どもたちの生き生きした姿がよかった。（保護者：田村市）

会　場	教科等	学年	授　　業　　者
常葉小学校	道　徳	４年	櫛田正人(常葉小)　宇田良弘(関本小)　今井遼(西向小)

○　それぞれの小学校の良さと自分の学校の良さを発見できた授業であったと思います。（教員：その他）

○　三校の児童が集まっての授業では、尻込みすることなく積極的に挙手して発表する姿はすばらしかったです。まさに人権教育の姿が今日みることができたように思います。（人権擁護委員）

○　児童は一生懸命話を聞き、話し合いをしていました。（教員：田村市）

○　子どもたちが楽しそうに笑顔で授業をしていたのが印象に残りました。（教員：田村市）

○　三校ならではの気づきがあったと思います。打合せ、授業お疲れ様でした。（未記入）

○　三校の子どもたちが自分の学校自慢を通して、交流し合う姿を見て、子どもたちが生き生きとしていたので、安心しました。自慢　→　他校の良さに気づき　→　自分たちもやってみたい　という流れになっていて、とてもよい交流でした。（教員：田村市）

○　本時までの準備、打合せ等、大変だったことと思います。子どもたちは大変よい雰囲気で交流していました。お互いを認め合う雰囲気ができていて、素晴らしいと思いました。（教員：田村市）

○　三校合同で行う道徳授業ということでの難しさはあったと思いますが、他校の児童の話にも真剣に耳を傾け、良さを取り入れていきたいという思いが伝わってくる授業だったと思います。発表も接続詞などの言葉が適切に使われており、日々の言語活動がしっかりと行われていると思いました。（教員：田村市）

○　子どもたちや先生方の良さが生かされたよい授業でした。ありがとうございました。（教員：田村市）

○　三校が連携した授業で、仲良く堂々と話し合ったり発表したりと活発に活動していました。事前からの準備大変だったと思いますが、子どもたちの表情に満足感が見られてよかったと思います。（教員：田村市）

○　まず、三校合同で授業をするという取組、大変だったと思われます。３名の先生方、お疲れ様でした。ありがとうございました。（未記入）

○　学校って大きいようで意外に小さい世界であることに気づきました。だからこそ、子どもたちは他校の良いところを聞いて（知って)、「えっ！」と驚いて身を乗り出して写真を見たり、話を聞いたりするのですね。他との違いを知って受け止め、また自分たちの良さを改めて実感する。これって、ものすごく大切なことなのではないかと強く感じました。子どもたちの話し方・聞き方がとても上手で驚きました。（教員：その他）

○　三校同時の授業が楽しく思えました。いろいろな意見を出し合い、発表できて相手の良さを知ることが出来たと思います。（保護者：田村市）

○　他の学校の様子を知るとても良い授業でした。（保護者：田村市）

会　場	教科等	学年	授　　業　　者
常葉中学校	道　徳	１年	中村　幸恵(常葉中)

○　一人ひとりに役割を与え、日常の生活等についての質問より、音字質問でもそれぞれ人によってあてはまるかどうか違っており、生活の中でも差が生じていることに気づかせ、そこから、一人ひとり、互いに相手の立場を理解することの大切さに気づかせる、よい授業だったと思います。(教員：その他)

○　一歩前へ進め役割演技で気づくことという内容で、様々な立場から子どもたちなりの価値判断がとても新鮮な感じを受けました。ただ、授業の柱となる中心価値をもとに話し合いで焦点化し、自分たちの生活を振り返りながら一般化していくことで価値が深まっていったのかなと思いました。中一で様々な価値判断ができること、本当に素晴らしいと思いました。(未記入)

○　授業の中で、生徒が互いに何でも言える発表できる雰囲気があり、普段の実践の積み重ねが生徒の姿になってあらわれていたと思います。相手の話をきちんと聞く態度にも生徒の人権意識、相手を大切にしようという気持ちが感じとれました。ありがとうございました。(教員：田村市)

会　場	教科等	学年	授　　業　　者
常葉中学校	音　楽	２年	小野　健（常葉中）

○　初めの録音とまとめの録音のちがいに驚きました。そのちがいを生んだのは、作詞者の生きた時代、社会背景を知り、歌詞の意味を理解し、心の中にイメージできたからなんだなと感じました。”言葉”を大事にして、イメージをふくらませることが歌うときには大事だと思いました。また、友だちのいいところを見つけて毎時間積み重ねているところもすばらしいと思いました。ありがとうございました。(教員：田村市)

○　本日、すばらしい授業を参観させていただきありがとうございました。とても難しい様な歌を作者の経歴、時代の背景、歴史を深く理解することによって、歌声が変わるというのを生徒たちには実感をもって歌っていたのが凄いと感じました。雰囲気も温かく、とても楽しい授業でした。生徒たち生き生きと楽しく歌っていました。すばらしかったです。すてきな歌声が聴けて感動しました。ありがとうございました。(教員)

○　楽曲の背景を丁寧に扱うことで、あの短時間であれだけの違いがでることに驚きました。表現に深みが増していました。そうなるのには、日頃の授業で基礎を積み重ね、身についている生徒だからこそだと思います。録音したもので、実際に効果を自分の耳で確かめることは、生徒に大きな自信を与えることにつながると思いました。参考にしたいです。教科横断的な指導の良さも知りました。音楽を大切に扱っている小野先生に力をいただきました。(教員：その他)

会　場	教科等	学年	授　　業　　者
常葉中学校	社　会	３年	白岩　恒雄（常葉中）

○　普段の空気の中で落ち着いて取り組めていた。弁護士を職業としている方の生の声をＶＴＲで観れる貴重な機会で、裁判で何が行われ、人を裁くとはどういうことなのかを実感できる授業だった。（教員：その他）

○　裁判員裁判制度が始まってから数年が経過したが、自分も含めて身近に裁判員を務めた人がいない現状では、別の世界での出来事に感じるのが実感だと思う。模擬裁判を通して、裁判運営や役割を知るとともに、有罪無罪の決定を下す責任性の重大さ、決定までのプロセスの中で状況証拠と物的証拠をどう取り扱えばよいか、推量だけでなく事実をひとつひとつ積み重ねて整合性をとっていく・・・などなど、これからの社会を担う中学生だからこそ、このような経験をもとに成長させることが重要であると感じた。最後の被告人の人生、加害者の人生、これからを左右する決断を下すのだという実感をもたせられるかが、この授業のミソなのかなと思いました。ありがとうございました。（教員：その他）

○　生徒たちは熱心に判決を下す話し合いをしていたと思います。内容的には、もう一歩踏み込んで、本当にその判決でよいのか葛藤場面があるとよいと思いました。（自分の下した判断が､人の人生､人権を左右することへの責任感等を感じさせることができる｡）そのためには、もう一時間の設定として、視点を変えて議論させる（例えば、被害者、加害者、家族等）とより深まった話し合いになるのではと思います。（教員）

○　落ち着いた雰囲気の中で生徒一人ひとりがしっかりと活動に参加していました。見取りとその後の助言が的確でした｡弁護士の話を聞くこともとても有効だと思っています。教師側が”主権者として”をどう捉えるかで、深まりの感じ方が違ってくるように思いました。”人権を守る”という点から「本当にそれでいいの」と問い詰めてもよかったと感じました。（教員：田村市）

○　別のクラスでは、全く異なる見解が多数を占めたことの紹介はとてもよかったと思います。（教員：田村市）

講 演 会	【講師】前西郷村立熊倉小学校長　佐 藤　　修　様
	【演題】「人権教育と私の実践」~ｱﾆﾒ「かっぱのすりばち」の活用を通して~

○　人権教育（自分も相手も大切にする）の重要性と恩深さを知ることができました。その分、指導も人の心を向き合わせたりするので、難しいのだと思いました。子どもたちに「何を残すのか」を明確にし、一緒に成長していきたいです。本日はありがとうございました。（教員：田村市）

○　とても楽しく聴かせていただきました。これからも人権教育をいく上で、参考にしたいと思います。（未記入）

○　心に残る名言、格言がたくさんありました。教師道も「一生勉強」だと感じました。初心に返り、本校の先生方と一緒に勉強していきたいと思いました。（教員）

○　とても楽しく聴かせていただきました。学校で子どもたちのために頑張っていきたいと思いました。（教員：田村市）

○　佐藤先生のとてもわかりやすいお話で、人権教育について考えさせられました。「かっぱのすりばち」を子どもに実態に応じて活用していきたいと思いました。ありがとうございました。（教員：その他）

○　「かっぱのすりばち」の絵本までつくってしまうなんてすごいなあと思いました。とても感動的なお話しでした。大変な時は大きく変わる時、とても心に響きました。すてきな言葉の数々、ありがとうございました。（教員：田村市）

○　とってもユニークな導入でつかみはＯＫ!!と思いました。漢字の話もとっても面白かったです。かっぱのすりばちができあがるまでの Chance、Change、多くの人との関わりがあったことがよくわかりました。左きき用はさみを使ってやってみたいと思いました。とっても楽しい講演でした。（教員：田村市）

○　かっぱのすりばち、最高でした。人権教育そのもののアニメでした。ありがとうございました。（人権擁護委員）

○　とても良いお話で、心が温かくなりました。（教員：田村市）

○　楽しく聴くことができました。かっぱのすりばち、よかったです。

○　漢字のつくりから導入し、空気を読むおもちゃまで、とても興味をもって聴きました。ありがとうございました。（教員：田村市）

○　人権教育研究発表会にふさわしい講演だったと思います。人権教育に関わる者として、初心にかえる思いでした。自分にできることは何なのか考え続けていきたいと思いました。（教員：田村市）

○　子どもが成長していくためには、自己肯定感を育んでいくことが大切であることを改めて感じました。子どもの良いところを見とり、都度ほめていく指導を考えていきたいと思いました。（教員：田村市）

○　経験を生かした興味をひく内容でした。最後まで楽しく、参考になるお話でした。

○　アニメ「かっぱのすりばち」いろいろと考えさせられました。学年に応じて、様々な切り口があります。実践例があれば、見てみたいです。（未記入）

○　大変貴重なよいお話を聞くことができました。いろいろと考えるきっかけになりました。ありがとうございました。（教員：その他）
○　子どもたちは真似で覚えると言われています。子どもたちには手本が必要なのだろうと思います。ほめる、叱る、自信をもたせ、子どもたちの豊かな人間性を育んでいきたい。（未記入）
○　とてもいい実践をうかがうことができました。人権教育についての意義を再確認できたと思います。ありがとうございました。（教員：田村市）
○　「かっぱのすりばち」すてきなお話で、涙が出ました。子どもたちにも見せて、考えさせたいと思いました。（道徳で活用）かん字のお話も楽しかったです。ありがとうございました。（教員：田村市）
○　ユーモアのある温かい先生のお話をきくことができて、とても楽しく、また勉強になりました。かっぱのお話、とてもよかったです。ありがとうございました。（教員：　）
○　大変勉強になりました。ありがとうございました。（教員：その他）
○　アニメや道具を用いた講演は、まるで小学校に戻って授業を受けているようで、素直に楽しめるすてきな時間だった。大変な準備だっただろうことが目に浮かび、人を喜ばせ楽しませるには、これだけの労力が必要なのかを勉強になりました。楽しい時間、学びの機会を本当にありがとうございました。（未記入）
○　佐藤先生の人の輪を感じることができました。自分自身のまわりにある chance にどれだけ気づき、変えていけるか で、成長していける、それが生徒、子どもたちの変化につながっていくのだと思った。広い意味での教育というものを教えていただきました。ありがとうございます。（教員：その他）
○　「かっぱのすりばち」初めて拝聴しました。母かっぱの心の深さ、優しさに感動致しました。人権教育の基本は、人に対する温かさ、優しさ、寛容さだと思います。母かっぱのような人間になりたいと思います。（教員）
○　「かっぱのすりばち」がとても素敵なお話でした。子どもたちにもぜひ見せてあげたいと感じました。（未記入）
○　「かっぱのすりばち」とても素敵な物語でした。小さな子どもたちにも考えさせられるものがあると思い、参考にしたいです。（教員：田村市）
○　「かっぱのすりばち」を幼稚園でも読み聞かせしたいと思いました。ありがとうございました。（教員：田村市）
○　大変印象に残りました。スパイスの効いたお話、ありがとうございます。（教員：　）
○　「なぜ人権教育が必要なのか」を教職員・児童生徒がどのように考えるかが、大きな課題だと思います。未来への先行投資になるか、机上の空論に終わるのか、指導者として今後も考えていきたいと思います。（その他、その他）

５　まとめ

平成29年度
田村市常葉地区人権教育研究発表会
平成２９年度
人権教育開発事業田村市常葉
中学校区人権教育研究発表会
演 題
人権教育と私の実践
「かっぱのすりばち」の活用を通して

まとめ　　～２年間の研究実践を終えて～

『よい授業は、よい人権教育である』

（９．８西向小学校研究公開における藤原　謙指導主事の指導講話より）

常葉地区では「中学校区」として、２年間の指定委託を受け幼稚園・小学校・中学校が研究実践を進めてきた。毎日の保育や授業において、子ども同士が、あるいは指導者と子どもが親和的な関係を築き、人権が尊重される保育・授業をめざしてきた。

この２年間、各校・園では本地区研究テーマの具現に向けて、人権が尊重される「授業づくり」「人間関係づくり」「環境づくり」を連動させて、さらに幼小中連携の要素を加味しながら実践を進めてきた。その結果、安心感のある学びの場において、自分のよさをほめられ、他のよさを認められるようになり、「自信に満ちた笑顔」が多く見られるようになった。

昨年度は、各校・園単独の研究実践を進めてきたが、今年度は幼小連携・小小連携をより意識した実践も進め、その一旦を本日公開するに至った。本地区においても児童数の減少が続いているが、その中にあって幼小の年齢を超えて、学校間を越えて、多くの交流の中で人権感覚を高めていくことを今後も継続して取り組んでいきたい。

課題も多く残されているが、２年間の成果と課題を踏まえ、各校・園でさらなる人権教育の推進に取り組んでいかなければならない。なぜなら『よい授業は、よい人権教育である』という言葉のとおりである。毎日が人権教育であることを肝に銘じなければならない。

これまで、本研究を様々な角度から支えていただいた福島県教育委員会、県中教育事務所、田村市教育委員会をはじめ、ご指導・ご助言をいただいた多くの先生方、関係各位に心より感謝し、２年次研究のまとめといたします。

田村っ子のルール10

あたりまえのことを あたりまえに思って あたりまえに行動する

【ルール1】
あいさつをしよう

【ルール2】
はっきりとした声で
返事をしよう

【ルール3】
「ありがとう」と言おう

【ルール4】
素直にあやまろう

【ルール5】
きちんとかたづけよう

【ルール6】
うそはつかない

【ルール7】
相手の目を見て話そう

【ルール8】
時間を守ろう

【ルール9】
相手のいいところを
見つけよう

【ルール10】
はきものをそろえよう

Students Rule10

Tamura city

Rule1 : Exchange greetings.
Rule2 : Respond with a clear voice.
Rule3 : Say「Thank you」.
Rule4 : Apologize sincerely.
Rule5 : Clean up properly.
Rule6 : Always be honest.
Rule7 : Look the person in the eye when you speak.
Rule8 : Be punctual.
Rule9 : Find the goodness of people.
Rule10 : Arrange your shoes neatly.

（カット：朝倉悠三）

【田村市教育委員会】